ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル 0570-007111
ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　03-5351-9410
携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX　03-3356-6303

受付時間　10:00～18:00（土・日・祝日定休）

9223-2773-61 P-B108

MINOLTA DiMAGE 7 / DiMAGE 5 使用説明書

MINOLTA

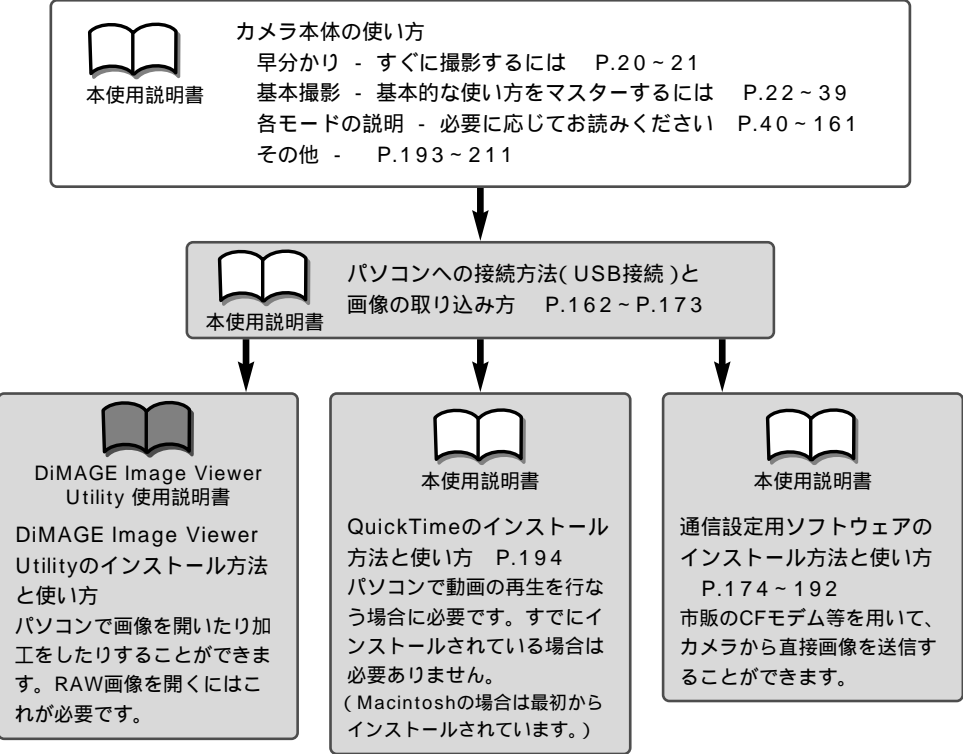
The essentials of imaging

www.minolta.com

DiMAGE 7
DiMAGE 5

J 使用説明書

基本撮影
撮影モード
再生モード
セットアップモード 通信モード
その他

DiMAGE 7／DiMAGE 5 使用説明書の構成

部分は別売りのディマージュインターフェースキット IF-DG7 が必要です。
（DiMAGE Image Viewer Utilityの使用説明書はディマージュインターフェースキットIF-DG7 に入っています。）

目次

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発熱注意）

⚠ 警告

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因となりますので、次のことは必ずお守りください。

- ●指定された電池以外は使わないでください。
- ●電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。
- ●表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池は使用しないでください。
- ●電池のショート、分解、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。また金属類と一緒に保管しないでください。
- ●新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池、充電状態の異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- ●アルカリ電池は充電しないでください。
- ●充電式電池を充電する場合は、専用の充電器をご使用ください。
- ●万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

⚠警告

ACアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

⚠警告

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにご連絡ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

ACアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、アダプター本体を持って抜いてください。
コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに交換をご依頼ください。

⚠ 警告

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。
使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

⚠ 注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やコンパクトフラッシュカードを取り出さないでください。
電池が熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

⚠ 注意

レンズフードの先端を身体等に強くぶつけないでください。
ケガの原因となります。

ACアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時にアダプターが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

製品上のマークについて

このマークは、この装置が情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置であることを示しています。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

このマーク（CEマーキング）は、本製品が電気安全・電波障害に関するEU（欧州連合）の要求事項に適合していることを示すものです。CEとはフランス語のConformité Européenne（ヨーロッパ認定）の頭文字です。

はじめに

お買い上げありがとうございます。
この製品は、高画素CCDに7倍ズームを搭載した、レンズ一体型一眼レフタイプのデジタルカメラです。ミノルタ独自の画像処理 "CxProcess" を搭載し、風景から人物、遠くの被写体まであらゆる撮影領域に対応するとともに、デジタルエフェクトコントロールなど多彩な機能を搭載し、画質や機能にこだわる方にも満足して撮影・再生・画像処理等お楽しみいただけます。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

この使用説明書は2001年7月に作成されたものです。それ以降に発売されたアクセサリーと組み合わせた場合の使用方法については、本書裏表紙に記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録をお済ませください。同梱されているユーザー登録カードに記入して送付していただくか、登録カードに記載の弊社ホームページでオンライン登録を行なってください。

WindowsおよびMicrosoftは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
MacintoshおよびAppleは、米国アップルコンピュータ社の米国およびその他の国における商標です。
CompactFlashは、米国SanDisk社の商標です。
MICRODRIVEは、日本IBMの商標に関するものです。
その他の会社名や製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

内容物の確認

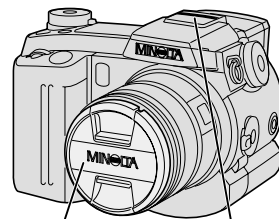
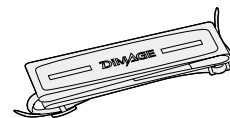
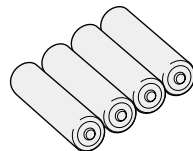
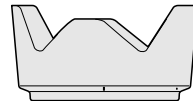
お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ本体
（ミノルタDiMAGE 7／DiMAGE 5）

レンズキャップ
LF-1249

アクセサリーシューキャップ
SC-9

ネックストラップ NS-DG7

単3形アルカリ電池4本

レンズフード DLS-7

ビデオケーブル VC-100

本使用説明書
アフターサービスのご案内
ユーザー登録カード

なお、別売りのディマージュインターフェースキット IF-DG7 に梱包されているのは以下の通りです。

- **ディマージュソフトウェアCD-ROM**
  （画像表示ソフト DiMAGE Image Viewer Utility（通信設定ウィザードを含む）、Windows98/98SE用USBドライバ、QuickTime）
- **USBケーブル USB-100**
- **16MBコンパクトフラッシュカード**
- **DiMAGE Image Viewer Utility用使用説明書**

各部の名称

*の付いたところは、直接手で触れないでください。（　）内は参照ページです。

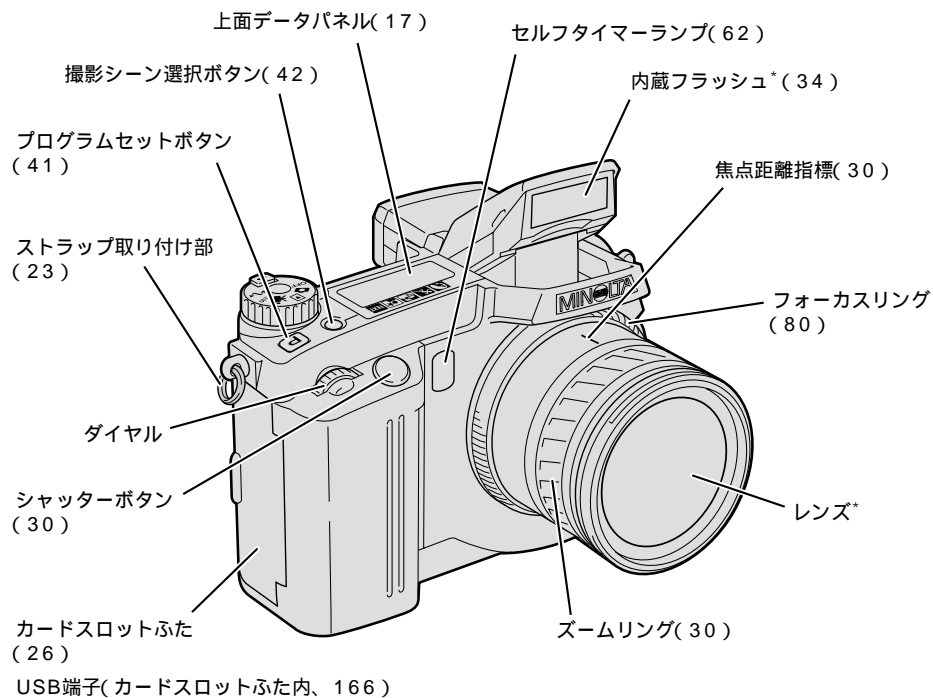
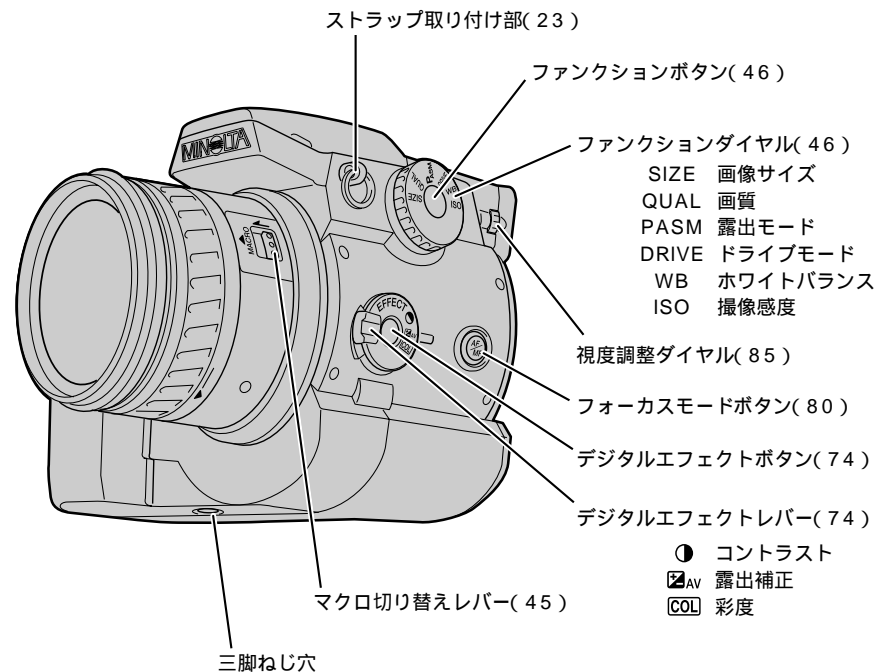
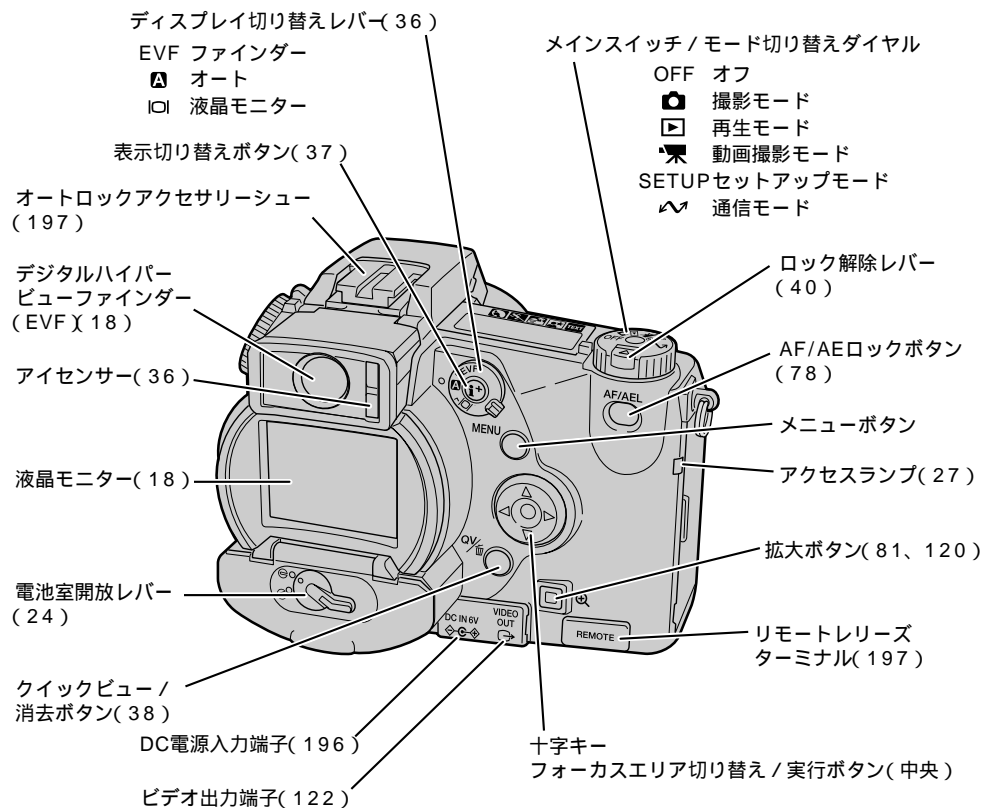
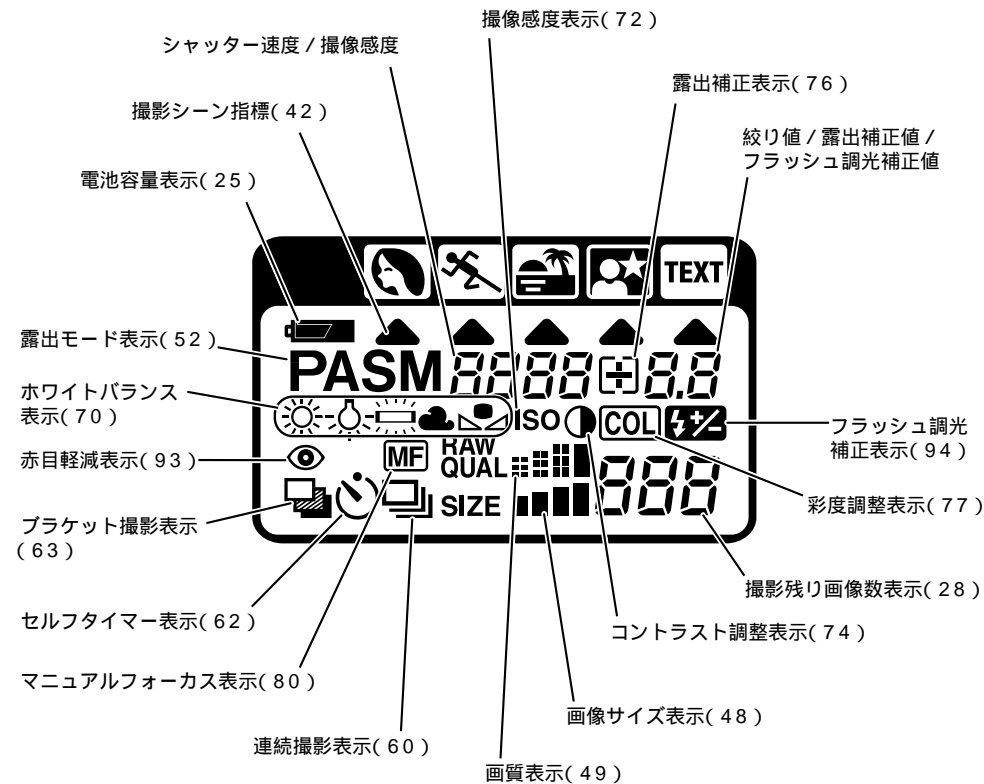
ボディ前面

ボディ側面

ボディ背面

上面データパネル

撮像感度表示（72）
シャッター速度／撮像感度
露出補正表示（76）
撮影シーン指標（42）
絞り値／露出補正値／フラッシュ調光補正値
電池容量表示（25）
露出モード表示（52）
ホワイトバランス表示（70）
フラッシュ調光補正表示（94）
赤目軽減表示（93）
彩度調整表示（77）
ブラケット撮影表示（63）
撮影残り画像数表示（28）
セルフタイマー表示（62）
コントラスト調整表示（74）
マニュアルフォーカス表示（80）
画像サイズ表示（48）
連続撮影表示（60）
画質表示（49）

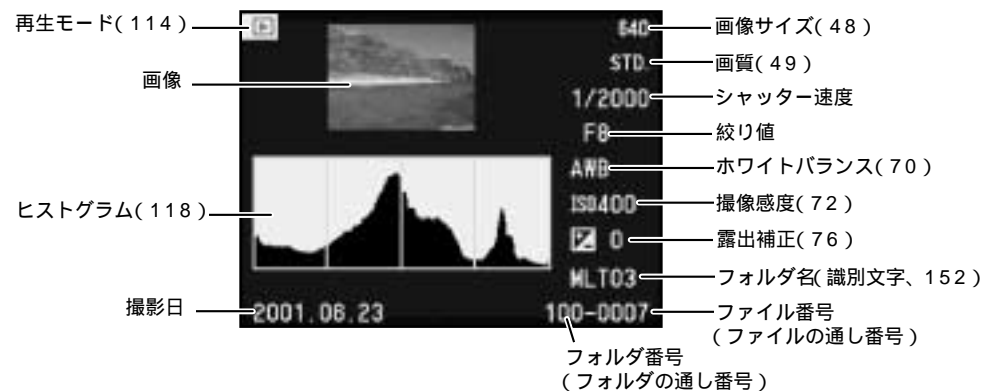
TEXT
PASM
ISO
COL
MF
RAW
QUAL
SIZE

デジタルハイパービューファインダー（EVF）・液晶モニター

デジタルハイパービューファインダーと液晶モニターの表示は同一です。

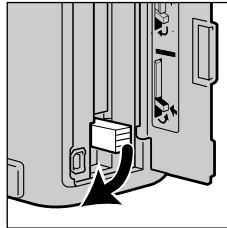
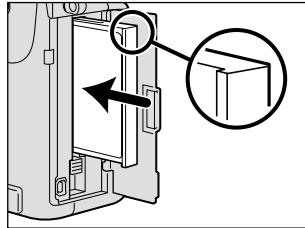
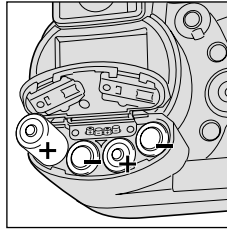
撮影モード時

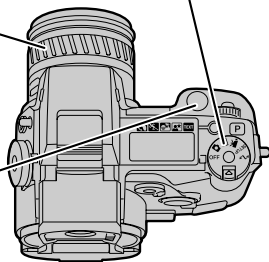
再生モード・1コマ再生時

再生モード・ヒストグラム表示（117）

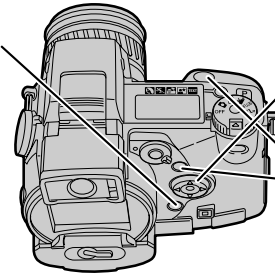
早分かり　詳しくは本文をご覧ください。

準備をする

1. 電池を入れます。→P.24

2. コンパクトフラッシュカードを入れます。→P.26

撮影する

1. モード切り替えダイヤルを 📷 に合わせます。→P.30
2. ズームリングを回して撮りたいものの大きさを決めます。→P.30
3. シャッターボタンを押します。→P.31

撮影した画像を確認する（クイックビュー）→P.38

1. 撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。

2. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。
3. シャッターボタンの半押しまたはメニューボタンで元の撮影モードに戻ります。

画像を消去する →P.38

1. 撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。
2. 十字キーの左右で消去したい画像を選びます。
3. もう一度クイックビュー／消去ボタンを押します。
4. 右の画面が出た後、十字キーの左側で「はい」を選び、十字キーの中央を押すと消去されます。

● 「いいえ」のままで十字キーの中央を押すと消去されません。

⚠ このコマを消去しますか？

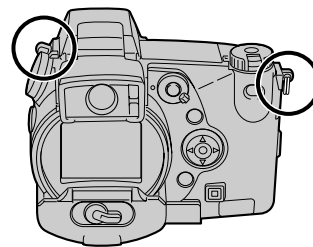
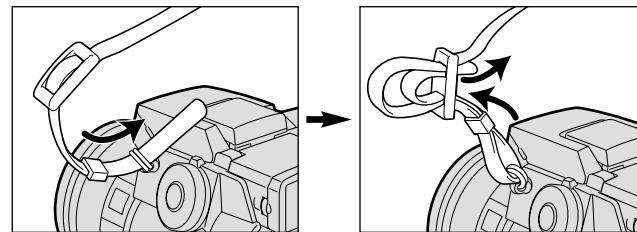
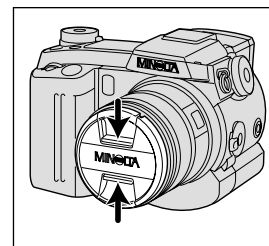
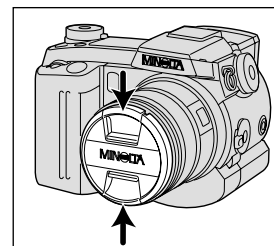
はい　いいえ

5. シャッターボタンの半押しまたはメニューボタンで元の撮影モードに戻ります。

基本撮影

この章では、カメラの準備および最も基本的な撮影方法・再生方法を説明しています。

ストラップとレンズキャップ

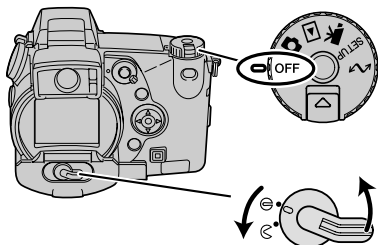
ストラップ

ストラップ取り付け部は2ヵ所あります。ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。

レンズキャップ

レンズキャップを取り外します。左図の2通りの取り付け・取り外し方が可能です。

- 右側の方法はフードを取り付けたままレンズキャップの取り付け・取り外しを行なう際に便利です。

電池の入れ方

単3形アルカリ電池4本または単3形ニッケル水素電池4本を使用します。

● ご購入時には新品電池を入れておりますが、デジタルカメラでは一般的に電池の消耗が早く、付属の電池も含めてアルカリ電池は短時間で消耗してしまうことがあります。ニッケル水素電池の使用をおすすめします。

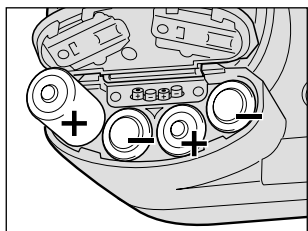
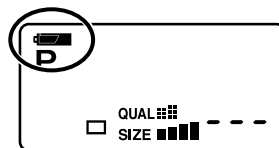
● ニッケル水素電池は、指定の充電器でフル充電してからお使いください。

1. メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFに合わせます。

● モード切り替えダイヤルを の位置から動かす場合は、ロック解除ボタンを △ の方向に押しながらダイヤルを回します。

2. 電池室開放レバーを に合わせます。

● ふたのロックが外れるので、ふたを開けます。

3. 電池室内部の表示にしたがって電池を入れます。

4. ふたを閉めて押さえながら、電池室開放レバーを ⊖ に合わせます。

電池容量の確認

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFF以外にすると、電池の容量が上面データパネルと液晶モニターに表示されます。

点灯　電池容量は十分です。
（液晶モニターでは5秒後に消えます。）

点灯　電池の交換をおすすめします。
この状態でも撮影はできます。

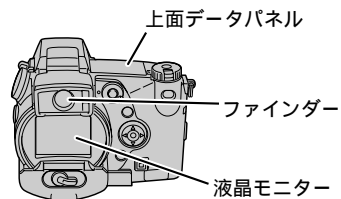
のみ点滅（上面データパネルのみ）
新しい電池と交換してください。
シャッターは切れません。

● 何も表示されないときは、電池の向きを確認してください。

● ご購入時の電池は出荷時に入れたものなので、通常購入される電池と比べて消耗が早い場合があります。

● 長時間の撮影や再生には、別売りのACアダプターや外部電源パックをおすすめします。→P.196

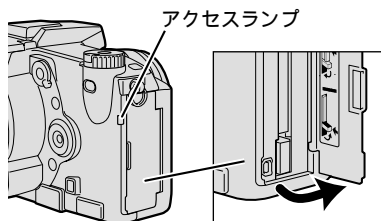
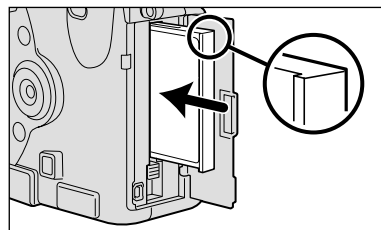
● が点滅した場合、古い電池はカメラから抜いてください。古い電池を入れたままACアダプターや外部電源パックを接続してもお使いになれません。

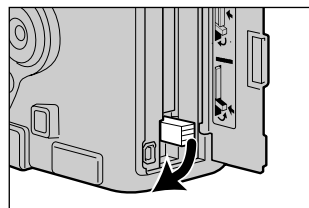
パワーセーブ（操作しないでいると表示が自動的に消えます）

このカメラは、約30秒以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に液晶モニターが消灯します。また約1分以上何も操作をしないでいると、自動的に上面データパネルとファインダー（EVF）も消灯します（パワーセーブ）。シャッターボタンを軽く押すかメインスイッチ／モード切り替えダイヤルを回せば、撮影が再開できます。

● パワーセーブまでの時間（初期設定は1分）を変更することができます。→P.148

コンパクトフラッシュカードの入れ方／取り出し方

入れ方

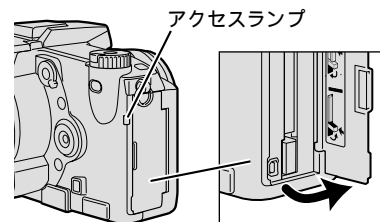
画像を記録するには、コンパクトフラッシュカード（以下CFカードまたはカード）が必要です。別売りのインターフェースキット IF-DG7 に付属のCFカードは、そのままこのカメラに入れてお使いになれます。

1.メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFにして、アクセスランプが消えているのを確認し、カードスロットふたを開けます。

2.CFカードの▲マークのある面をレンズ側に、細長い突起部分を図の向きにして、スロットにカードを入れます。

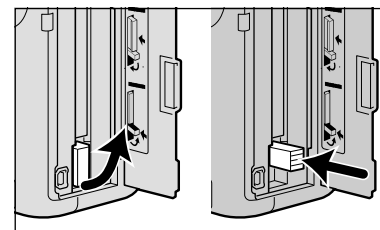
- カード取り出しレバーが出て来るまで、中央をまっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめてください。

3.カード取り出しレバーを倒します。

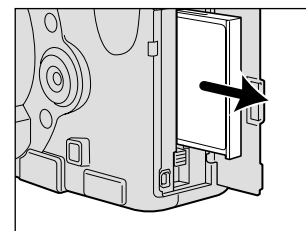
4.ふたを閉めます。

- CFカードの代わりにマイクロドライブの使用も可能です。

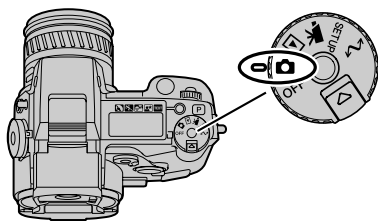
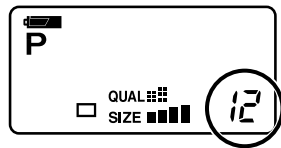
※カードを入れると液晶モニターにメッセージが現れる場合は →P.200

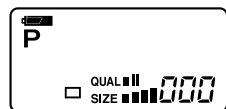
取り出し方

1.モード切り替えダイヤルをOFFにして、アクセスランプが消えているのを確認し、カードスロットふたを開けます。

アクセスランプ点灯中は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

2.カード取り出しレバーを起こし、中に押し込みます。

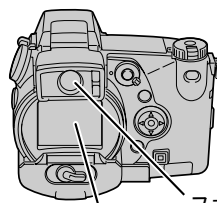
- カードが出てきます。

3.カードを取り出し、ふたを閉めます。

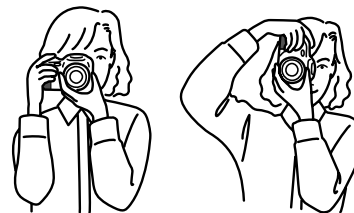
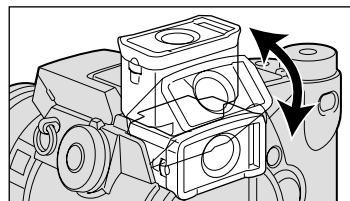
- 長時間使用した直後のカードは熱くなっていますので、注意してください。

撮影残り画像数の見方

CFカードを入れてメインスイッチ／モード切り替えダイヤルを 📷 に合わせると、上面データパネルと液晶モニターに、撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

1枚のCFカードに記録できる画像数は、カードの容量、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。インターフェースキットに付属のCFカードで初期設定で撮影する場合、記録できる画像数はDiMAGE 7で約15枚、DiMAGE 5で約16枚です（カード容量16MB、画像サイズFULL、画質スタンダード）。

● 異なる容量のカードを使用した場合や、画像サイズ・画質を変更した場合、また動画撮影を行なった場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。※詳細は →P.51

● 000が表示されたときは、カードがいっぱいです。カードを交換するか、カード内の画像を消去してください。画像サイズや画質を変更すると撮影できることもあります。

● ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては表示されている画像数が多少上下することがあります。
● 残り画像数が999枚を超える場合は、999と表示されます。999枚以下になるとカウントが始まります。

カメラの構え方

撮影される画像は、カメラ背面のデジタルハイパービューファインダー（EVF、以下ファインダー）と液晶モニターに表示されます。両者の表示内容は同じです。
初期設定ではファインダーをのぞけば液晶モニターは消灯し、ファインダーから目を離せば液晶モニターが点灯します。※設定を変えるには →P.36
カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

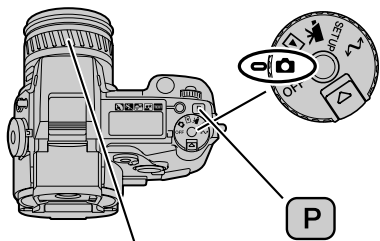
ファインダーを見て撮影する

ファインダーをのぞいて撮影すると、カメラをしっかり構えることができ、手ぶれが起こりにくくなります。
● 右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側を持って支えます。
● 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。
● 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、望遠側で撮影する場合は、手ぶれが起こりやすくなります。三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。

ファインダーは、0 °～90 °の間で自由に角度を調整することができます。低い位置の被写体を撮影する場合に便利です。

液晶モニターを見て撮影する

基本的な構え方は、ファインダーを見て撮影する場合と同じです。手ぶれが起こりやすいので、ぶれないようにカメラをしっかり構えて撮影してください。

フルオート撮影

ここでは、すべての設定がカメラまかせのフルオート（全自動）撮影について説明しています。

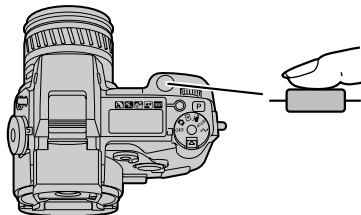
広角側
望遠側

1.メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを に合わせます。

- ダイヤルをOFFの位置から動かす場合は、ロック解除ボタンを △ の方向に押しながら回します。
- 撮影モードになります。

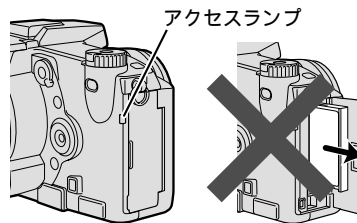
2.プログラムセットボタンを押します。

- カメラはフルオートの状態になります。特に設定を変えない限り、毎回押す必要はありません。※フルオートについて →P.41

3.液晶モニターまたはファインダーをのぞき、ズームリングを回して構図を決めます。

- [　]の中のものにピントが合います。※ピントが合わないときは →P.32
- フラッシュを発光させたいときは、内蔵フラッシュを上げてください。→P.34
- ズームリング上の焦点距離は、35mmフィルム換算時に相当する値です。※換算表は →P.198

4.シャッターボタンを半押しします。

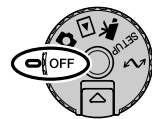
- シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

- 半押しするとピントが合います。ピントが合って固定されると、ピント合わせに使われたセンサーが一瞬赤く表示され、ピントの合っている位置をお知らせします。ピントが合うと、同時に画面右下に白い が点灯します。

5.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 撮影された画像が自動的にCFカードに記録（保存）されます。書き込み中はアクセスランプが点灯しますので、その間はカードや電池を抜かないでください。

- カメラから約50cm以上離れたものにピントが合います。それより近くを撮影する場合は、マクロモードを使用してください。→P.45
- 画面の表示の有無を切り替えることもできます。→P.37

- 液晶モニター／ファインダー内に が出たときは、逆光なのでフラッシュ撮影をおすすめします。→P.34

また が出たときは、シャッター速度が遅くなっているので手ぶれの恐れがあります。フラッシュ撮影または三脚の使用をおすすめします。

- 撮影後は、ロック解除ボタンを △ の方向に押しながら、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFに合わせて電源を切ってください。
- レンズキャップをはめて保管してください。

ピント合わせ

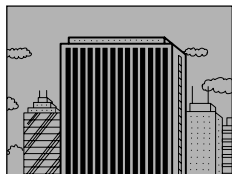
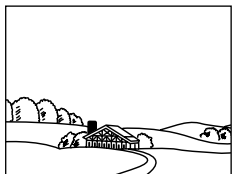
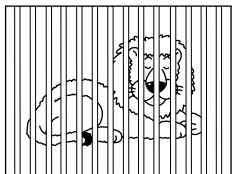
フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われます。ピントが合うと、フォーカスフレーム［　］の中で実際にピント合わせに使われたセンサーが一瞬赤く表示されます。

液晶モニターまたはファインダー内の◌はフォーカス表示です。この色によりピントの状態をお知らせします。
白色：　ピントが合って固定されています。
赤色：　ピントが合っていません。

赤い◌が点灯したときは、被写体がカメラより約50cm以上離れているか、オートフォーカスの苦手な被写体（以下）を撮影しようとしていないか確認してください。そのまま撮影すると、フラッシュが発光する場合は約3～3.8m、発光しない場合は約5m～無限遠の間（ズーム位置による）にピントが合います。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、フォーカスロック撮影をおすすめします。→次ページ

暗すぎるもの

青空や白壁など
コントラストのないもの

［　］の中に
距離の異なるものが
混じっているとき

太陽のように
明るいものや、
車のボディ、水面など
きらきら輝いているもの

被写体が［　］に入らないときは（フォーカスロック撮影）

ピントを合わせたいものが［　］に入らないときに、そのまま撮影すると、［　］と重なっている背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

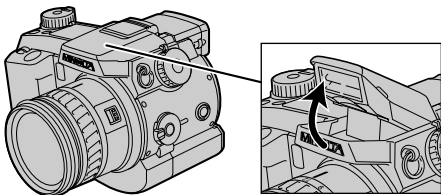
1.ピントを合わせたいものに［　］を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

- 画面右下に白い◌が点灯します。

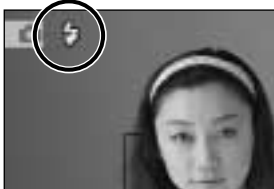
2.シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

3.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- ピントと同時に露出も固定されます（多分割測光時のみ）。画面左下のシャッター速度と絞り値が黒く反転してお知らせします。
- ピント合わせの方法として、他にもAF/AEロックボタンを使った方法（→P.78）や、自由にピント合わせの位置が決められるフレックスフォーカスポイント機能（→P.79）があります。

フラッシュ撮影

フラッシュを発光させるときは、内蔵フラッシュを手で上げてください。上げていると必ず発光します。

フラッシュを発光させないときは、内蔵フラッシュを手で押し下げてください。

フラッシュ表示

フラッシュが発光する場合、シャッターボタンを半押しすると、液晶モニター／ファインダー内にフラッシュ撮影表示 が現れます。内容は以下の通りです。

赤色点灯： フラッシュが充電中です。
　　　　　白になってから撮影してください。
白色点灯： フラッシュの充電が完了しました。撮影できます。
青色点灯（撮影後）： フラッシュ光が被写体に届きました。

撮影後に青い が現れなかった場合は、フラッシュ光が被写体に届いていません。フラッシュ光の届く距離を確認してください。→次ページ

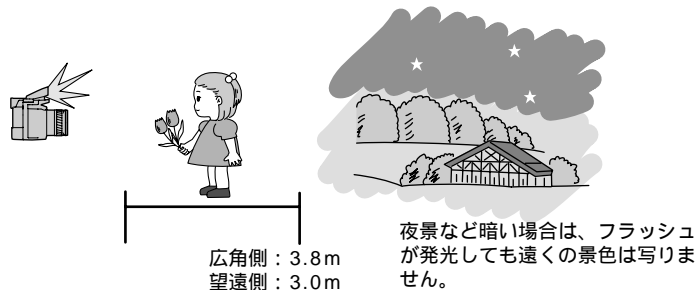
逆光時に内蔵フラッシュが下がったままだと、 が現れます。フラッシュを発光させて撮影することをおすすめします。

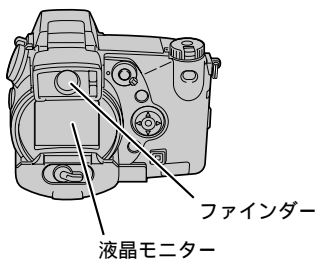
● このカメラではフラッシュの発光量を正確に決めるため、フラッシュ発光時には撮影の直前に一度フラッシュが発光します（プリ発光）。よって本発光と合わせてフラッシュが2回続けて発光します。※詳しくは→P.97

フラッシュ光の届く距離

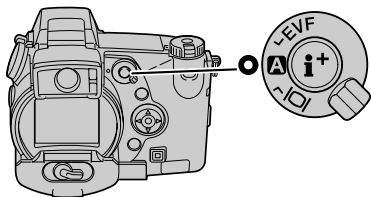
フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では3.8m、最望遠側では3.0mを目安に撮影してください（撮像感度AUTO時）。

広角側：3.8m
望遠側：3.0m

夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

● 撮像感度を変更すると、フラッシュ光の届く距離が変わります。→P.72

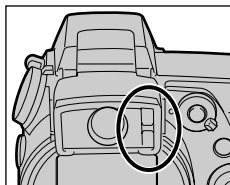
画面表示

撮影される画像は、カメラ背面の液晶モニターまたはデジタルハイパービューファインダー（EVF*、以下ファインダー）に表示されます。両者の表示内容は同じです。
初期設定ではファインダーをのぞけばファインダーが点灯し、ファインダーから目を離せば液晶モニターが点灯します。

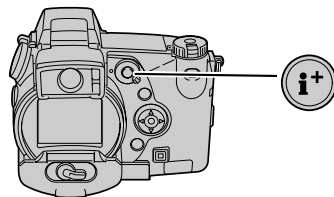
*EVF = Electronic Viewfinder（電子ビューファインダー）の略

液晶モニターとファインダー（EVF）の切り替え

ディスプレイ切り替えレバーを回すと、画面の表示場所を選ぶことができます。

EVF　ファインダーのみに表示
A　AUTO（自動切り替え）
ファインダーをのぞいているときはファインダーに表示、のぞいていないときは液晶モニターに表示
|O|　液晶モニターにのみ表示

● 電池の消耗量を減らしたいときは、液晶モニターの表示をなくして、のぞいているときのみファインダーを点灯させる方法もあります。→P.158

ファインダーをのぞいている／いないの判別方法

ファインダー横にはアイセンサーがあり、何かが近づく（＝撮影者がファインダーをのぞく）のを検知することができます。A（自動切り替え）にしたときの液晶モニターとファインダーの切り替えは、このアイセンサーによって、ファインダーをのぞいている／いないを判別して行われます。

画面表示の切り替え（撮影モード時）

画面内の表示は、大きく警告表示と撮影データに分けることができます。これらの表示の有無を切り替えることができます。

表示切り替えボタンを押します。

● ボタンを押すごとに画面が以下の順序で切り替わります。

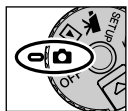
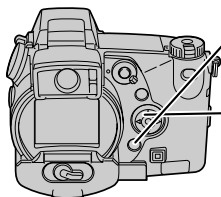
● 警告表示とは、赤色で表される表示のことです。
● この使用説明書では、すべてを表示させた状態（左端）で説明しています。

※表示の詳細については →P.18

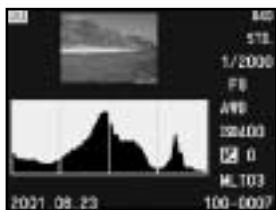
● DiMAGE 7の場合、暗いところでも液晶モニターを見やすくするため、一定以下の暗さになるとモニターが自動的に白黒表示になります（モニター自動感度アップ機能）。

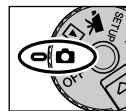
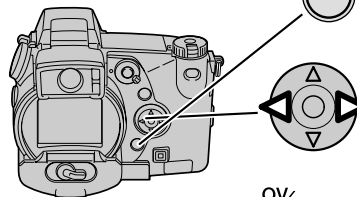
撮影した画像を確認する／消去する

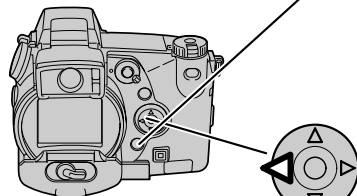
画像を確認する（クイックビュー）

撮影した画像を簡単に見ることができます。

1. 撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。
- 直前に撮影された画像がファインダーまたは液晶モニターに現れます。

2. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。

3. シャッターボタンを半押しすると撮影モードに戻ります。
- メニューボタンでも戻ります。

※再生モードに入るときは →P.114

- 十字キーの上側を押すとヒストグラム表示になります。→P.117
  戻るときは十字キーの下側で戻ります。

画像を手早く消去する

クイックビューの状態で、画像を簡単に消去することができます。

1. 撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。
- 直前に撮影された画像がファインダーまたは液晶モニターに現れます。

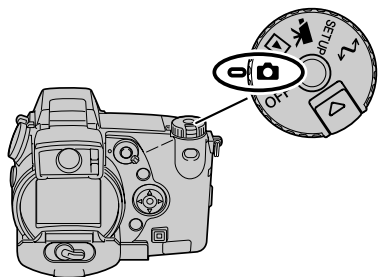
2. 十字キーの左右で消去したい画像を選びます。

3. もう一度クイックビュー／消去ボタンを押します。
- 右の画面が現れます。
- 消去しない場合は、この状態で十字キー中央の実行ボタンを押してください。

⚠ このコマを消去しますか？
はい　いいえ

4. 十字キーの左側で「はい」を選びます。

⚠ このコマを消去しますか？
はい　いいえ

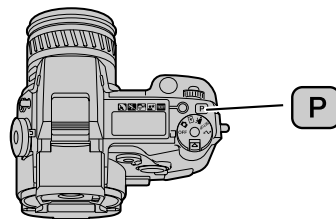
5. 十字キー中央の実行ボタンを押します。
- 選んだ画像が消去されます。
- さらにシャッターボタンを半押しする（またはメニューボタンを押す）と、通常の撮影モードに戻ります。

※再生モードで消去するときは →P.126

撮影モード

この章では、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが 位置（撮影モード）にあるときの各種設定について説明しています（動画撮影を除く）。

- ダイヤルをOFFまたは の位置から動かす場合は、ロック解除ボタンを △ の方向に押しながらダイヤルを回します。

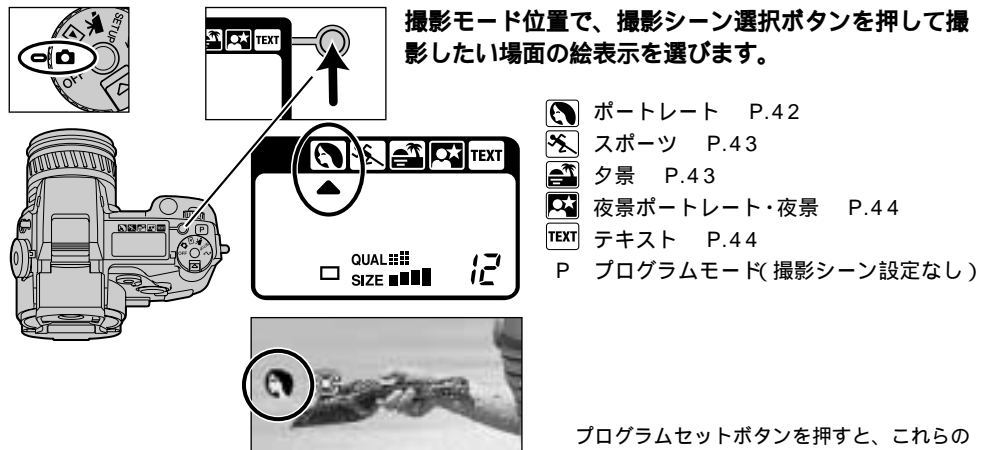
ダイヤルを 位置（撮影モード）にしていると、ファインダー／液晶モニター内の左上に が現れます。

プログラムセットボタン

プログラムセットボタンを押すと、カメラはフルオートの状態になります。この章（撮影モード）で説明している機能の一部は、プログラムセットボタンを押すと以下の状態になります。

項目	設定	説明	ページ
露出モード	Pモード	シャッター速度と絞り値が自動的に決まります。 デジタル撮影シーンセレクターは解除されます。	42 52
ドライブモード	1コマ撮影	シャッターボタンを押すごとに1枚ずつ撮影されます。	60
ホワイトバランス	オート	ホワイトバランスは自動的に設定されます。	70
コントラスト	±0	—	74
露出補正	±0	—	76
彩度	±0	—	77
フォーカスフレーム	ワイド	画面内の［　］の中のものにピントが合います。	—
フォーカスモード	オートフォーカス ワンショットAF	シャッターボタンを押すと自動的にピントが合います。 ピント位置はそのまま固定されます。	— 88
測光モード	多分割測光	画面を多数に分割して測光を行ないます。	90
フラッシュモード	通常発光または 赤目軽減発光	後幕シンクロは解除され、 通常発光または赤目軽減発光のうち、 最後に設定した方に戻ります。	92
調光補正	±0	—	94
調光モード	ADI 調光	—	96
シャープネス	標準	—	106

- ここに記載されていないものは、プログラムセットボタンを押しても変わりません。

デジタル撮影シーンセレクター

撮影したい場面を絵表示で選ぶだけで、その場面に合った写真を撮ることができます。

撮影モード位置で、撮影シーン選択ボタンを押して撮影したい場面の絵表示を選びます。

- ポートレート →P.42
- スポーツ →P.43
- 夕景 →P.43
- 夜景ポートレート・夜景 →P.44
- テキスト →P.44
- P プログラムモード（撮影シーン設定なし）

● プログラムセットボタンを押すと、これらの設定はP（撮影シーン設定なし）に戻ります。

ポートレート

人物を引き立たせるようなやわらかいぼけ味を表現するとともに、人の肌がなめらかに写るようなデジタル処理を行ないます。

● 背景をよりぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。
● 逆光のときはフラッシュの使用をおすすめします。フラッシュを使わない場合は、画面に余分な光が写り込むのを防ぐため、フードの使用をおすすめします。→P.86

スポーツ

速く動いているものでもぶれにくいよう、高速寄りのシャッター速度で撮影を行ないます。

● このモードでは、被写体の動きに応じて常にピント位置が調整され続けます（コンティニュアスAF、→P.88）。
● フラッシュ光が届かない場合はフラッシュを使用しないでください（内蔵フラッシュを下げてください）。※フラッシュ光の届く距離 →P.35

夕景

夕焼けの赤さを美しく再現することができます。

● レンズを長時間太陽に向けたまま放置しないでください。CCD（撮像素子）を傷める原因となります。やむを得ず置く場合はレンズキャップを取り付けてください。

夜景ポートレート・夜景

明かりのない暗い部分は黒く、明るい部分は明るく写し出すことにより、美しい夜景を描写することができます。

夜景ポートレート撮影（人物＋夜景）
フラッシュを上げて発光させてください。

夜景撮影（夜景のみ）
フラッシュは下げたまま発光させずに撮影してください。

● シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用してください。また夜景ポートレート撮影の場合、撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してください。

テキスト

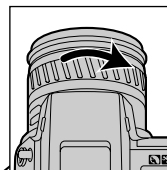
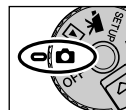
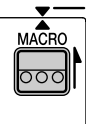
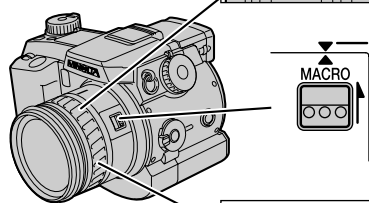
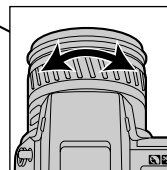
白地に書かれた文字がはっきりと見えるような撮影を行ないます。（普通に撮影すると白地が灰色になります。）

● カメラから約50cm以内のものを撮影するときはピントが合わないので、マクロ撮影を行なってください。→次ページ

マクロ撮影

カメラ内のCCD*の位置から約25〜60cm（レンズ先端より約13cm〜48cm）の間のものを撮影するときに使います。

● 25cm未満のものにはピントが合いません。

*CCD＝カメラ内で被写体の映像を受け取る部分、つまり通常のカメラのフィルムにあたる役割を果たす部分。CCDの位置については →P.80

1. ズームリングを望遠側の先端まで回します。

2. マクロ切り替えレバーを矢印の方向にスライドさせます。

3. ズームリングを回して微調整を行ないます。

● ズームリング上の▼¯ ¯がマクロ撮影範囲です。この範囲内でズームを行なうことができます。

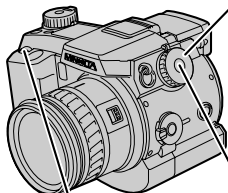
● マクロ撮影になっているときには、液晶モニター／ファインダー下部に が表示されます。

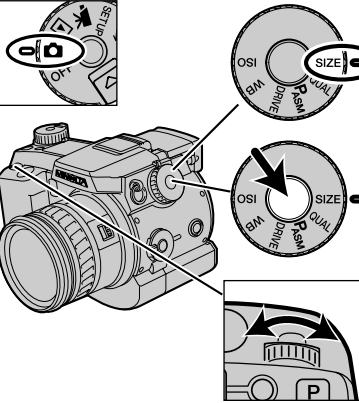
● 内蔵フラッシュは、レンズにさえぎられて画面下部まで光が届かないのでおすすめできません。フラッシュ撮影が必要な場合にはマクロフラッシュまたはディフューザーの使用をおすすめします。→P.197

ファンクション設定

カメラ側面のファンクションダイヤルにより、画像サイズ、画質等撮影時の主な設定を変更することができます。

1.撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回して変更したい項目を選びます。

SIZE	画像サイズ
QUAL	画質
PASM	露出モード
DRIVE	ドライブモード
WB	ホワイトバランス
ISO	撮像感度

2.ファンクションボタンを押したままダイヤルを回して、希望の設定を選びます。

● 上面データパネルと液晶モニター／ファインダー内に、変更された設定が表示されます。

ﾀﾞｲﾔﾙ	項目	上面ﾃﾞｰﾀﾊﾟﾈﾙ	ﾌｧｲﾝﾀﾞｰ・ﾓﾆﾀｰ	内容
SIZE	画像サイズ →P.48	SIZE	2560 2048	○2560 x 1920 (FULL) ※DiMAGE 7にて ○2048 x 1536 (FULL) ※DiMAGE 5にて
		SIZE	1600	1600 x 1200 (UXGA)
		SIZE	1280	1280 x 960 (SXGA)
		SIZE	640	640 x 480 (VGA)
QUAL	画質 →P.49	QUAL	S.FIN	スーパーファイン（超高画質、TIFF画像）
		QUAL	FINE	ファイン（高画質、JPEG画像）
		QUAL	STD.	○スタンダード（標準、JPEG画像）
		QUAL	ECON.	エコノミー（低画質、JPEG画像）
		RAW QUAL	RAW	RAW（生データ）
PASM	露出モード →P.50	P	P	○P（プログラム）モード
		A	A	A（絞り優先）モード
		S	S	S（シャッター速度優先）モード
		M	M	M（マニュアル）モード
DRIVE	ドライブモード →P.60	□	□	○1コマ撮影
				連続撮影
				セルフタイマー撮影
				デジタルエフェクトブラケット撮影
		Int		インターバル撮影
WB	ホワイトバランス →P.70	表示なし	表示なし	○オート（自動設定）
				昼光
				白熱灯
				蛍光灯
				曇天
				カスタム
ISO	撮像感度 →P.72	表示なし	表示なし	○オート（自動設定）
		ISO	ISO 100	手動設定（左の場合はISO 100相当）

○印は初期設定値です。

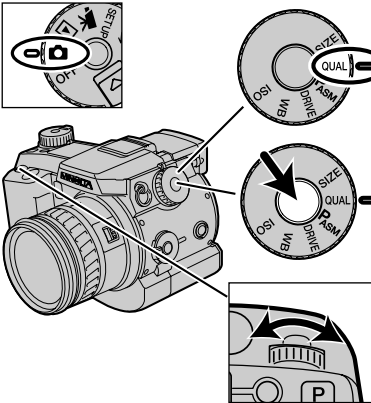
ホワイトバランスと撮像感度の自動設定は、撮影中は表示なしですが、設定中はAutoが表示されます。

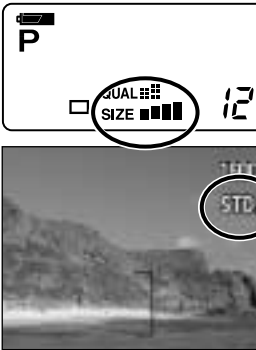
画像サイズ

画像をパソコンに取り込んだときの大きさを指定できます。サイズを大きくすればするほど、1枚のコンパクトフラッシュカードに記録できる枚数は減ります。※詳細は→P.51

1. 撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してSIZEを選びます。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の画像サイズを選びます。

● 初期設定はFULLで、DiMAGE 7では 2560×1920画素、DiMAGE 5では2048×1536画素に相当します。

上面ﾃﾞｰﾀﾊﾟﾈﾙ	ﾌｧｲﾝﾀﾞｰ・ﾓﾆﾀｰ	画像サイズ（記録画素数、単位ピクセル）
SIZE ▮▮▮▮	2560 2048	2560 x 1920 (FULL) ※DiMAGE 7にて 2048 x 1536 (FULL) ※DiMAGE 5にて
SIZE ▮▮▮	1600	1600 x 1200 (UXGA)
SIZE ▮▮	1280	1280 x 960 (SXGA)
SIZE ▮	640	640 x 480 (VGA)

● 画質をRAWにする（→次ページ）と、画像サイズはFULLで固定され、表示はされなくなります。

画質

エコノミー（低画質）～スーパーファイン（超高画質）の4種類とRAWの計5種類から選ぶことができます。高画質になるほど、1枚のコンパクトフラッシュカードに記録できる枚数は減ります。※詳細は→P.51

1. 撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してQUAL*を選びます。

*QUAL＝Quality（質）の略

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の画質を選びます。

● 初期設定はスタンダードです。

● JPEG（ジェイペグ）は写真データとして最も一般的なファイル形式で、オリジナルの画像を効率良く圧縮して容量を小さくしたものです。一方、TIFF（ティフ）は圧縮されておらず、画質は最高ですが容量は大きくなります。※RAWについては →次ページ

上面ﾃﾞｰﾀﾊﾟﾈﾙ	ﾌｧｲﾝﾀﾞｰ・ﾓﾆﾀｰ	画質
QUAL	S.FIN	スーパーファイン（超高画質、TIFF）
QUAL	FINE	ファイン（高画質、JPEG）
QUAL	STD.	スタンダード（標準、JPEG）
QUAL	ECON.	エコノミー（低画質、JPEG）
RAW QUAL	RAW	RAW（生データ）

● 画質をスーパーファイン（TIFF）またはRAWにすると、撮影後コンパクトフラッシュカードに記録するのに数十秒かかることがあります。記録中は、液晶モニターやファインダーは消灯します。

RAWについて

デジタルカメラでは、被写体の映像を受け取る部分、すなわち通常のカメラのフィルムにあたる役割を果たすのがCCD（撮像素子）です。そのCCDに記録された、デジタル処理等の加工をしていないそのままのデータがRAW（ロー）形式のファイルです。これはJPEGやTIFFのような一般的なファイル形式でなく、より専門的な用途に合わせた加工を行なうための素材となる形式です。このカメラで撮影したRAW画像はミノルタ規格のRAW画像であり、別売りのインターフェースキット IF-DG7 に付属の DiMAGE Image Viewer Utilityでのみ開くことができます。このソフトを使えば、RAWファイルを加工後、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換することも可能です。
RAW形式の画像を撮影する際には、以下のような制限があります。

- 画像サイズの指定（P.48）はできません。常にFULLになります。
- デジタルズーム（P.81）、写し込み（P.108）、拡大再生（P.120）、プリント指定（P.134）はできません。
- 連続撮影（P.60）やデジタルエフェクトブラケット撮影（P.63）に設定していても、実際の撮影は1コマ撮影になります。
- ホワイトバランス（P.70）、コントラスト（P.74）、彩度（P.77）、シャープネス（P.106）については、DiMAGE Image Viewer Utilityにて後で調整することが可能です。
- RAW画像にはJPEG等で行われている一般的な画像処理が加えられていないため、再生・クイックビュー・アフタービュー画面では色が正確に再現されません。データは正確に記録されているので、パソコン上では正しい色で再現されます。

画像サイズ・画質と撮影画像数の関係

画像サイズ

デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ1600x1200の場合は、画像は横に1600、縦に1200に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数を表し、画素またはピクセルといった単位で表されます。画像サイズを変えると、パソコンに取り込んだときの大きさが変化します。

画質

画質は圧縮率によって異なります。このカメラの場合、スーパーファインとRAWは非圧縮ですが、その他は圧縮されてファイルサイズが小さくなっています。各画質でのファイル形式は右の通りです。

画質	ファイル形式
エコノミー	JPEG（圧縮率大）
スタンダード	JPEG（圧縮率中）
ファイン	JPEG（圧縮率小）
スーパーファイン	TIFF（非圧縮）
RAW	RAW（非圧縮）

撮影画像数とファイルサイズ

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズとコンパクトフラッシュカード（CFカード）の容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と付属のCFカード使用時の撮影画像数は以下の通りです。（RAW選択時は画像サイズは常にFULLになります）

ファイルサイズ

	2560x1920*	2048x1536*	1600x1200	1280x960	640x480
エコノミー	670KB	590KB	390KB	300KB	160KB
スタンダード	1.1MB	960KB	620KB	420KB	200KB
ファイン	2.1MB	1.6MB	1.0MB	680KB	280KB
スーパーファイン	14.1MB	9.1MB	5.6MB	3.6MB	980KB
RAW	9.5MB	6.1MB	—	—	—

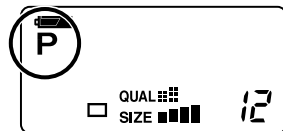
16MB CFカード使用時の撮影画像数（左：DiMAGE 7／右：DiMAGE 5）

	2560x1920* 2048x1536*	1600x1200	1280x960	640x480
エコノミー	22／27	46／41	67／54	135／104
スタンダード	15／16	33／26	50／38	115／81
ファイン	7／9	17／15	28／23	80／57
スーパーファイン	1／1	2／2	4／4	16／16
RAW	1／2	—	—	—

* 画像サイズ2560x1920はDiMAGE 7使用時、2048x1536はDiMAGE 5使用時

- 上記の値は被写体によって異なるため、あくまでも目安とお考えください。

露出モード

同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。

Pモード
シャッター速度と絞り値の両方が自動的に決まります。Pモードでダイヤルを回すと、プログラムシフトになります。→次ページ

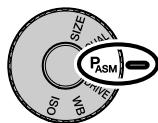
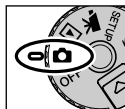
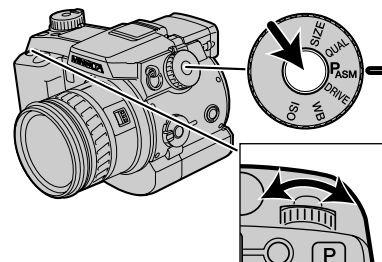
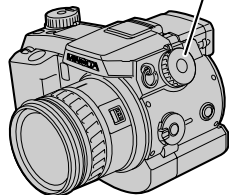
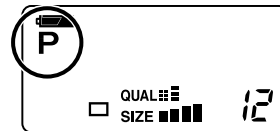
Aモード
希望の絞り値を決めることができます。→P.54

Sモード
希望のシャッター速度を決めることができます。→P.56

Mモード
希望のシャッター速度と絞り値を決めることができます。→P.58

Pモード（プログラムモード）

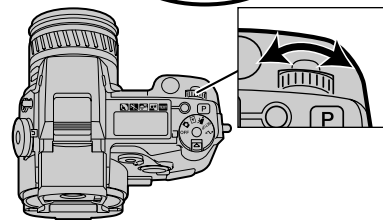
シャッター速度と絞り値が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真など一般撮影に最適です。

● 初期設定はPモードです。プログラムセットボタンを押してもPモードに戻ります。

1. 撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してPASMを選びます。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、Pを選びます。

プログラムシフト

Pモードのままで、一時的に絞り値とシャッター速度の組み合わせを変えることができます。

1. Pモードの状態で、シャッターボタンを半押しして、測光値（シャッター速度と絞り値）を表示させます。

2. 測光値が表示されている状態で、ダイヤルを回します。

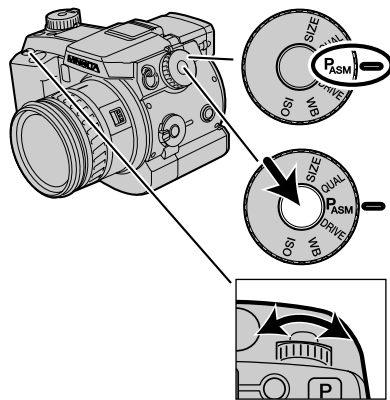
● シャッター速度と絞り値の組み合わせが変わります。

● フラッシュが発光する場合は、プログラムシフトにはなりません（ダイヤルを回しても何も変わりません）。プログラムシフト中に内蔵フラッシュを上げると、プログラムシフトはキャンセルされます。

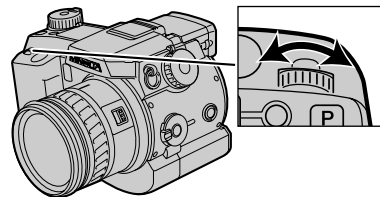
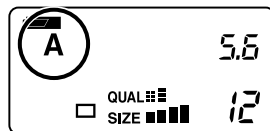
● プログラムシフトをキャンセルするときは、ファンクションボタンを押すか内蔵フラッシュを上げてください。

Aモード（絞り優先モード）

撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調整するもので、絞り値が変わると被写体の前後のピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。
絞り値を2.8などに小さくすると、被写体の前後がぼけやすくなります(写真左)。逆に8などに大きくすると、近くのものから遠くのものまでくっきりと写ります（写真右）。

絞り値が小さいとき
（絞りを開けたとき）

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）

1.撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してPASMを選びます。

2.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、Aを選びます。

3.ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

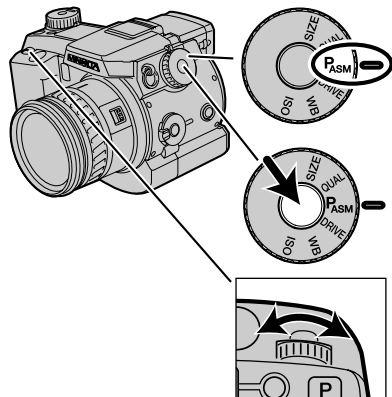
- 液晶モニター／ファインダー内では、絞り値は青く表示されます。以下の範囲から選ぶことができます。
  広角側：2.8～8
  望遠側：3.5～9.5

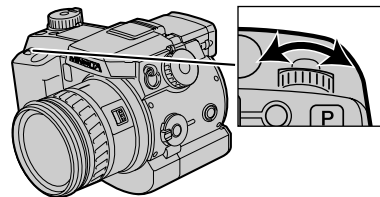
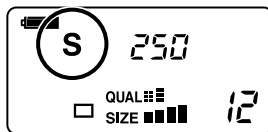
- シャッターボタンを半押ししたときにシャッター速度が点滅（上面データパネル）または赤く点灯（液晶モニター／ファインダー）した場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。通常に表示される範囲内で絞り値を設定してください。

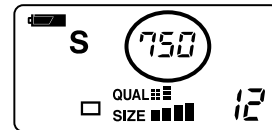
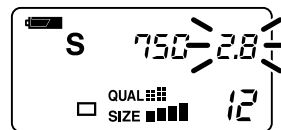
- フラッシュを使用する場合、絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして（開放側で）撮影することをおすすめします。※内蔵フラッシュ光の届く範囲 →P.35
- 絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）とレンズを通る光の量が減少し、シャッター速度が遅くなります（手ぶれ警告 が表示されます）。三脚を使って撮影されることをおすすめします。
- 被写体の状況によっては、絞り値を変えても、それに連動してシャッター速度が変化しないことがあります。これは、表示されている以上に細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整（オート設定時のみ）によるもので、実際には適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。

Sモード（シャッター速度優先モード）

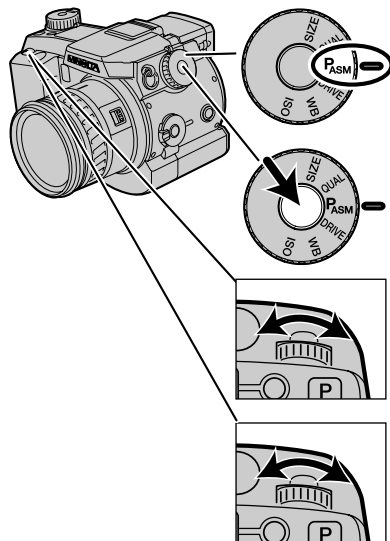
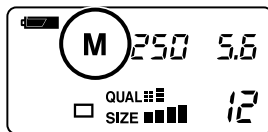
撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。
シャッター速度を1/1000秒などに速くすると、動いているものがくっきりと止まって写ります（写真左）。逆に1/15秒などに遅くすると、動いているものが流れるように写ります（写真右）。

シャッター速度が速いとき　　シャッター速度が遅いとき

1. 撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してPASMを選びます。

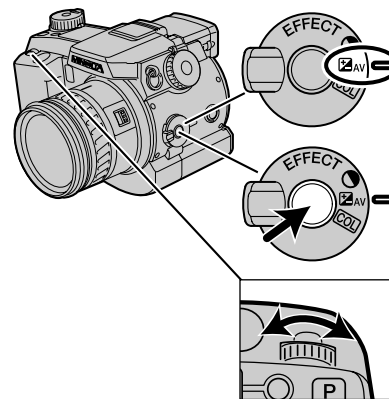
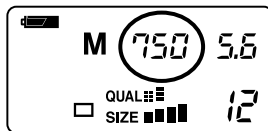
2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、Sを選びます。

3. ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

- 液晶モニター／ファインダー内では、シャッター速度は青く表示されます。4秒〜1/2000秒の範囲から選ぶことができます。

- 表示部の60、125といった数字は、1/60秒、1/125秒を表わします。2”、4”など「”」の文字が出ている場合は、2秒、4秒を表わします。
- シャッターボタンを半押ししたときに絞り値が点滅（上面データパネル）または赤く点灯（液晶モニター／ファインダー）した場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。通常に表示される範囲内でシャッター速度を設定してください。

- Sモードでは手ぶれ警告　は表示されません。
- バルブ撮影（長時間露光）はMモードで行なってください。→P.84
- 被写体の状況によっては、シャッター速度を変えても、それに連動して絞り値が変化しないことがあります。これは撮像感度の調整（オート設定時のみ）によるもので、実際には適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。

Mモード（マニュアルモード）

Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影するときなどに便利です。

1. 撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してPASMを選びます。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、Mを選びます。

3. ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

- 液晶モニター／ファインダー内では、シャッター速度は青く表示されます。4秒～1/2000秒の範囲から選ぶことができます。
- 4秒の次にはbulb（バルブ撮影）が表示されます。→P.84

4. デジタルエフェクトレバーを AV に合わせます。

5. デジタルエフェクトボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

- ボタンを押している間、液晶モニター／ファインダー内では、絞り値は青く表示されます。以下の範囲から選ぶことができます。
  広角側：2.8～8
  望遠側：3.5～9.5

- Mモードでは、撮像感度（→P.72）をAUTOにしていると常にISO 100相当に固定されます。
- Mモードでは手ぶれ警告 は表示されません。
- Mモードでの露出補正（→P.76）はできません。

Mモードで画面が暗く／明るくなる場合

Mモードでは、設定されたシャッター速度と絞り値に応じて画面の明るさも変化します（フラッシュ発光時を除く）。そのまま撮影すると写真が大幅に露出オーバー／アンダーになる場合は、シャッター速度と絞り値の両方が点滅（上面データパネル）または赤く点灯（液晶モニター／ファインダー）してお知らせします。

ドライブモード

連続撮影やセルフタイマーなど、いろいろな撮影方法が可能です。

□ 1コマ撮影
シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。初期設定は1コマ撮影で、プログラムセットボタンを押してもこの設定に戻ります。

連続撮影
シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。

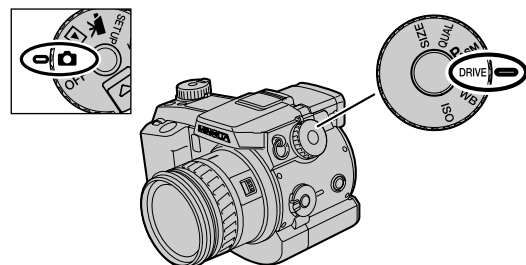
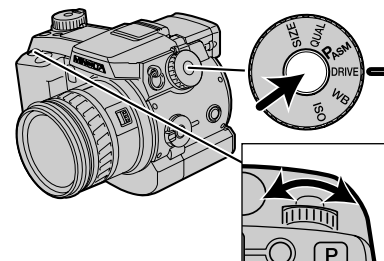
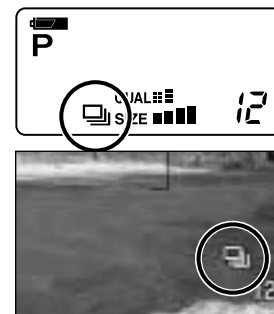
セルフタイマー撮影
シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。→P.62

デジタルエフェクトブラケット（ずらし）撮影
露出やコントラスト等をずらした撮影が簡単にできます。→P.63

int インターバル撮影
一定時間ごとに自動的に複数枚の撮影が行われます。→P.66

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。DiMAGE 7で最高毎秒約1.1コマ、DiMAGE 5で最高毎秒約1.3コマの連続撮影ができます。

● 連続撮影の速度は画像サイズ等によって異なります。上記は画像サイズFULL、Mモード、マニュアルフォーカス時の値です。

1. 撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してDRIVEを選びます。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、連続撮影を選びます。

3. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

● スーパーファイン（TIFF）画像とRAW画像では、連続撮影はできません（連続撮影は選択できません）。
● 内蔵フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
● ピント位置は1コマ目で固定されます。シャッターボタンを押し続けている間ピントを合わせ続けたいときは、オートフォーカスモードをコンティニュアスAFに変更してください。→P.88
● 連続撮影時には、ピント位置を表す赤いセンサーは表示されません。
● 連続撮影の枚数には上限があります（以下参照）。これらの値は画像サイズや画質、被写体によって異なるので、あくまでも目安とお考えください。

	DiMAGE 7				DiMAGE 5			
	2560x1920	1600x1200	1280x960	640x480	2048x1536	1600x1200	1280x960	640x480
エコノミー	12	18	24	44	19	28	36	68
ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ	7	12	17	35	12	18	26	53
ファイン	5	8	11	25	8	12	17	38

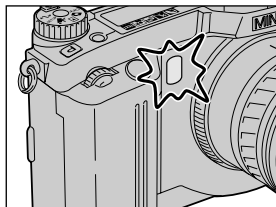
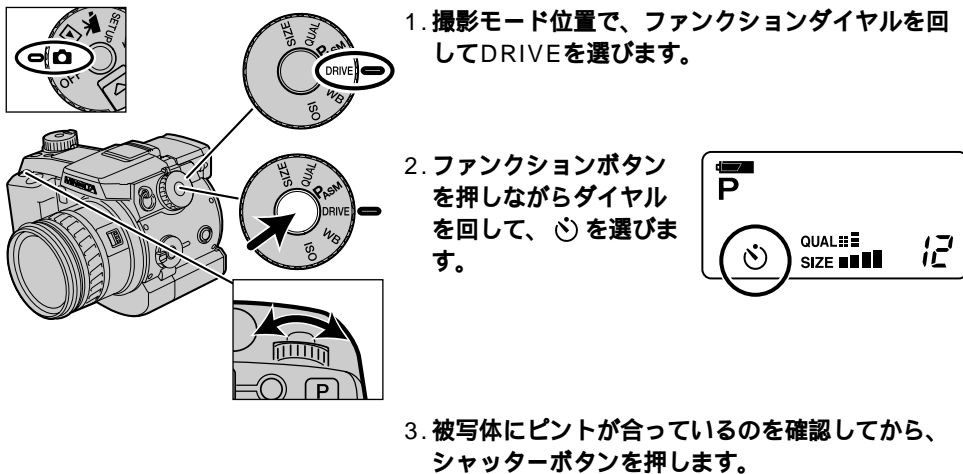
● 撮影中にカードの空きがなくなると、撮影残り画像数000が表示されます。

セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

1.撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してDRIVEを選びます。

2.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、⏲を選びます。

3.被写体にピントが合っているのを確認してから、シャッターボタンを押します。

- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- セルフタイマー作動中は、ランプと同様に音でもお知らせします。音を消すこともできます。→P.149
- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、プログラムセットボタンを押してください。再度押すとプログラムセットボタンの本来の機能が働き、主な機能が基本の状態に戻ります。→P.41

デジタルエフェクトブラケット（ずらし）撮影

デジタルエフェクトレバーで選択されている効果（コントラスト、露出補正、彩度）を自動的にずらした写真が3枚できます。シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。

- フラッシュ発光時、およびスーパーファイン（TIFF）画像やRAW画像では、表示は⧉のままですが、連続でなく1枚ずつの撮影となります。

1.撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してDRIVEを選びます。

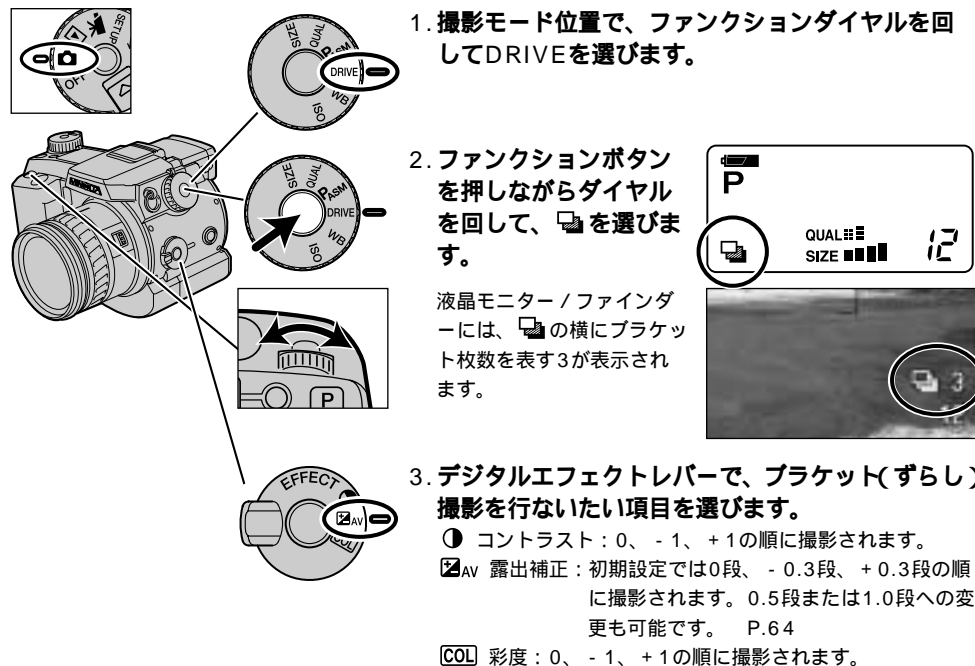
2.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、⧉を選びます。

- 液晶モニター／ファインダーには、⧉の横にブラケット枚数を表す3が表示されます。

3.デジタルエフェクトレバーで、ブラケット(ずらし)撮影を行ないたい項目を選びます。

◑ コントラスト：0、－1、＋1の順に撮影されます。

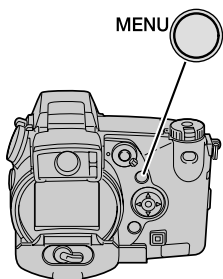
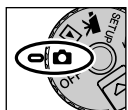
AV 露出補正：初期設定では0段、－0.3段、＋0.3段の順に撮影されます。0.5段または1.0段への変更も可能です。→P.64

COL 彩度：0、－1、＋1の順に撮影されます。

次ページへ続く

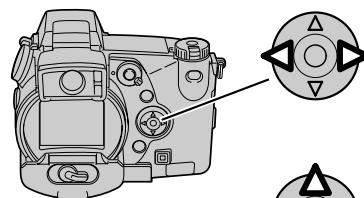
4. シャッターボタンを押し続けて撮影します。
- 途中で指を離すとブラケット撮影は終了します。
- 液晶モニター／ファインダーには、 の横にブラケットの残り枚数が表示されます。

- フラッシュ発光時、およびスーパーファイン（TIFF）画像やRAW画像では、1コマずつシャッターボタンを押して撮影してください。
- 各項目の詳細については、コントラスト P.74、露出補正 P.76、彩度 P.77をご覧ください。
- 基準値（0）とピント位置は、1枚目を撮影するときに固定されます。あらかじめ基準値をずらしておくことも可能です。
- 撮影中にカードの空きがなくなると、その後の撮影はされずにブラケット撮影は途中で終了します。
- シャッター速度と絞り値の表示は0.5段です。露出補正の0.3段ブラケット時にはブラケット中も数値が変わらないことがありますが、実際にはより細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整（オート設定時のみ）により、正確にブラケット撮影は行われています。

露出ブラケットでずらし段数を変える

デジタルエフェクトブラケット撮影で露出補正を選んだときは、ずらし量を変更することができます。

1. 撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影

基本	応用1	応用2
AFﾓｰﾄﾞ	ﾜﾝｼｮｯﾄAF	
測光ﾓｰﾄﾞ	多分割	
ﾌﾗｯｼｭﾓｰﾄﾞ	通常発光	
調光補正	0	
調光ﾓｰﾄﾞ	ADI調光	

2. 十字キーの左右で「応用1」を選びます。

3. 十字キーの上下で「ﾌﾞﾗｹｯﾄ段数」を選びます。

4. 十字キーの右側を押して、メニューの右側に移動します。

基本	応用1	応用2
ﾌﾞﾗｹｯﾄ段数	▶0.3段	
	0.5段	
	1.0段	

5. 十字キーの上下で、希望のずらし量を選びます。
- 0.3段、0.5段、1.0段の中から選ぶことができます。

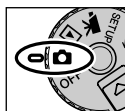
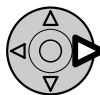
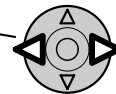
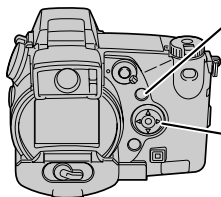
基本	応用1	応用2
ﾌﾞﾗｹｯﾄ段数	▶0.3段	
	0.5段	
	1.0段	

6. 十字キー中央の実行ボタンで、選んだずらし量を決定します。
- 中央の代わりに左を押すとキャンセルされます。

基本	応用1	応用2
登録呼び出し	—	
ﾌﾞﾗｹｯﾄ段数	0.5段	
ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ撮影	1 分	
└ 枚数	2 枚	

7. メニューボタンを押すか、シャッターボタンを半押しします。

インターバル撮影

一定時間ごとに自動的に複数枚の撮影が行われます。撮影間隔は1〜60分の間から、撮影枚数は2〜99枚の中から選ぶことができます。花が開いていく様子の撮影など、定点観測に便利です。

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

2.十字キーの左右で「応用1」を選びます。

3.十字キーの上下で「ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ撮影」を選びます。

4.十字キーの右側を押して、メニューの右側に移動します。

5.十字キーの上下で、希望の撮影間隔を選びます。

- 撮影間隔は以下の範囲から選ぶことができます。
  1〜10、15、20、30、45、60分
- 十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。

6.十字キー中央の実行ボタンで、選んだ撮影間隔を決定します。

基本 応用1 応用2
登録呼び出し ー
ﾌﾞﾗｹｯﾄ段数 0.3段
ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ撮影 5 分
└ 枚数 2 枚

- 中央の代わりに左を押すとキャンセルされます。

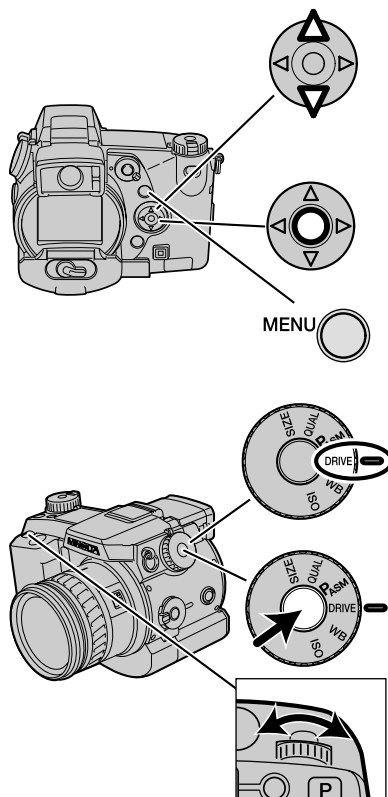
7.十字キーの上下で「(ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ) 枚数」を選びます。

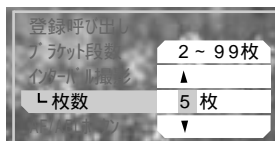
登録呼び出し ー
ﾌﾞﾗｹｯﾄ段数 0.3段
ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ撮影 5 分
└ 枚数 2 枚
登録呼び出し ー

8.十字キーの右側を押して、メニューの右側に移動します。

2〜99枚
└ 枚数 2 枚

次ページへ続く

ドライブモード

9.十字キーの上下で、希望の撮影枚数を選びます。

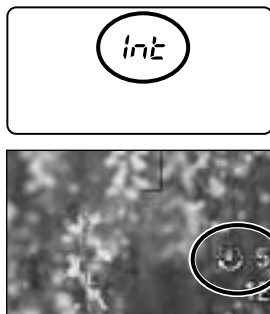
●撮影枚数は2～99枚の範囲から選ぶことができます。

10.十字キー中央の実行ボタンで、選んだ撮影枚数を決定します。

11.メニューボタンを押すか、シャッターボタンを半押しします。

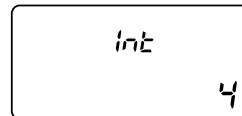
●以上の操作で撮影間隔と枚数の設定が完了します。

12.ファンクションダイヤルを回してDRIVEを選びます。

13.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、Int（上面データパネル）または（液晶モニター／ファインダー）を選びます。

●液晶モニター／ファインダーのの右の数字は、撮影枚数を表します。

14.ピントが合っているのを確認し、シャッターボタンを押してインターバル撮影を開始します。

●シャッターボタンを押すと同時に1枚目の撮影が行われます。その後は設定された撮影間隔ごとに撮影が行われ、設定された枚数分が終わると撮影は終了します。

●インターバル中は、上面データパネルにはIntとインターバルの残り枚数が表示されます。液晶モニター／ファインダーは消灯します。

●インターバル撮影を途中で終了するには、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFにしてください。

●各撮影の直前に、オートフォーカスの作動やフラッシュ充電など撮影に必要な準備が始まります。

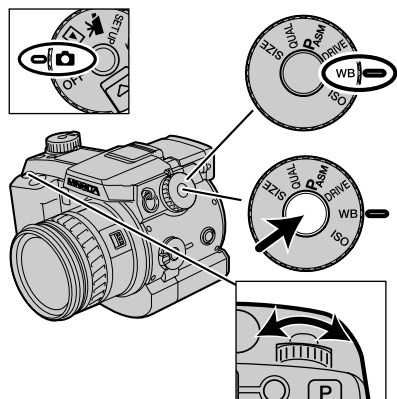
●撮影間隔や枚数を変更しない場合、次回からは前ページの12～14の操作のみでインターバル撮影ができます。

●撮影中にカードの空きがなくなると、撮影残り画像数000が表示され、インターバル撮影は途中で終了します。

●インターバル撮影中にシャッターボタンを半押しすると、シャッターが切れて撮影されます。

●AF/AEロックボタン（P.78）は、インターバル撮影2コマ目以降は機能しません。メニューで「再押し」（P.103）を選択していても同様です。

ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽくなったりします。これが白くなるように調整するのがホワイトバランスです。オート位置にすると自動的に調整されますが、意図的に選択することもできます。

1. 撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してWB*を選びます。

*WB＝White Balance（ホワイトバランス）の略

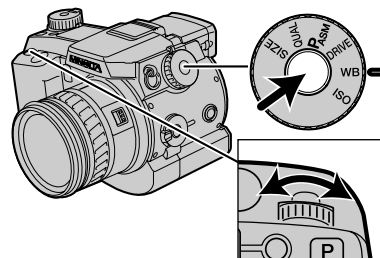
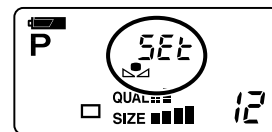
2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の設定を選びます。

● 初期設定はオートです。プログラムセットボタンを押してもオートに戻ります。オートの時には、設定中はAutoの文字が現れますが、撮影中の表示はありません。
● 以下から被写体を照射している光源を選んでください。

Auto	オート（自動設定） AWB（オートホワイトバランス）と表示されることもあります。
	昼光（晴れた明るい屋外）
	白熱灯（タングステン光）
	蛍光灯
	曇天（曇った屋外）
	カスタムホワイトバランス（→次ページ）
SEt	カスタムホワイトバランス設定（→次ページ）

● 水銀灯やナトリウムランプの場合、光源の特性上それらだけでは正確なホワイトバランスは得られません。フラッシュの使用をおすすめします。

カスタムホワイトバランス

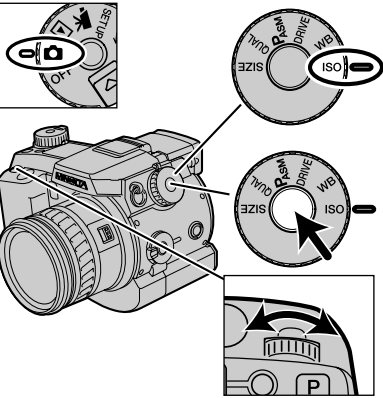
複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。

1. WB位置で、ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して SEt（カスタムホワイトバランス設定）を選びます。

2. 白く写したいものが画面いっぱいになるような構図にして、シャッターボタンを押し込みます。

● ピントを合わせる必要はありません。
● 撮影はされません。ここで画面に入れたものが白くなるようなホワイトバランスに設定されます。
● 設定後は（カスタムホワイトバランス撮影）になります。

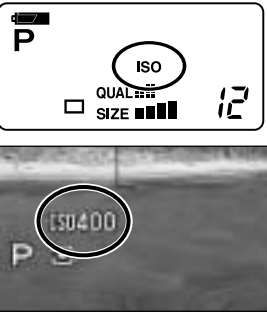
3. シャッターボタンを押して撮影します。

● この操作で設定されたカスタムホワイトバランスは、次に同じ操作で別のカスタムホワイトバランスを設定するまで有効です（メインスイッチOFFでもキャンセルされません）。
● 設定時（2の操作の時）にフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが設定されます。実際の撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。
●「カスタムWB設定エラー」のメッセージが表示されたときは、カスタムホワイトバランスは設定されていません。十字キー中央の実行ボタンを押してメッセージを消し、もう一度設定し直してください。

撮像感度

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。オートに設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには、感度を上げると有効ですが、画像が粗くなることがあります。

1.撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してISOを選びます。

2.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の感度を選びます。

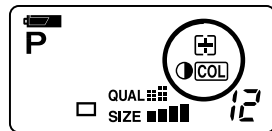
- 初期設定はオート（自動設定）です。
- 感度は以下の範囲から選ぶことができます。
  オート（Auto）、ISO 100、200、400、800

- オートの場合、設定中はAutoの文字が現れますが、撮影中の表示はありません。フラッシュが発光しない場合はISO 100〜400の範囲で自動的に設定されます。フラッシュ発光時にはISO 200、Mモード時にはISO 100で固定されます。
- オート以外を設定した場合は、上面データパネルにISOの文字が、液晶モニター／ファインダー内には ISO＋数値が表示されます。

撮像感度変更時のフラッシュ調光距離

撮像感度を変更すると、フラッシュ調光距離（フラッシュ光の届く距離）は以下の通りになります。

撮像感度（フィルム換算値）	撮像感度	
	広角側	望遠側
オート	0.5〜3.8m	0.5〜3.0m
ISO 100	0.5〜2.7m	0.5〜2.1m
ISO 200	0.5〜3.8m	0.5〜3.0m
ISO 400	0.5〜5.4m	0.5〜4.2m
ISO 800	0.5〜7.6m	0.5〜6.0m

デジタルエフェクトコントロール

カメラ側面のデジタルエフェクトレバーにより、露出補正、コントラスト、彩度の設定を変更することができます。

◑ コントラスト
コントラスト（明暗差）を調整します。

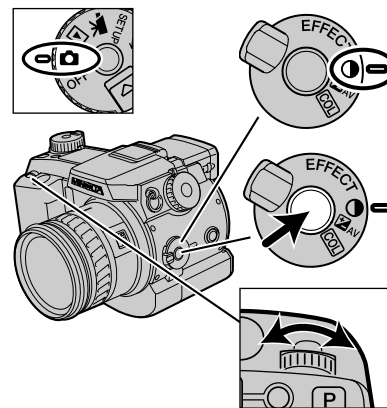
AV 露出補正
画面を明るくしたり暗くしたりします。→P.76

COL 彩度
彩度（色の鮮やかさ）を調整します。→P.77

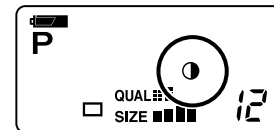
コントラスト

コントラスト（明暗差）を調整します。－3～＋3の7段階から選択することができます。
＋側にするとコントラストが強くなります。メリハリの効いたくっきりした画像になります。
－側にするとコントラストが弱くなります。白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。

コントラスト
強

コントラスト
弱

1. 撮影モード位置で、デジタルエフェクトレバーを回して◑を選びます。

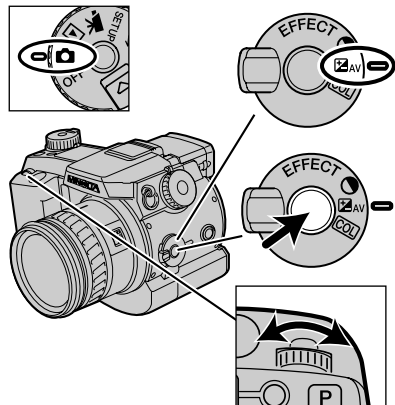
2. デジタルエフェクトボタンを押したままダイヤルを回して、希望の設定を選びます。

- 0以外に設定すると、設定後、上面データパネルには◑が、液晶モニター／ファインダーには◑と数値の両方が表示されます。

- 画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。
- 撮影後、ヒストグラム表示でコントラストの状態を確認することもできます。→P.117

露出補正

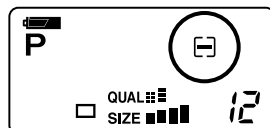
画面全体を明るくしたり暗くしたりします。－2.0～＋2.0の範囲で0.3段ごとに選択することができます。
＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
－側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

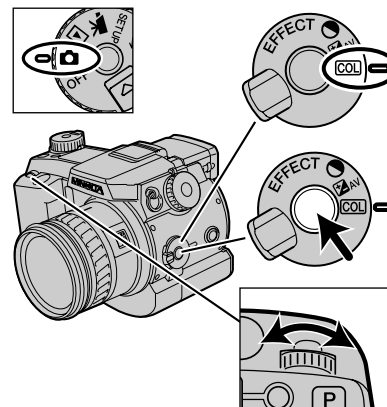
露出補正
＋側

露出補正
－側

1.撮影モード位置で、デジタルエフェクトレバーを回して AV を選びます。

2.デジタルエフェクトボタンを押したままダイヤルを回して、希望の設定を選びます。

● 0以外に設定すると、設定後、上面データパネルには ＋ または － が、液晶モニター／ファインダーには 露出補正マークと数値の両方が表示されます。

● 露出補正は、表示されているシャッター速度と絞り値の変化だけでなく、より細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整（オート設定時のみ）によっても行われています。したがって、露出補正を設定しても表示されているシャッター速度と絞り値は変わらないことがありますが、正確に露出補正は行われています。
● 撮影後、ヒストグラム表示で露出の状態を確認することもできます。→P.117

彩度

彩度（色の鮮やかさ）を調整します。－3～＋3の7段階から選択することができます。
＋側にすると彩度が強くなります。鮮やかなくっきりした画像になります。
－側にすると彩度が弱くなります。落ち着いた画像になります。

1.撮影モード位置で、デジタルエフェクトレバーを回して COL を選びます。

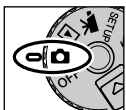
2.デジタルエフェクトボタンを押したままダイヤルを回して、希望の設定を選びます。

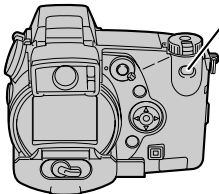
● 0以外に設定すると、設定後、上面データパネルには COL が、液晶モニター／ファインダーにはCOLと数値の両方が表示されます。

● 画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

ピント合わせの詳細

ピント合わせの基本は基本撮影の章（→P.32）に記載しています。ここでは、さらにいろいろなピント合わせの方法について説明します。

ピントと露出を固定する（AF/AEロックボタン）

撮影モード位置でこのボタンを押している間、オートフォーカス（ピント位置）と測光値（シャッター速度と絞り値）が固定されます。被写体が画面中央にない場合の撮影に便利です。

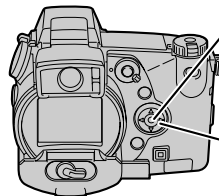
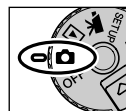
*AF＝Autofocus（オートフォーカス）の略
*AE＝Auto Exposure（自動露出）の略

1. ピントを合わせたいものに[　]を合わせ、AF/AEロックボタンを押します。

● ピントと測光値がロックされている間は、液晶モニター／ファインダー内のシャッター速度と絞り値が黒く反転します。

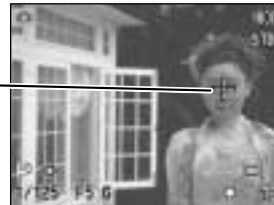
2. AF/AEロックボタンを押したまま、撮りたい構図にして撮影します。

● AF/AEロックボタンから指を離してもピント位置と測光値が固定されたままになるように（押し続けなくてもいいように）することもできます。→P.102
● AF/AEロックの機能をAEロック（測光値のみ固定）にすることもできます。→P.102

画面内の任意の位置にピントを合わせる（フレックスフォーカスポイント）

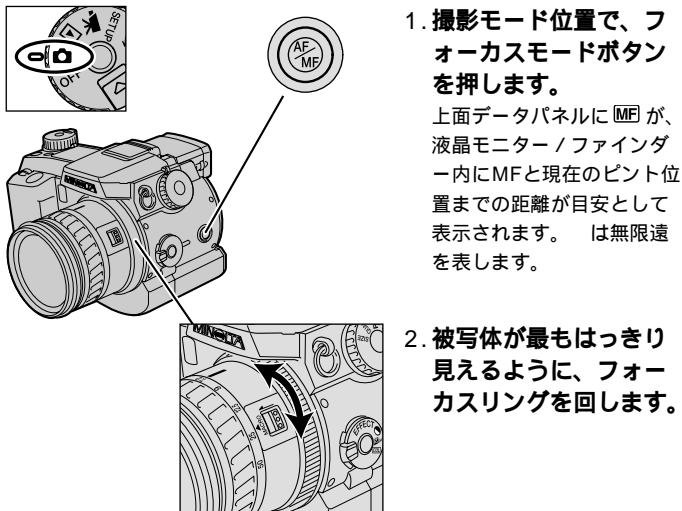
画面内でピントの位置を自由に決めることができます。

1. 撮影モード位置で、十字キー中央のボタンを1秒間押し続けます。

● 液晶モニター／ファインダー内に＋が表示されます。

2. 十字キーの上下左右でピントを合わせたい位置を選びます。

3. シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

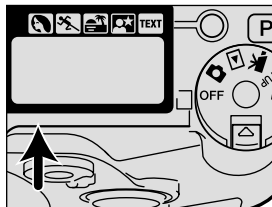
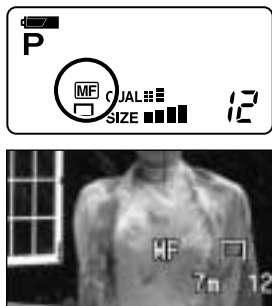
● ピントが合うと、＋が一瞬赤くなります。
● 2の状態で十字キー中央のボタンを押すと、ピント位置が中央に戻ります。中央のボタンを1秒間押し続けると、元のワイドフォーカスフレームに戻ります。
● プログラムセットボタンを押すとワイドフォーカスフレームに戻ります。
● デジタルズーム（P.81）時には、ピント位置を移動させることはできません。

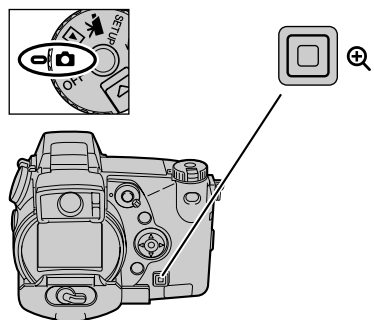
マニュアルフォーカス

オートフォーカスを使わずに、被写体までの距離を自由に設定することができます。

1. 撮影モード位置で、フォーカスモードボタンを押します。

● 上面データパネルに MF が、液晶モニター／ファインダー内にMFと現在のピント位置までの距離が目安として表示されます。∞は無限遠を表します。

2. 被写体が最もはっきり見えるように、フォーカスリングを回します。

● もう一度フォーカスモードボタンを押すと、オートフォーカスに戻ります。プログラムセットボタンを押してもオートフォーカスに戻ります。
● 表示される距離はCCD（撮像素子）からの距離です。CCDから被写体までの距離は、右図の矢印から被写体までの距離に相当します。
● ピントの状態が見えにくい場合は、拡大ボタンの機能を変更し、変更した拡大ボタンを押すことにより一時的に中央部を4倍に拡大してピントの状態を見やすくすることもできます。→DiMAGE 7のみ、P.104
● フレックスフォーカスポイント（前ページ）後にマニュアルフォーカスにすると、＋の位置が固定されたままになります。マニュアルフォーカスには差し支えありません。

デジタルズーム

画像を2倍に拡大することができます。

撮影モード位置で、拡大ボタンを押します。

● 液晶モニターの画像は2倍に拡大され、X2.0が表示されます。

● ファインダーは中央部分がトリミングされた状態になります。

● 撮影後もデジタルズームのままです。戻るときは拡大ボタンをもう一度押してください。
● デジタルズーム時には、ピント位置を表す赤いセンサーは表示されません。フレックスフォーカスポイントも機能しません。またRAW画像と動画のデジタルズームもできません。

ズームリングによるズーム（光学ズーム）では、画像サイズを維持したまま拡大されますが、デジタルズームでは必ずしも画像サイズは維持されません。元の画像サイズに応じて、以下の通りに画像サイズが変更されます。（例：640×480の場合は、デジタルズーム後も画像サイズは維持されるので光学ズームと同じ効果が得られます。フルサイズの場合だと画像サイズが半分になるので、データ上では周囲をトリミングしただけの画像となります。）

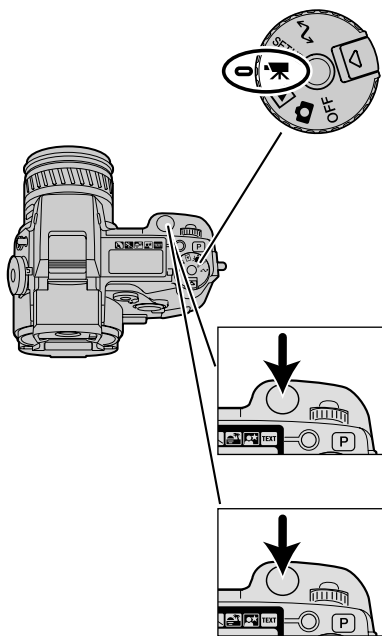
DiMAGE 7の場合

元の画像サイズ	→	ﾃﾞｼﾞﾀﾙｽﾞｰﾑ後の画像ｻｲｽﾞ
2560 × 1920	→	1280 × 960
1600 × 1200	→	1280 × 960
1280 × 960	→	1280 × 960
640 × 480	→	640 × 480

DiMAGE 5の場合

元の画像サイズ	→	ﾃﾞｼﾞﾀﾙｽﾞｰﾑ後の画像ｻｲｽﾞ
2048 × 1536	→	1024 × 768
1600 × 1200	→	1024 × 768
1280 × 960	→	1024 × 768
640 × 480	→	640 × 480

動画撮影

連続最長60秒までの動画撮影を行なうことができます。

1.メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを🎥に合わせます。

● ダイヤルをOFFまたは📷の位置から動かす場合は、ロック解除ボタンを△の方向に押しながらダイヤルを回します。

● 液晶モニター／ファインダーと上面データパネル右下に、撮影可能な残り秒数が表示されます。

2.シャッターボタンを押して撮影を開始します。

● 撮影中は●Recが表示され、右下の残り秒数が減っていきます。

3.撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

● 残り秒数が0になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

● 動画のファイルサイズは、1秒あたり約180KB（DiMAGE 7）または約225KB（DiMAGE 5）です。16MBのCFカードには、合計約90秒（DiMAGE 7）または約70秒（DiMAGE 5）間記録することができます。

● 音声の記録はできません。

※動画の再生は →P.119

動画撮影では、設定できる機能に制限があります。以下の機能は動画撮影時も設定可能です。

● ズームリングによるズーム
● マクロ撮影
● デジタルエフェクト設定（コントラスト、露出補正、彩度）
● オートフォーカス／マニュアルフォーカス切り替え

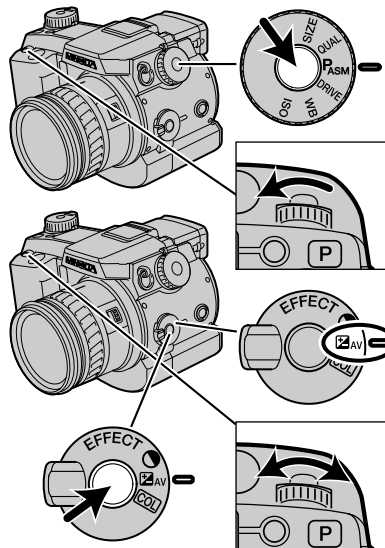
以下の機能は、動画撮影時には設定が固定されます。変更はできません。

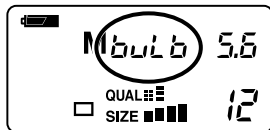
● 画像サイズ：QVGA（320×240）
● 形式：Motion JPEG（AVI）
● 露出モード：Pモード
● ホワイトバランス：オート
● 撮像感度：オート
● フォーカスフレーム：ワイドフォーカスフレーム
● オートフォーカスモード：コンティニュアスAF
● 測光モード：中央重点的平均測光

以下の機能は、動画撮影時には使用できません。

● デジタル撮影シーンセレクター
● ドライブモード
● AF/AEロック
● デジタルズーム
● メニュー設定
● フラッシュ
● マニュアルフォーカス時のピント確認（DiMAGE 7のみ）

バルブ（長時間露光）撮影

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります（最長30秒）。カメラを三脚に取り付けて撮影してください。Mモードでのみ撮影可能です。→P.58

1. PASM位置で、ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、Mを選びます。

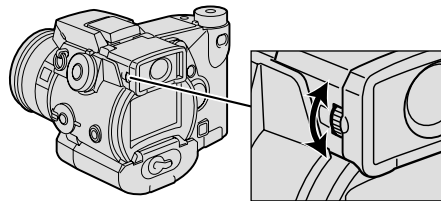
2. ダイヤルを左に回して、bulbを選びます。

3. デジタルエフェクトレバーを AV に合わせます。

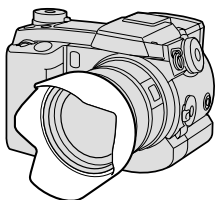
4. デジタルエフェクトボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

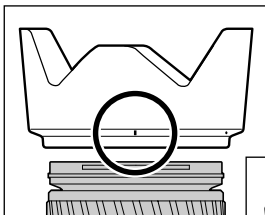
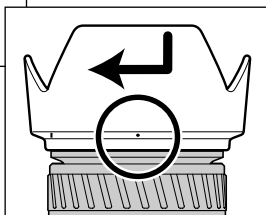
5. 必要な時間シャッターボタンを押し続けて撮影します。

● カメラぶれを少なくするため、別売りのリモートコードの使用をおすすめします。→P.198
● 高感度域で長秒時露光する場合は、画面内のノイズが一部強調されることがあります。

視度調整

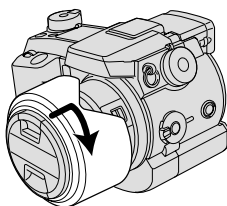
近視等によりファインダーの像がはっきりと見えないときは、視度を調整して見やすくすることができます。
● ファインダー（EVF）のみに有効です。液晶モニターには影響しません。

ファインダーをのぞいて、表示されている数値等がはっきり見えるように視度調整ダイヤルを回します。

レンズフード

フラッシュを使わずに撮影する場合、特にレンズの最広角側で逆光時に撮影する場合は、画面外にある光がレンズに入って描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。

● 内蔵フラッシュ使用時（→P.34）にはフードは使わないでください。画面下部までフラッシュ光が届かなくなります。

1. フードの｜の部分を上にして、フードをレンズ先端に合わせます。

2. フードの○の部分が上に来るまで、フードを時計方向に回します。

● カチッと音がするまで回してしっかり固定してください。

● フードは音がするまで回してしっかりと固定させてください。中途位置のまま使用すると、フードの効果が出なかったり、画面の一部にフードが写り込むことがあります。

● フードを収納するときは逆向きに取り付けることができます（右図）。

撮影モード時のメニュー設定

撮影
基本　応用1　応用2
AFモード　ワンショットAF
測光モード　多分割
フラッシュモード　通常発光
調光補正　0
調光モード　ADI調光

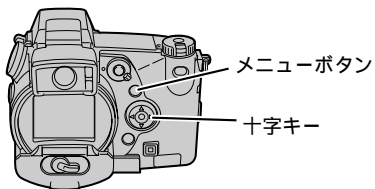
メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが撮影位置（撮影モード）にあるときにメニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

タブ	項目	設定
基本	オートフォーカスモード →P.88	○☆ワンショットAF、コンティニュアスAF
	測光モード →P.90	○☆多分割測光、中央重点的平均測光、スポット測光
	フラッシュモード →P.92	○（☆）通常発光、（☆）赤目軽減発光、後幕シンクロ、
	調光補正 →P.94	−2.0、−1.7、−1.3、−1.0、−0.7、−0.3、○☆±0、+0.3、+0.7、+1.0、+1.3、+1.7、+2.0
	調光モード →P.96	○☆ADI調光、P-TTL調光
応用1	登録呼び出し →P.98	1、2、3、登録
	ブラケット段数 →P.64	○0.3EV、0.5EV、1.0EV
	インターバル撮影 →P.66	○1分、2分〜10分、15分、20分、30分、45分、60分
	（インターバル撮影）枚数 →P.67	○2枚、3枚〜99枚
	AF/AEロックボタン →P.102	○押す間AF/AEL、再押しAF/AEL、押す間AEL、再押しAEL
	拡大ボタン →P.104（DiMAGE 7のみ）	○デジタルズーム、ピント確認（マニュアルフォーカス時）
応用2	シャープネス →P.106	ハード、○標準、ソフト
	カラーモード →P.107	○カラー、モノクロ
	写し込み →P.108	○なし、年月日、月日時刻、文字、文字+通し番号
	アフタービュー →P.112	○なし、あり2秒、あり10秒

○印は初期設定値です。☆印はプログラムセットボタンで戻る設定値です。

オートフォーカスモード

オートフォーカスモードを、ワンショットAF*またはコンティニュアスAFに設定することができます。

*AF＝Autofocus（オートフォーカス）の略

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影		
基本	応用1	応用2
AFﾓｰﾄﾞ	ﾜﾝｼｮｯﾄAF	
測光ﾓｰﾄﾞ	多分割	
ﾌﾗｯｼｭﾓｰﾄﾞ	通常発光	
調光補正	0	
調光ﾓｰﾄﾞ	ADI調光	

2.十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

ワンショットAF

シャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われ、ピントが合うとピント位置はそこで固定されます。静止している被写体の撮影に適しています。初期設定はワンショットAFで、プログラムセットボタンを押してもこの設定に戻ります。

コンティニュアスAF

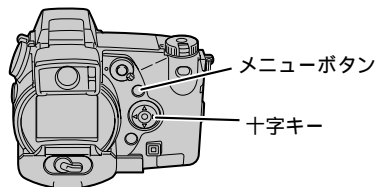
シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続けます。動いている被写体の撮影に便利です。
- ピント位置を表す赤いセンサーは表示されません。フレックスフォーカスポイントも機能しません。
- コンティニュアスAFでも、激しく動く被写体にはピントを合わせることができません。

フォーカス表示

コンティニュアスAFにすると、液晶モニター／ファインダー内のフォーカス表示が変わります。

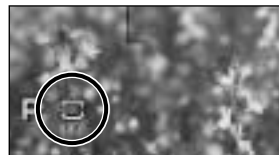
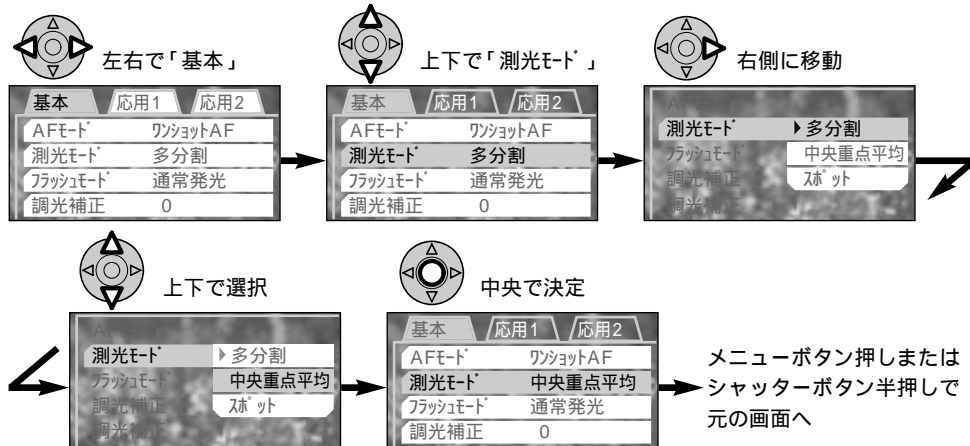
ワンショットAF	白色：	ピントが合って固定されています。
	赤色：	ピントが合っていません。
コンティニュアスAF	白色：	ピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
	赤色：	ピントが合っていません。

測光モード

測光モードを、多分割測光、中央重点的平均測光、スポット測光の中から選ぶことができます。

1. 撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影		
基本	応用1	応用2
AFモード	ワンショットAF	
測光モード	多分割	
フラッシュモード	通常発光	
調光補正	0	
調光モード	ADI調光	

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

● 液晶モニター／ファインダー内に、選んだ測光モードが表示されます。
● デジタル撮影シーンセレクター選択中は、測光モードを選ぶことはできません。

多分割測光

CCDを細かく分割して（DiMAGE 7で300分割、DiMAGE 5で256分割）測光を行ないます。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確に把握します。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光で、プログラムセットボタンを押してもこの設定に戻ります。

● 多分割測光では、シャッターボタン半押しでピントが固定されると、同時に露出（シャッター速度と絞り値）も固定されます（オートフォーカス時のみ）。

中央重点的平均測光

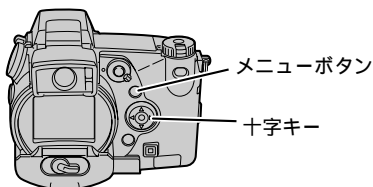
画面の中央部に重点を置きながら、画面全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や被写体が画面中央にない場合などは、露出補正が必要になります。→P.76

スポット測光

スポット測光にすると、画面中央部にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみで測光を行ないます。コントラストの大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。
測光したい部分が画面中央にないときは、AF/AEロックボタンを使用して測光値を固定してください。→P.78

スポット測光サークル

フラッシュモード

フラッシュモードを、通常発光、赤目軽減発光、後幕シンクロの中から選ぶことができます。

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影		
基本	応用1	応用2
AFモード	ワンショットAF	
測光モード	多分割	
フラッシュモード	通常発光	
調光補正	0	
調光モード	ADI調光	

2.十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

●赤目軽減発光の場合は上面データパネルと液晶モニター／ファインダー内に👁が、後幕シンクロの場合は液晶モニター／ファインダー内にREARが、それぞれ表示されます。

通常発光

内蔵フラッシュを上げていれば必ず発光します。初期設定は通常発光です。

👁 赤目軽減発光

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。赤目軽減発光では、撮影の直前に小光量のフラッシュが何回か発光し、この現象をやわらげることができます。

REAR 後幕シンクロ

通常発光では、シャッターが開いた直後にフラッシュが発光し、その後にフラッシュ光以外で照らされた部分が写ります。よってシャッター速度が遅い場合には、光の流れなどが不自然に写ることがあります。

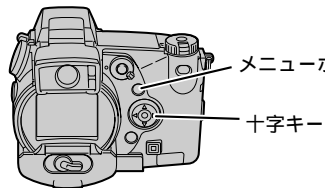
後幕シンクロ

通常発光

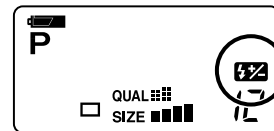
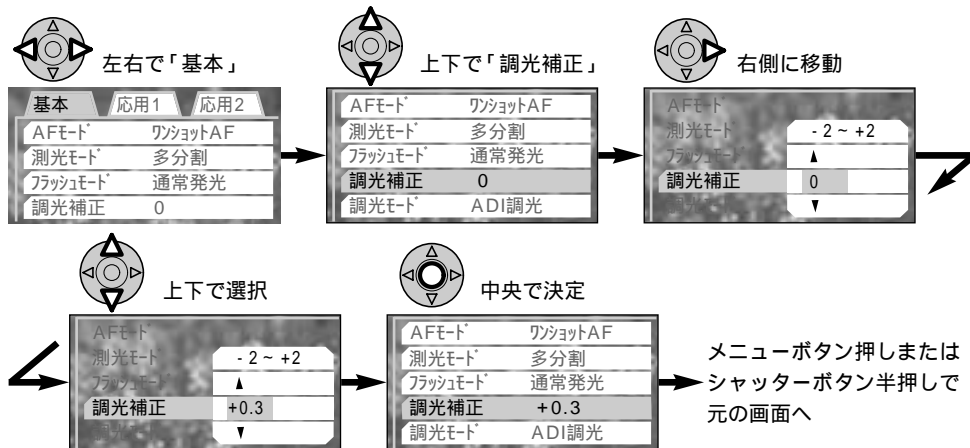
後幕シンクロでは、先にフラッシュ光以外で照らされた部分が写り、最後にフラッシュが発光します。動いている被写体を低速のシャッター速度でフラッシュ撮影するときに用いると、光の流れや被写体の軌跡をより自然に描写することができます。

●プログラムセットボタンを押すと、後幕シンクロは解除され、通常発光または赤目軽減発光のうち最後に設定した方に戻ります。

調光補正

フラッシュ撮影の際、露出補正とは別に、フラッシュの発光量だけを調整することができます（調光補正）。初期設定は±0で、プログラムセットボタンを押しても±0に戻ります。

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

●上面データパネルには が、液晶モニター／ファインダーには と数値の両方が表示されます（±0以外）。

露出補正と調光補正の違い

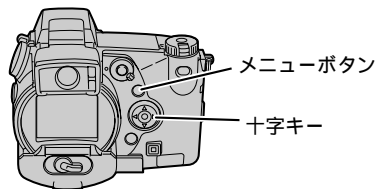
露出補正では、シャッター速度・絞り値・撮像感度（オートの場合）が変化することによって補正を行ないます。フラッシュが発光する場合は、それに加えてフラッシュの発光量も同時に変化します。

一方調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。写真全体に対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えばフラッシュ光を少なめに仕上げたいときは、調光補正をややアンダー側（−側）に設定しておき、同時にオーバー側（＋側）に露出補正をかけて全体の明るさを調整する、といった使い方ができます。

●特に内蔵フラッシュで調光補正を行なう場合、フラッシュのガイドナンバーが限られているため、被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近にあるときは、オーバー側の効果が出ないことがあります。

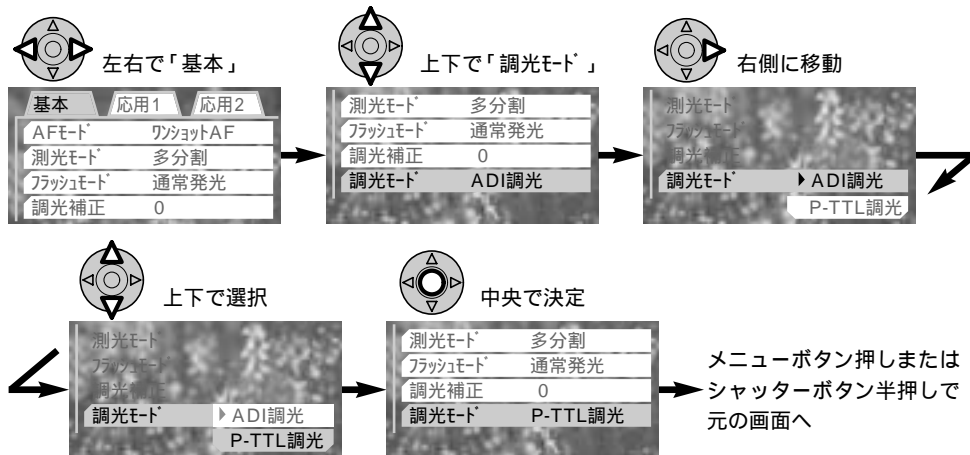
調光モード

フラッシュの調光モードを、ADI調光またはP-TTL調光に設定することができます。

ADI＝Advanced Distance Integrationの略
P-TTL＝Pre-flash, Through the lensの略

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影
基本 応用1 応用2
AFﾓｰﾄﾞ ﾜﾝｼｮｯﾄAF
測光ﾓｰﾄﾞ 多分割
ﾌﾗｯｼｭﾓｰﾄﾞ 通常発光
調光補正 0
調光ﾓｰﾄﾞ ADI調光

2.十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

ADI調光

被写体が適正露出になるようにカメラが自動的にフラッシュの発光量を決めるのがTTL調光です。ADI調光は従来のTTL調光をさらに発展させたもので、被写体までの距離情報を利用するのと同時に、撮影の直前にフラッシュを一度発光させ（プリ発光）、その反射光を測光して調光演算に反映させます。被写体の反射率にほとんど影響されない正確な調光が可能です。初期設定はADI調光で、プログラムセットボタンを押してもこの設定に戻ります。

- 被写体までの距離情報が正確でない場合（別売りのプログラムフラッシュでバウンス撮影やケーブルを使ったオフカメラ撮影を行なう場合や、マクロツインフラッシュ2400・マクロリングフラッシュ1200使用時など）は、自動的にP-TTL調光になります。

P-TTL調光

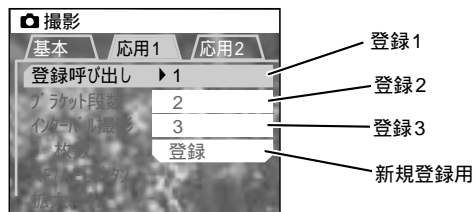
ADI調光と同じく、撮影の直前にプリ発光が行われますが、被写体までの距離情報は加味されません。以下の場合は、ADI調光だと正確な距離情報が得られませんので、P-TTL調光に設定してください。

- プログラムフラッシュ3600HS（D）にワイドパネルを付けている場合
- フラッシュ発光部にディフューザーを付けている場合
- 露出倍数のかかるフィルター（ND等）使用時
- クローズアップレンズ使用時

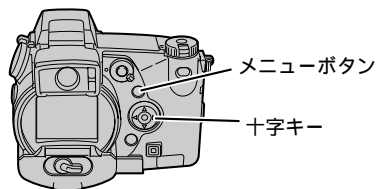
登録

最もよく使うモードや数値設定等の組み合わせを、3通りまでカメラに登録して、必要に応じて呼びだすことができます。同条件下での撮影を頻繁に行なうときに便利です。
登録機能を使うと、以下の設定すべてが自動的にカメラに記憶されます。一部だけの登録はできません。また、以下に記載されている設定以外の登録もできません。

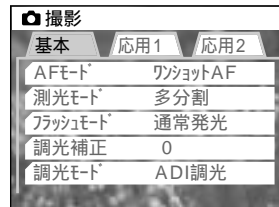
記憶できる項目	補足	ページ
画像サイズ	—	48
画質	—	49
露出モード	デジタル撮影シーンセレクターとプログラムシフトは登録できません。 Aモードでは絞り値が、Sモードではシャッター速度が、 Mモードでは絞り値とシャッター速度が同時に登録されます。	52
ドライブモード	インターバル撮影では撮影間隔と枚数が、 ブラケット撮影では露出補正時のブラケット段数が 同時に登録されます。	60
ホワイトバランス	カスタムホワイトバランスの設定も同時に登録されます。	70
撮像感度	—	72
コントラスト	—	74
露出補正	—	76
彩度	—	77
フォーカスフレーム	フレックスフォーカスポイントの場合、 画面内のピント位置も同時に登録されます。	79
フォーカスモード	オートフォーカスの場合、メニュー設定による ワンショットAF、コンティニュアスAFも同時に登録されます。	80 88
測光モード	—	90
フラッシュモード	—	92
調光補正	—	94
調光モード	—	96
シャープネス	—	106
カラーモード	—	107

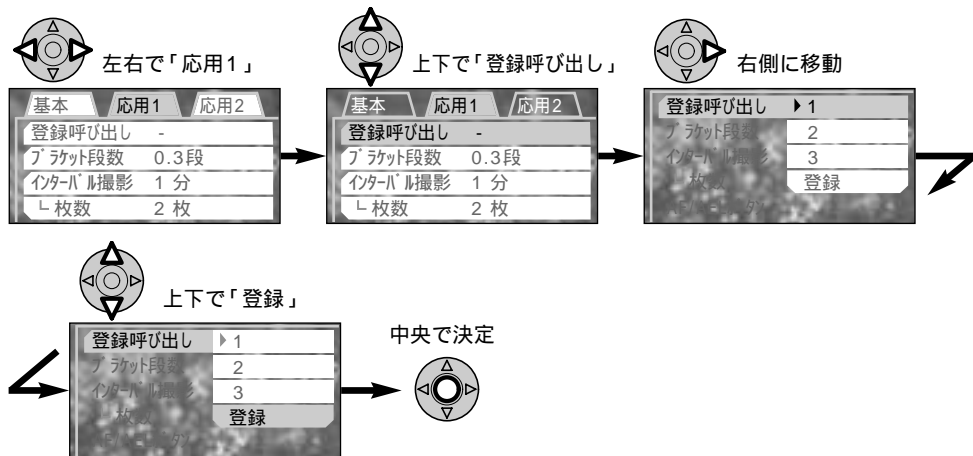
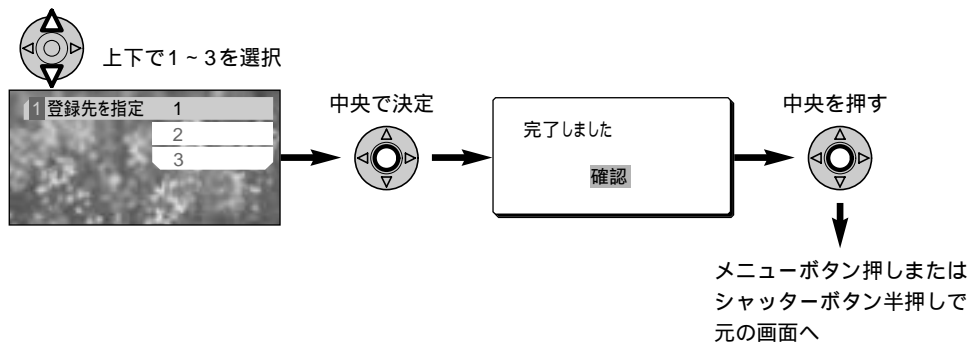
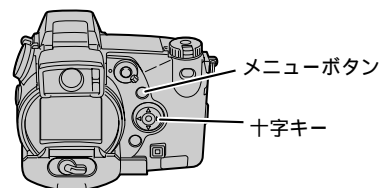
このカメラでは3通りまでの登録が可能です。例えば、登録1には人物を撮るためのポートレート用の登録、登録2にはスポーツシーン用の登録、などと使い分けることができます。

初期設定では、1～3いずれもフルオートの状態が登録されています。登録機能を使う場合は、以下の方法で任意の設定を登録してください。

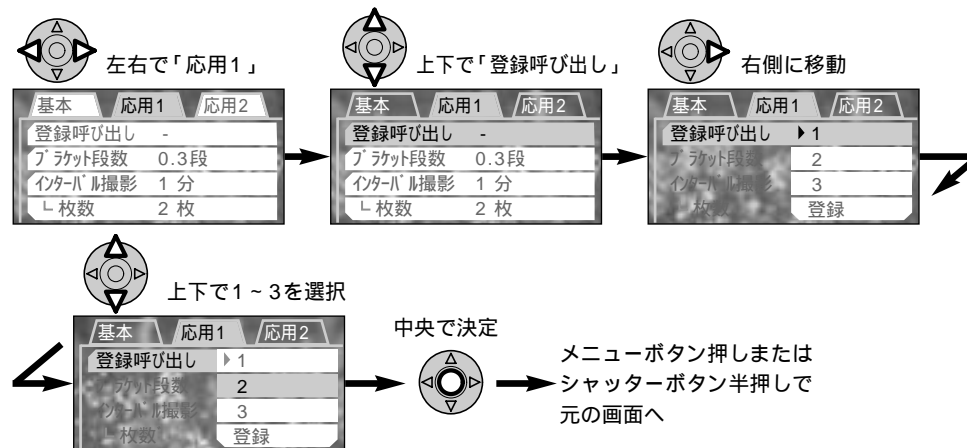
- 1～3のすべてに登録する必要はありません。登録機能を使わない場合、1つも登録しなくても差し支えありません。
- 登録された内容は、プログラムセットボタンを押しても、カメラの電源を切っても、電池を抜いても保持されています。

新しい設定を登録する

1. 撮影モード位置で、前ページの項目すべてを登録したい状態に設定します。

2. メニューボタンを押します。

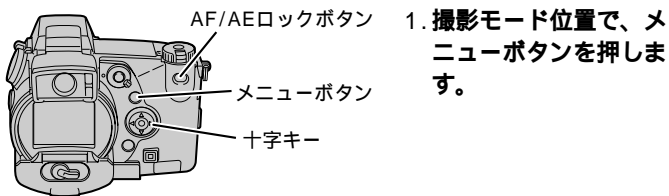
撮影
基本　応用1　応用2
AFモード　ワンショットAF
測光モード　多分割
フラッシュモード　通常発光
調光補正　0
調光モード　ADI調光

次ページへ続く

3.十字キーで新規登録画面を選びます。

4.十字キーで登録番号を選び、決定します。

登録を呼び出す

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

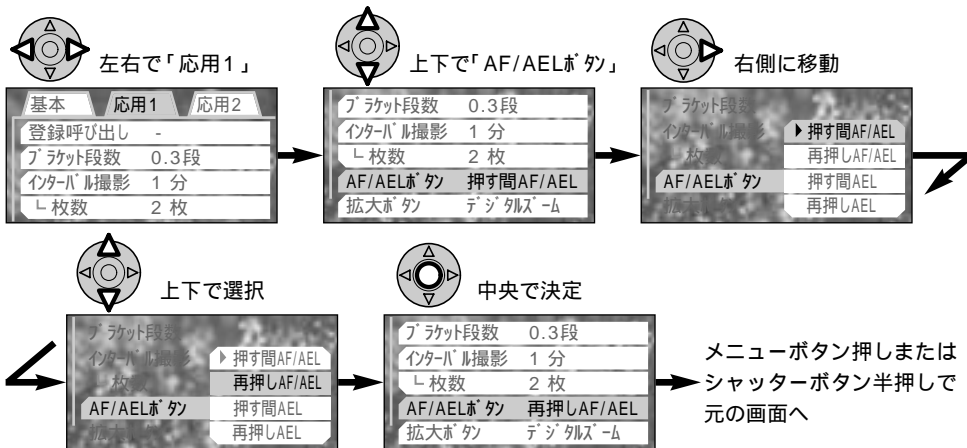
2.十字キーで希望の登録番号を選びます。

●登録を呼び出した後、そこからさらに設定の変更を加えることができます。変更を加えた後、99〜100ページの要領で再度「登録」を選んでそれを登録することもできます。再度「登録」を選ばない限り、新たに加えた変更が登録されることはありません。
●デジタルエフェクトブラケットを登録した場合、撮影時にデジタルエフェクトレバーでブラケット撮影したい項目（コントラスト・露出補正・彩度）を選んでください。これらを登録することはできません。

登録

AF/AEロックボタンの機能と操作

AF/AEロックボタンの機能と操作方法を変更することができます。

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影		
基本	応用1	応用2
AFﾓｰﾄﾞ	ﾜﾝｼｮｯﾄAF	
測光ﾓｰﾄﾞ	多分割	
ﾌﾗｯｼｭﾓｰﾄﾞ	通常発光	
調光補正	0	
調光ﾓｰﾄﾞ	ADI調光	

2.十字キーで希望の設定を選びます。

AF＝Autofocus（オートフォーカス）の略
AE＝Auto Exposure（自動露出）の略
L＝Lock（ロック）の略

押す間AF/AEL

AF/AEロックボタンを押し続けている間、ピント位置と測光値（シャッター速度と絞り値）の両方がロックされます。測光したいものとピントを合わせたいものが同じ場合に便利です。初期設定はこの設定です。
AF/AEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影してください。

再押しAF/AEL

AF/AEロックボタンを一度押して放すと、ピント位置と測光値（シャッター速度と絞り値）の両方がロックされます。シャッターを切るときに、AF/AEロックボタンを押し続ける必要がなく、測光したいものとピントを合わせたいものが同じ場合に便利です。解除するときは、もう一度AF/AEロックボタンを押してください。

押す間AEL

AF/AEロックボタンを押し続けている間、測光値（シャッター速度と絞り値）のみがロックされます。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合に便利です。AF/AEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影してください。

- P／Aモードのフラッシュ発光時には、スローシンクロ撮影（夜景ポートレートと同じ効果）になります。

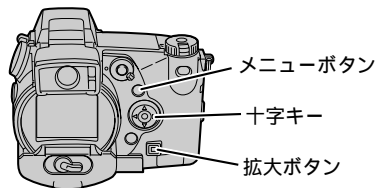
再押しAEL

AF/AEロックボタンを一度押して放すと、測光値（シャッター速度と絞り値）のみがロックされます。シャッターを切るときに、AF/AEロックボタンを押し続ける必要がなく、測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合に便利です。解除するときは、もう一度AF/AEロックボタンを押してください。

- P／Aモードのフラッシュ発光時には、スローシンクロ撮影（夜景ポートレートと同じ効果）になります。

- 測光値がロックされている間は、液晶モニター／ファインダー内のシャッター速度と絞り値が黒く反転します。特に再押しを選んでいる場合は、解除し忘れのないようにしてください。

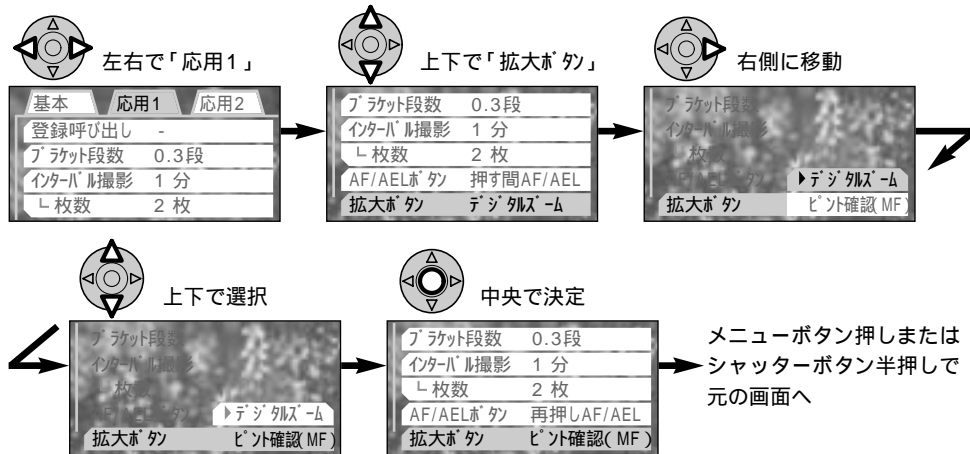
拡大ボタンの機能（DiMAGE 7のみ）

拡大ボタンの機能を、デジタルズームまたはマニュアルフォーカス時のピント確認に変更することができます。DiMAGE 5ではお使いになれません（デジタルズームのみ可能）。

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影

基本	応用1	応用2
AFﾓｰﾄﾞ	ﾜﾝｼｮｯﾄAF	
測光ﾓｰﾄﾞ	多分割	
ﾌﾗｯｼｭﾓｰﾄﾞ	通常発光	
調光補正	0	
調光ﾓｰﾄﾞ	ADI調光	

2.十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

● 液晶モニター／ファインダー内に、デジタルズーム選択時はX2.0が、ピント確認選択時は🔍が表示されます。

デジタルズーム

拡大ボタンを押すと、画像が2倍に拡大されます。そのまま撮影できます。→P.81
初期設定はデジタルズームです。

ピント確認

拡大ボタンを押すと、画像の中央部を一時的に4倍に拡大します。マニュアルフォーカス時（→P.80）に、正確にピント位置を確認する場合に使用します。撮影される画像は拡大前のものです。

● もう一度拡大ボタンを押すかシャッターボタンを半押しすると、元の（拡大されない）表示に戻ります。
● この機能はピント位置の確認用です。AF/AEロックボタンを押す等の露出関係の調整は、拡大しない状態で行なってください。
● オートフォーカス時には拡大ボタンを押しても何も起こりません。
● モニター自動感度アップ機能時（暗いところで液晶モニターが白黒になっているとき）には、拡大ボタンを押しても画像は拡大されません。

シャープネス

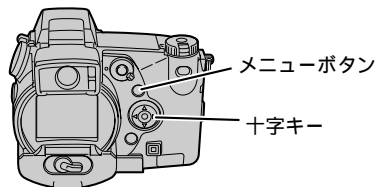
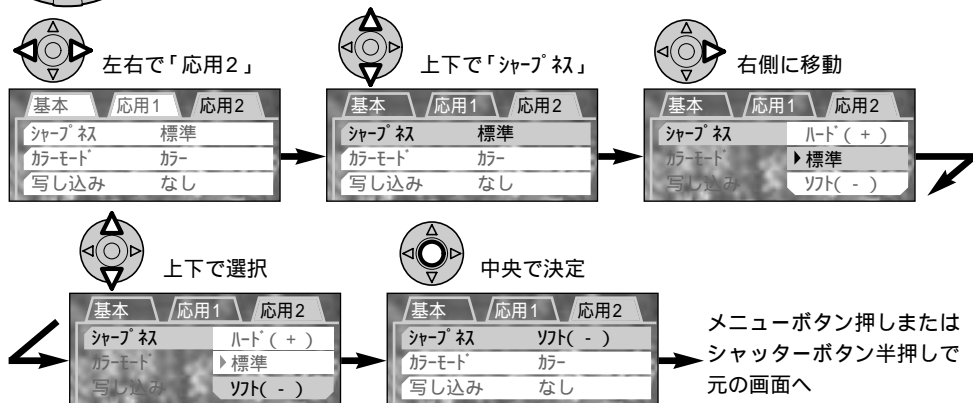
撮影する画像のシャープネス（鮮鋭度）を調整することができます。

●画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。3段階の補正が可能です。

ハード（＋）： 輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像になります。
標準： 標準的な鮮明さの画像になります。初期設定は標準です。
ソフト（－）： 輪郭のやわらかな画像になります。

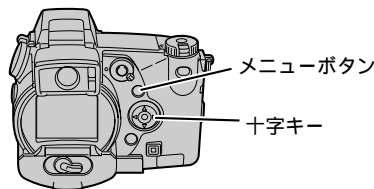
1. 撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

●標準以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーには と＋またはーが表示されます。

カラーモード

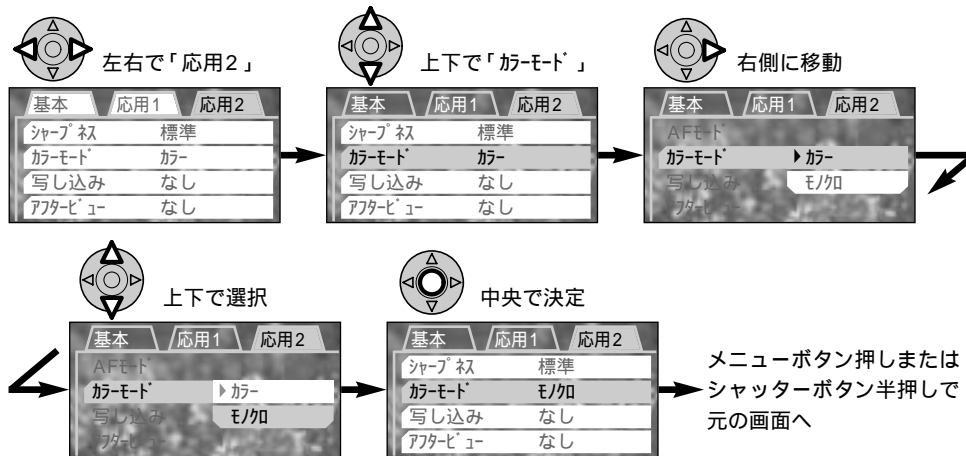
撮影する画像を、カラーにするかモノクロにするかを設定することができます。

カラー： 24bitのカラー画像として記録されます。初期設定はカラーです。
モノクロ：8bitの白黒画像として記録されます。

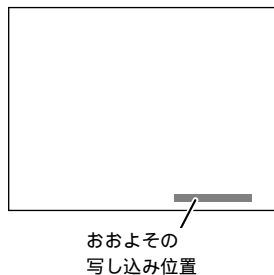
●モノクロにしてもファイルサイズは変わりません。

1. 撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

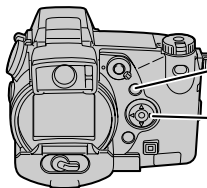
撮影		
基本	応用1	応用2
AFﾓｰﾄﾞ	ﾜﾝｼｮｯﾄAF	
測光ﾓｰﾄﾞ	多分割	
ﾌﾗｯｼｭﾓｰﾄﾞ	通常発光	
調光補正	0	
調光ﾓｰﾄﾞ	ADI調光	

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

写し込み

撮影の年月日や任意の文字を、画像の右下に入れることができます。
初期設定では写し込みはされません。

年月日：　撮影の年月日が入ります（例：2001.7.20）。
月日時刻：　撮影の月日と時刻が入ります（例：7.20　14:35）。
文字：　任意の英数字と記号を用いて、最大16文字を写し込むことができます。
文字＋通し番号：任意の英数字と記号を用いて最大10文字と、5桁の通し番号を写し込むことができます（例：New York-00001）。

●写し込みなしに設定していても、撮影時の年月日時刻は記録され、再生時には画面左下に表示されます。
●スーパーファイン（TIFF）画像、RAW画像および動画には写し込みはできません。
※年月日や時刻、年月日の並びを変更するときは →P.160

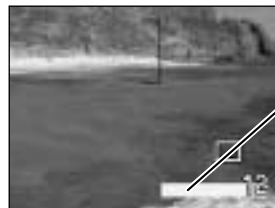
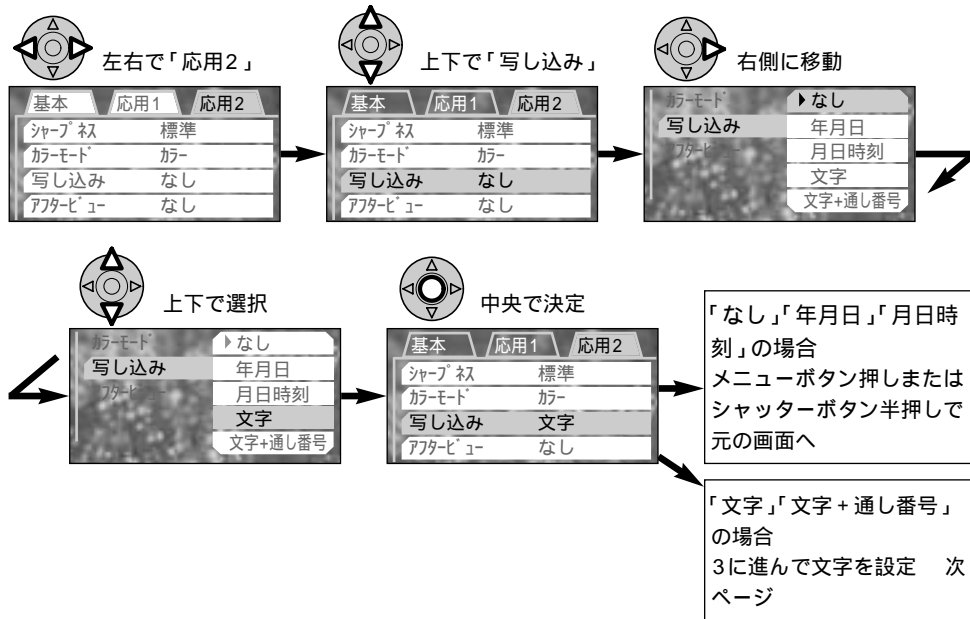
写し込みを選択する

1. 撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影
基本　応用1　応用2

AFﾓｰﾄﾞ	ﾜﾝｼｮｯﾄAF
測光ﾓｰﾄﾞ	多分割
ﾌﾗｯｼｭﾓｰﾄﾞ	通常発光
調光補正	0
調光ﾓｰﾄﾞ	ADI調光

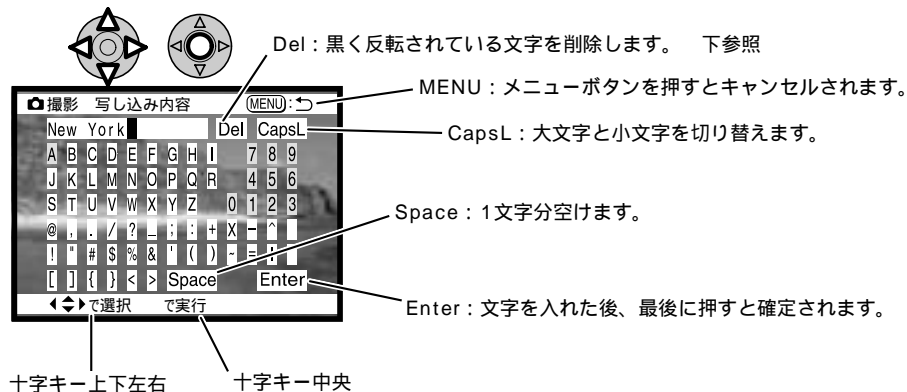
2. 十字キーで希望の設定を選びます。

「なし」「年月日」「月日時刻」の場合
メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

「文字」「文字＋通し番号」の場合
3に進んで文字を設定 →次ページ

●写し込みありのときは、液晶モニター／ファインダー右下に黄色のバーが表示されます。

次ページへ続く

写し込みの文字を設定する

3.2で中央の実行ボタンを押すと、アルファベットと数字の一覧が表示されます。十字キーの上下左右で文字を選択し、中央の実行ボタンで文字を1つずつ確定していきます。

入力した文字の削除

1. カーソルを入力済み部分（上記の場合は「New York」）に移動させます。
2. 十字キーの左右で、削除したい文字を黒く反転させせます。
3. 十字キーの下側を押して「Del」を反転させ、十字キーの中央を押して削除を実行します。

文字の上書き

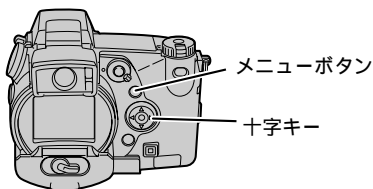
1. カーソルを入力済み部分（上記の場合は「New York」）に移動させます。
2. 十字キーの左右で、上書きしたい部分を黒く反転させせます。
3. 十字キーの下側を2回押して、数字またはアルファベットのところまで移動します。
4. 上書きする文字を選び、十字キーの中央を押して上書き文字を決定します。

4.文字を入れ終わると、「Enter」を選び、十字キー中央の実行ボタンで確定させせます。

- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、入力した文字はキャンセルされます。
- 「文字＋通し番号」の場合、通し番号は00001から始まります。変更することはできません。文字を変更すると、通し番号も自動的に00001にリセットされます。

5.メニューボタンを押すかシャッターボタンを半押しして、元の画面に戻ります。

アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を確認したり消去したりすることができます。

1. 撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影	
基本	応用1　応用2
AFﾓｰﾄﾞ	ﾜﾝｼｮｯﾄAF
測光ﾓｰﾄﾞ	多分割
ﾌﾗｯｼｭﾓｰﾄﾞ	通常発光
調光補正	0
調光ﾓｰﾄﾞ	ADI調光

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

アフタービューなし

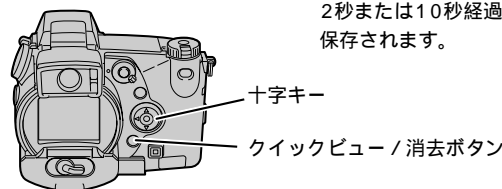
撮影後、すぐに画像が保存され、ライブビュー画面（その時にレンズが向けられている被写体が画面に表示される）に戻ります。初期設定はアフタービューなしです。

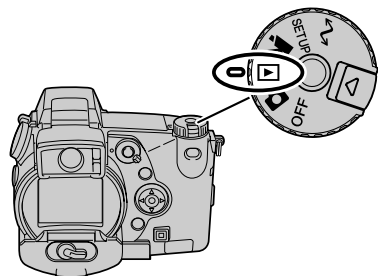
アフタービュー2秒／10秒

撮影後、2秒間または10秒間撮影した画像が表示され、その後自動的に保存されます。2秒間／10秒間の間に消去や保存をすることもできます。

消去するときは、左の画面が現れている間にクイックビュー／消去ボタンを押してください。
右の画面が出たら十字キーの左側で「はい」を選んで、中央の実行ボタンを押すと消去されます。

保存するときは、左の画面が現れている間に、十字キー中央の実行ボタンを押してください。

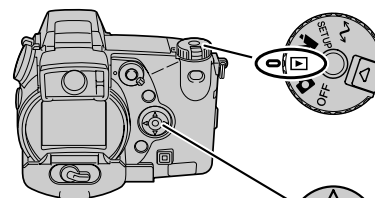
- 2秒または10秒経過後、またはシャッターボタンの半押しでも自動的に保存されます。

- 連続撮影やブラケット撮影時にアフタービューありにすると、インデックス表示（画面に9コマまたは4コマが同時に表示される）になります。

再生モード

この章では、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが ▶ 位置（再生モード）にあるときの各種設定について説明しています。

● ダイヤルをOFFまたは 📷 の位置から動かす場合は、ロック解除ボタンを △ の方向に押しながらダイヤルを回します。

ダイヤルを ▶ 位置（撮影モード）にしていると、ファインダー／液晶モニター内の左上に ▶ が現れます。

上面データパネルには、PLAYの文字が現れます。

1コマ再生

再生モードにすると、撮影した画像が液晶モニター／ファインダー内に表示されます。

十字キーの左右で、見たい画像を選びます。

● 十字キーを押し続けると、画像が早送りされます。
● 最新画像を表示中に十字キーの右を押すと、最古画像に戻ります。逆も同様です。

再生モードの切り替え

再生モード時には、表示切り替えボタンと十字キーにより、以下の通り画面の切り替えができます。

1コマ再生（データあり）

十字キー左右でコマを選択

十字キー上

十字キー下

表示切り替えボタン

十字キー

ヒストグラム（輝度）表示

表示切り替えボタン

1コマ再生（データなし）

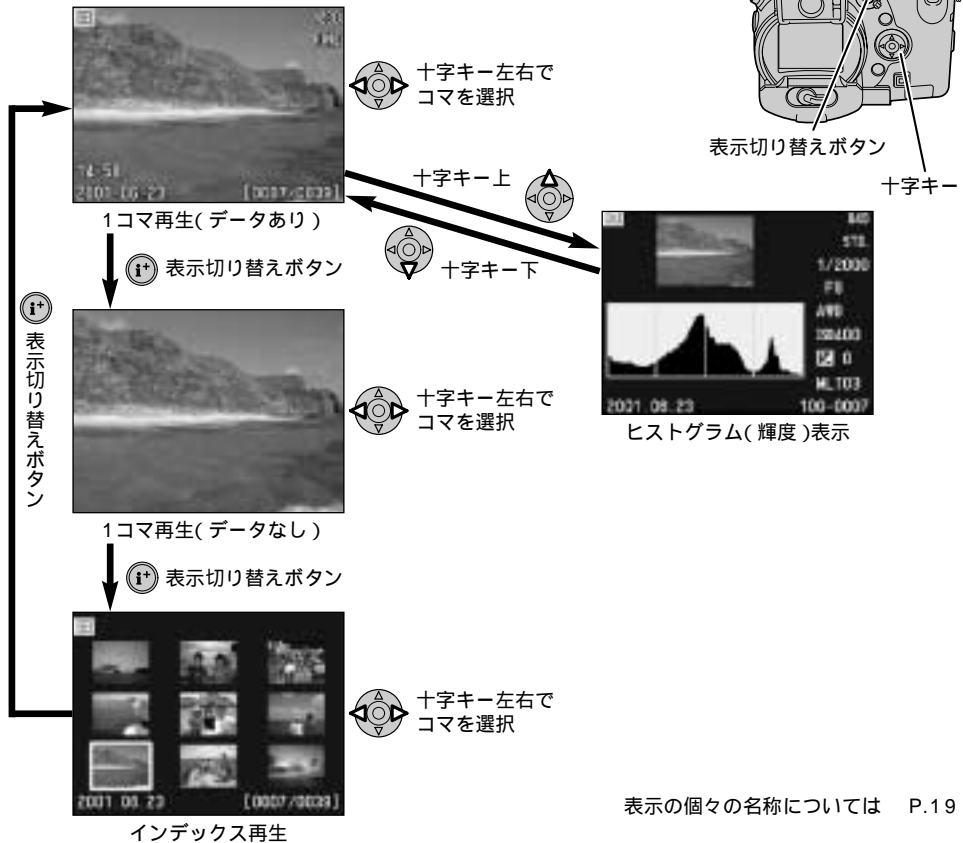
十字キー左右でコマを選択

表示切り替えボタン

インデックス再生

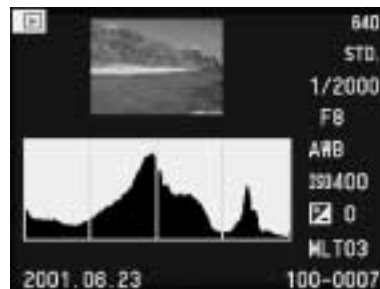
十字キー左右でコマを選択

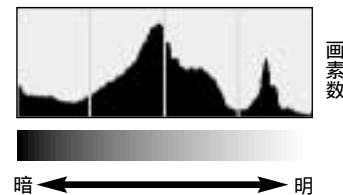
表示切り替えボタン

※表示の個々の名称については →P.19

インデックス再生

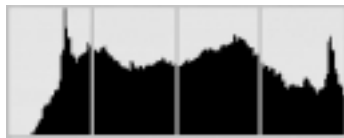
9コマ分を一度に液晶モニター／ファインダーに表示します。十字キーの左右で画像の移動ができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。

- 一度に再生されるコマ数を9コマから4コマにすることもできます。→P.130
- インデックス中に動画が含まれる場合は、動画開始時の画像が静止画として現れます。

ヒストグラム（輝度）表示

画像のヒストグラム（輝度分布）と撮影データが表示されます。1コマ再生時およびクイックビュー中に、十字キーの上側を押すとヒストグラム表示になります。下側を押すと元に戻ります。

- 十字キーの左右でコマの切り替えを行なうことはできません。

次ページへ続く

ヒストグラムについて

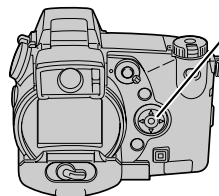
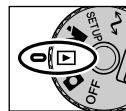
ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。このカメラのヒストグラム表示は、横軸が明るさ（左端が黒、右端が白）、縦軸が画素数を表しています。露出補正やコントラスト調整をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。

ヒストグラムが全体にまんべんなく分布しています。暗過ぎ・明る過ぎでつぶれたりする部分がほとんどありません。

画面の明暗がはっきりしており、明るい部分は白く飛ぶ部分が多数存在します。

下の写真の場合、白く飛んだ部分には白100%のデータ*しか存在しません。よって後でパソコンに取り込んで加工しても、つぶれた部分の再現は不可能だということになります。

*正確には、カラー画像の場合RGBで表されるので、R255、G255、B255のこと

動画再生

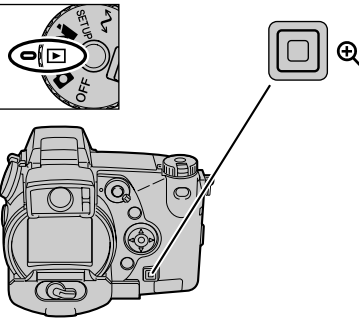
撮影した動画を再生します。

1. **再生モード位置で、十字キーの左右で再生したい動画を選びます。**

2. **十字キー中央の実行ボタンを押して、動画再生を開始します。**
   - 右上の数値は経過秒数です。

3. **動画再生を終えるときは、十字キーの下側を押します。**
   - 動画開始前の状態に戻ります。
   - 十字キーの下側でなく中央を押すと、一時停止・再スタートを繰り返します。

- 動画再生中は、十字キーの左右でコマの切り替えを行なうことはできません。
- 動画のヒストグラム表示や拡大再生はできません。

拡大再生

画像の一部を拡大して再生することができます。

再生モード位置で、拡大ボタンを押します。

● 以下の表の通り拡大率が変化します。再生中の画像サイズによって拡大率は異なります。

● スーパーファイン（TIFF）画像、RAW画像および動画は拡大再生できません。

拡大前（1倍）

2倍拡大後

DiMAGE 7

画像サイズ	拡大率
2560 x 1920 (FULL)	1倍／2倍／2.5倍／4倍
1600 x 1200 (UXGA)	1倍／2倍／2.5倍／4倍
1280 x 960 (SXGA)	1倍／2倍／2.5倍／4倍
640 x 480 (VGA)	1倍／2倍

DiMAGE 5

画像サイズ	拡大率
2048 x 1536 (FULL)	1倍／2倍／2.5倍／3.2倍
1600 x 1200 (UXGA)	1倍／2倍／2.5倍／3.2倍
1280 x 960 (SXGA)	1倍／2倍／2.5倍／3.2倍
1024 x 768*	1倍／2倍／2.5倍／3.2倍
640 x 480 (VGA)	1倍／2倍

*デジタルズーム使用時のみ

拡大再生中に十字キーを押すと、表示されるエリアを移動させることができます。

画像をテレビに映して見る

付属のビデオケーブルVC-100でカメラとテレビを接続して、撮影した画像をテレビに映して見ることができます。

1. テレビとカメラの電源を切ります。

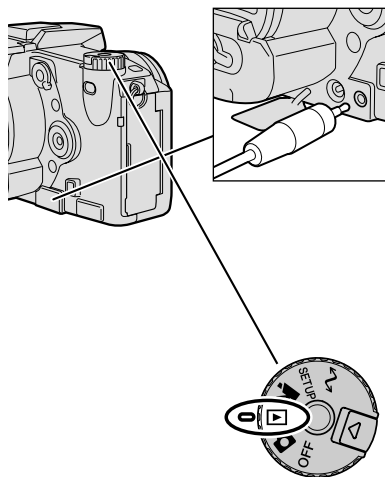
2. カメラ背面の端子カバーを開け、ビデオケーブルのミニプラグ側をビデオ出力端子に差し込みます。

● カメラ背面の液晶モニターは自動的に消灯します。

3. ビデオケーブルのもう一方をテレビのビデオ入力端子（通常は黄色）に差し込みます。

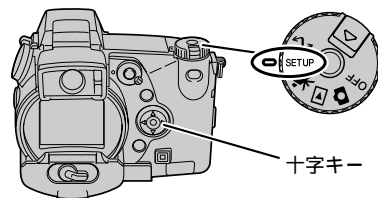
4. テレビの電源を入れ、テレビの［テレビ／ビデオ切替］などで、ビデオ入力端子からの入力に切り替えます。

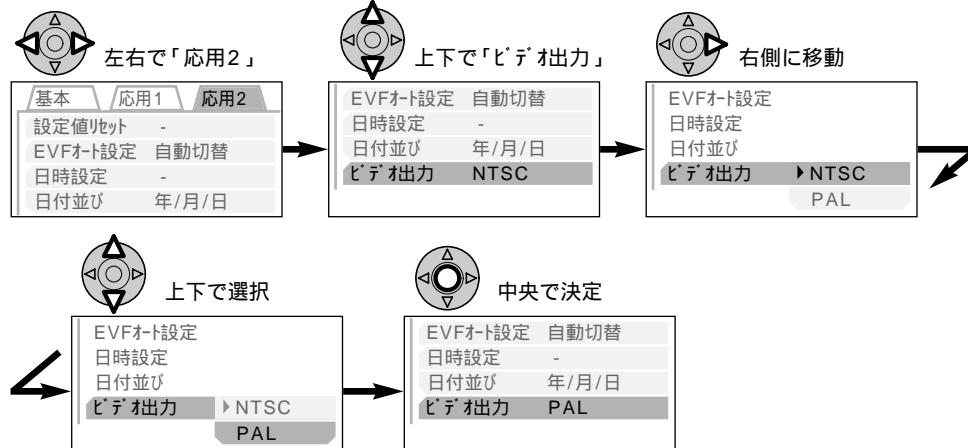
● 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

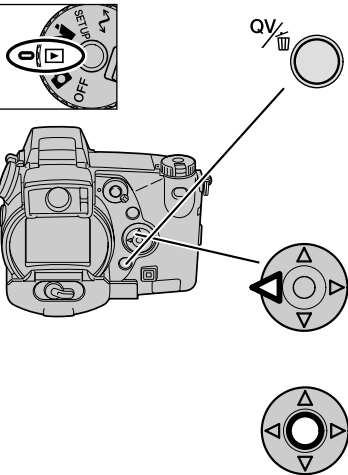
5. カメラのメインスイッチ／モードダイヤルを▶位置（再生モード）に合わせます。

● 上記の操作で、カメラの液晶モニターやファインダーに現れる画像が、そのままテレビに映ります。通常の再生モードと同様に表示の切り替え等行なうことができます。

● 上記の操作で万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→次ページ

ビデオ出力形式の切り替え

ビデオの信号形式には数パターンがあり、国によって異なります。日本やアメリカ等ではNTSC、ヨーロッパの多くの国々ではPALが採用され、両者の間には互換性がありません。このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式に設定してください。
このカメラでは、NTSCとPALの2つの設定が可能です。

1. セットアップモード位置にします。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

画像を手早く消去する

再生モード位置で、画像を簡単に消去することができます。

1. 再生モード位置で、クイックビュー／消去ボタンを押します。

● 右の画面が現れます。

● 消去しない場合は、この状態で十字キー中央の実行ボタンを押してください。

⚠このコマを消去しますか？

はい　いいえ

2. 十字キー左側で「はい」を選びます。

⚠このコマを消去しますか？

はい　いいえ

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 選んだ画像が消去され、再生モードに戻ります。

※複数の画像をまとめて消去するときは →P.126

再生モード時のメニュー設定

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが ▶ 位置（再生モード）にあるときにメニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

タブ	項目	設定
基本	消去 →P.126	○このコマ、全コマ、コマを指定
	プロテクト →P.128	○このコマ、全コマ、コマを指定、全コマ取り消し
	インデックス画面 →P.130	○9コマ、4コマ
応用1	スライドショー →P.131	実行する
	（スライドショー）再生画像 →P.132	○全コマ、コマを指定
	（スライドショー）間隔 →P.132	1〜4秒、○5秒、6〜60秒
	（スライドショー）繰り返し →P.132	○しない、する
応用2	プリント指定 →P.134	○このコマ、全コマ、コマを指定
	（プリント指定） インデックスプリント →P.137	○しない、する
	（プリント指定）取り消し →P.138	○フォルダ内全コマ、カード内全コマ
	画像コピー →P.139	○このコマ、コマを指定

○印は初期設定値です。

画像の消去

画像を消去します。以下の3通りの消去方法があります。

1コマ消去（このコマ）： 再生中の画像を1コマだけ消去します。
全コマ消去： フォルダの画像すべてを消去します。
コマを指定： 指定した画像だけを消去します。

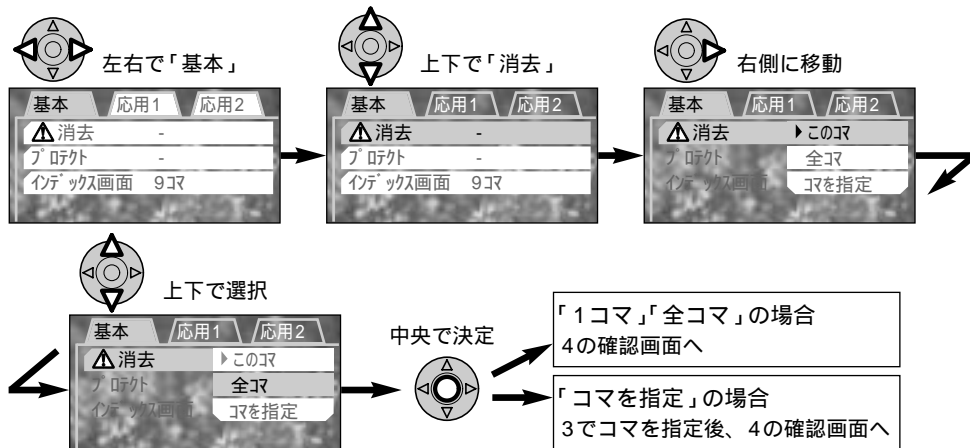
※1コマずつ手早く消去する方法もあります。撮影モードでは →P.38、再生モードでは →P.124

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1.再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

「1コマ」「全コマ」の場合
4の確認画面へ

「コマを指定」の場合
3でコマを指定後、4の確認画面へ

3.「コマを指定」の場合、十字キーで消去するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

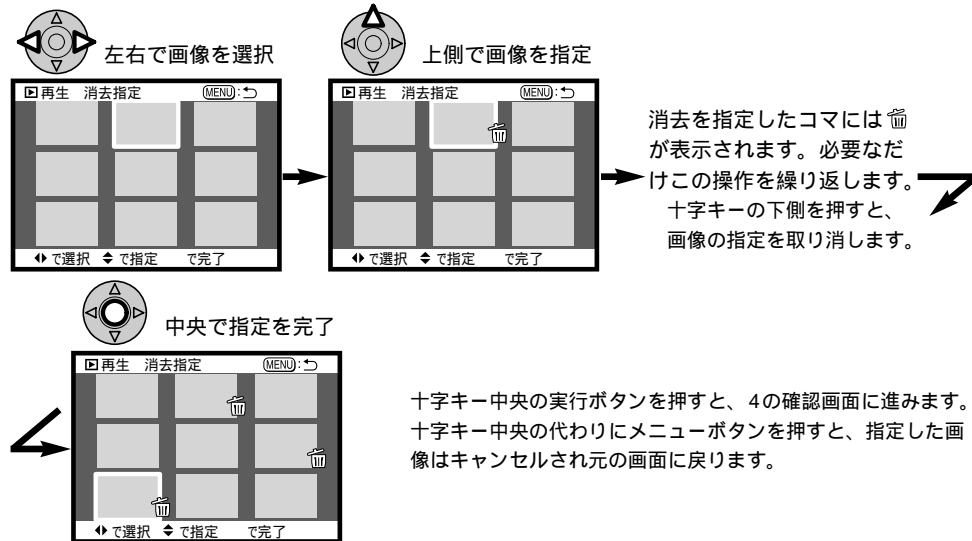
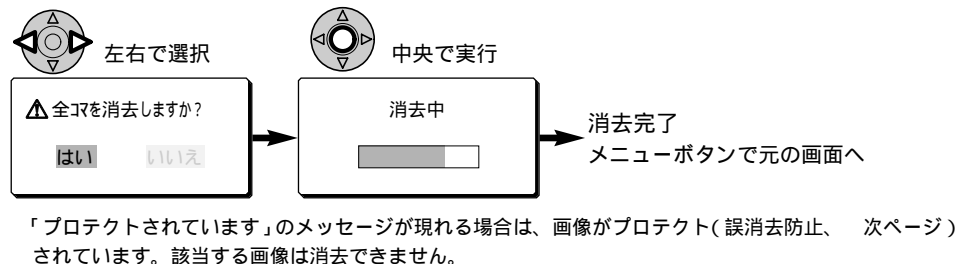
消去を指定したコマには 🗑 が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

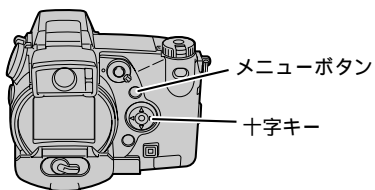
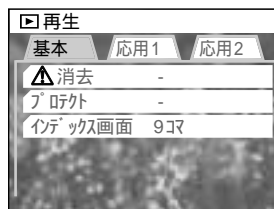
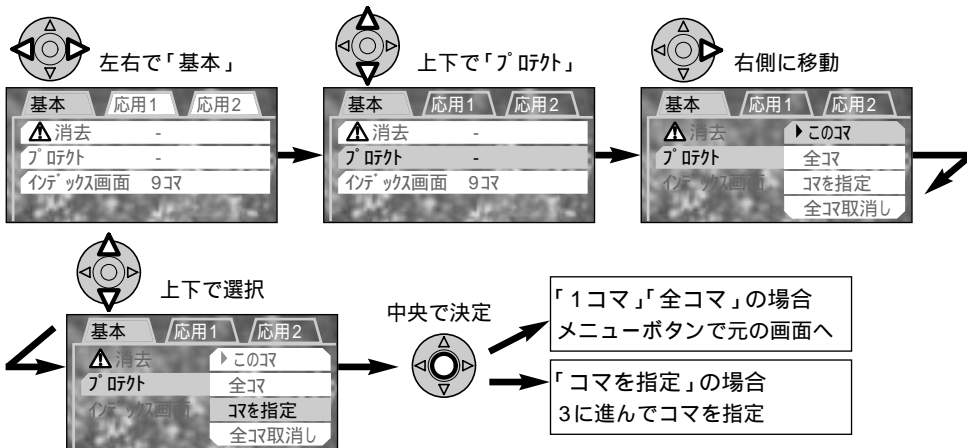
- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、4の確認画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

4.確認後、消去します。（下図は全コマ消去の場合）

消去完了
メニューボタンで元の画面へ

- 「プロテクトされています」のメッセージが現れる場合は、画像がプロテクト（誤消去防止、→次ページ）されています。該当する画像は消去できません。

プロテクト（誤消去防止）

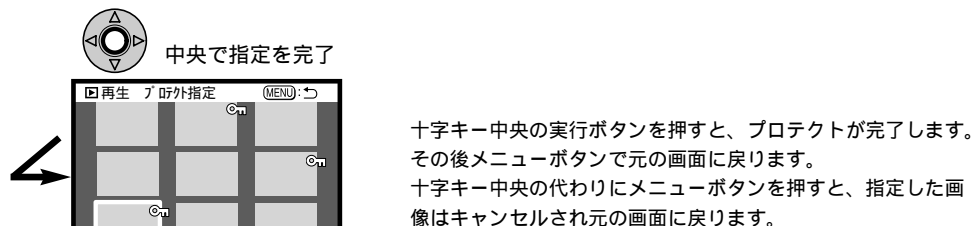
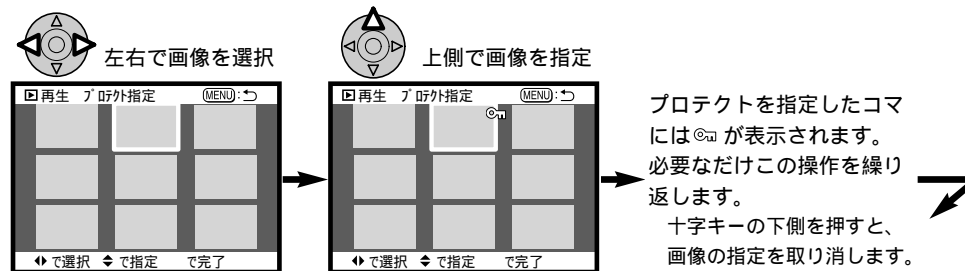
撮影した画像をロックし、間違って消去しないようにすることができます。以下の4通りのプロテクト方法があります。

1コマプロテクト（このコマ）：再生中の画像1コマだけにプロテクトをかけます。
1コマだけプロテクトを取り消す場合にも使用します。
全コマプロテクト：　フォルダ内の画像すべてにプロテクトをかけます。
プロテクトするコマを指定：　指定した画像だけにプロテクトをかけます。
全コマプロテクト取り消し：　フォルダ内の画像すべてのプロテクトを取り消します。

1. 再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

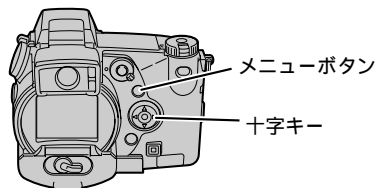
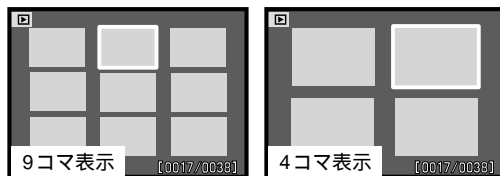
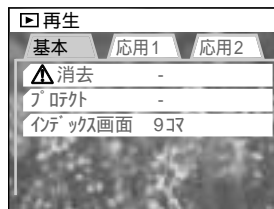
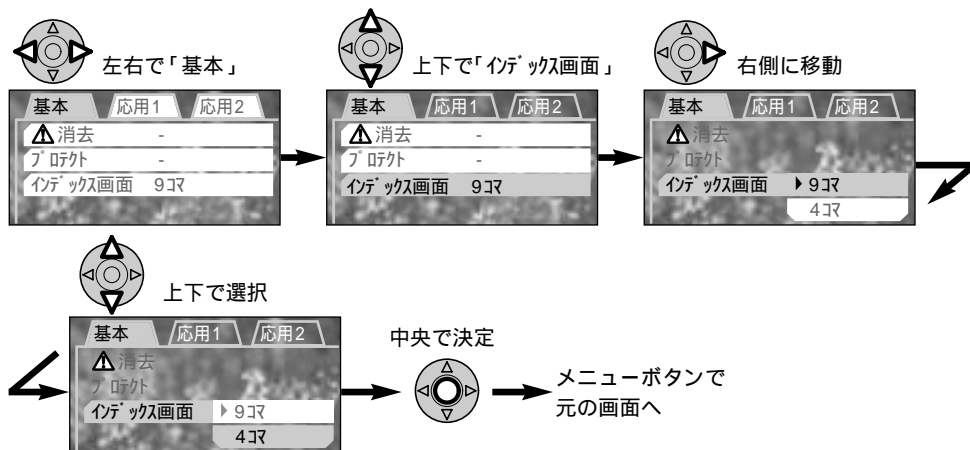
3.「コマを指定」の場合、十字キーでプロテクトをかける（または解除する）コマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

プロテクトを指定したコマには🔑が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

● 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

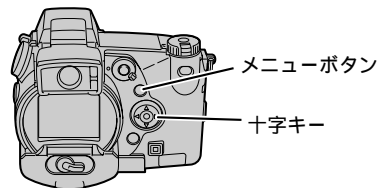
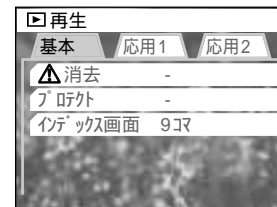
● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プロテクトが完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

● 再生時、プロテクトのかかった画像には、液晶モニター／ファインダー内に🔑が表示されます。

インデックス画面の切り替え

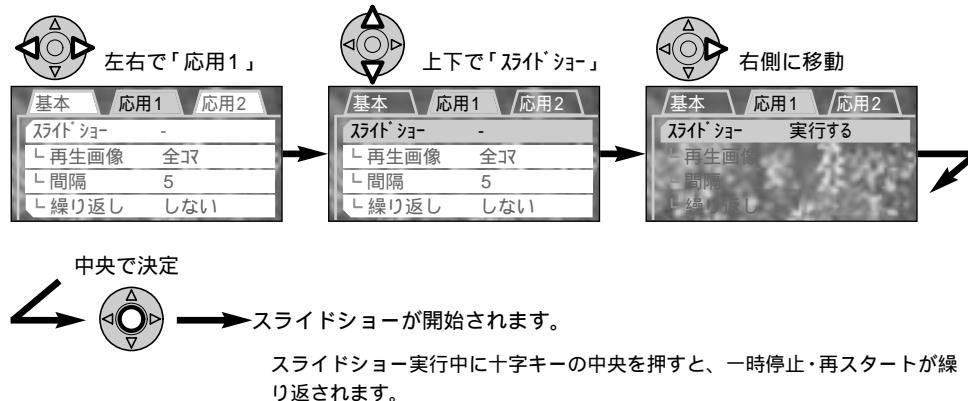
インデックス画面を、9コマ表示または4コマ表示に設定することができます。初期設定は9コマ表示です。

1. 再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

スライドショー（画像の自動再生）

カードに記録されている画像を、自動的に順番に表示させることができます。初期設定では、カード内のすべての画像が最初から順に5秒ずつ表示されます。

1. 再生モード位置で、メニューボタンを押します。

再生
基本　応用1　応用2
消去　ー
ﾌﾟﾛﾃｸﾄ　ー
ｲﾝﾃﾞｯｸｽ画面　9ｺﾏ

2. 十字キーでスライドショーを開始させます。

スライドショーが開始されます。

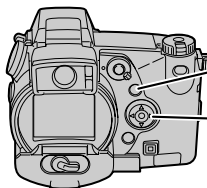
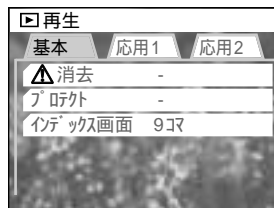
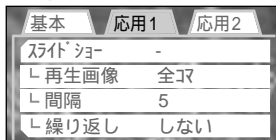
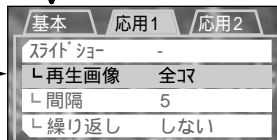
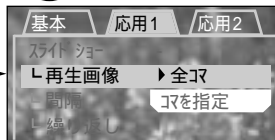
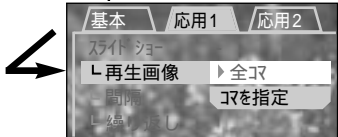
● スライドショー実行中に十字キーの中央を押すと、一時停止・再スタートが繰り返されます。

3. スライドショーを終えるときは、十字キーの下側を押します。

● その後メニューボタンを押すと、元の再生モードに戻ります。

● 動画はスライドショーでは再生されません。

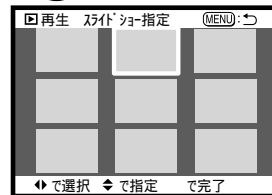
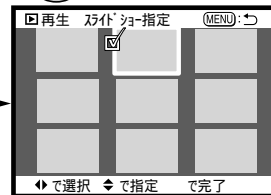
スライドショーの設定変更

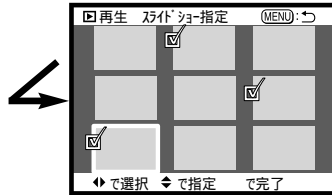
スライドショーの設定を以下の通り変更することができます。

再生画像：　全コマを再生する／再生するコマを指定する
間隔（画像表示時間）：　1〜60秒
繰り返し：　する／しない

1.再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

「再生画像」で「コマを指定」を選んだ場合
3に進んでコマを指定

上記以外
続けて「スライドショー」「実行する」で
スライドショー再生 →P.131

●十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。

3.「コマを指定」の場合、十字キーでスライドショー再生するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

スライドショーを指定したコマには☑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

●十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

●十字キー中央の実行ボタンを押すと、スライドショーのコマ指定は完了します。

●十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

続けて「スライドショー」「開始する」で
スライドショー再生 →P.131

●動画を指定することはできません。

プリント指定

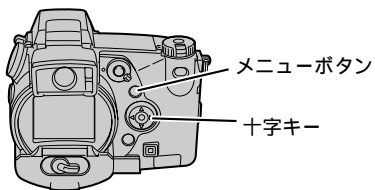
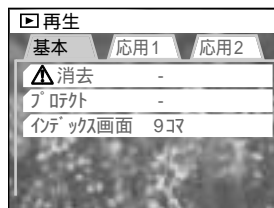
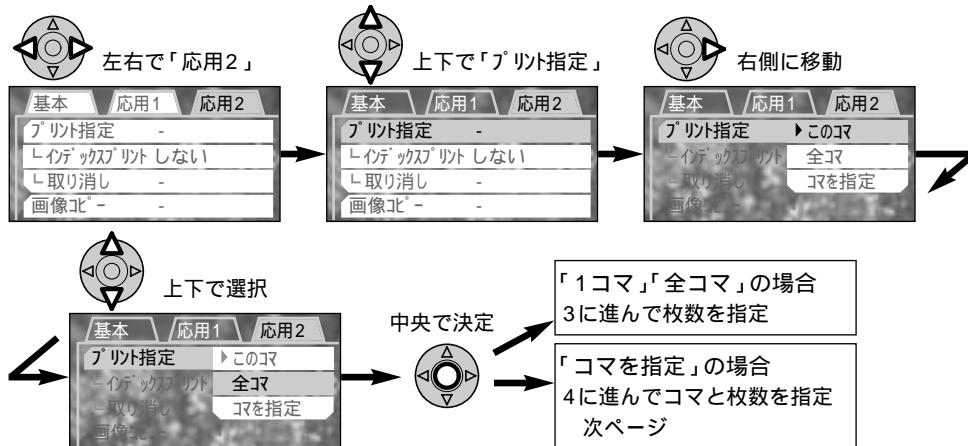
このカメラでプリント指定したコンパクトフラッシュ（CF）カードを、DPOF*対応のプリント店に渡せば、画像のプリントをしてもらうことができます。どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめカメラで指定しておくことができます。
同様に、DPOF対応のプリンタにCFカードをセットすると、パソコンを介さずに直接画像をプリントすることができます。この場合も、どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめカメラで指定しておくことができます。

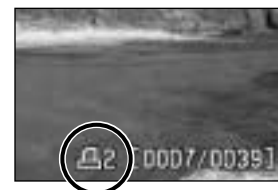
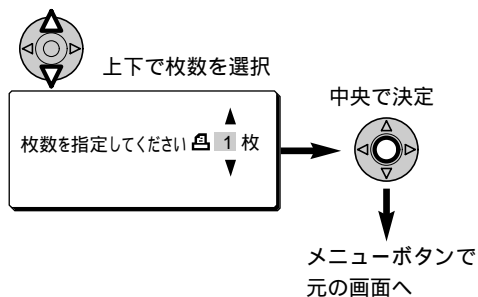
*DPOF＝ディーポフ、Ditigal Print Order Formatの略。CFカード等のメディアに入っているデータのうち、どれを印刷するのかを指定する方法。

プリント指定

どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の3通りの指定方法があります。

1コマプリント（このコマ）：再生中の画像を1コマだけプリントします。
全コマプリント：フォルダ内の画像すべてをプリントします。
コマを指定：指定した画像だけをプリントします。

● RAW画像と動画はプリント指定できません。

1. 再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

3.「1コマ」「全コマ」の場合、十字キーで希望の枚数を選んで実行します。

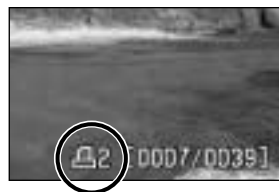
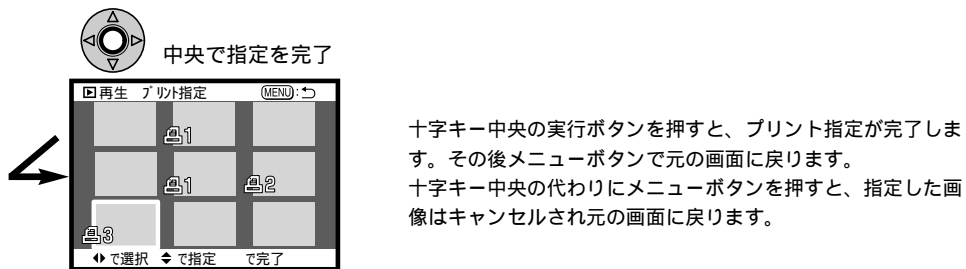
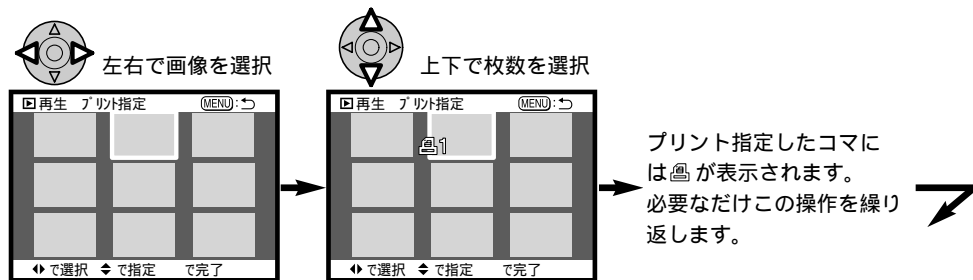
● 1コマプリントの場合、指定した1コマのプリント枚数を選ぶことができます（0～9枚）。
● 全コマプリントの場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0～9枚）。

● 再生時、プリント指定された画像には、液晶モニター／ファインダー内に と枚数が表示されます。

4.「コマを指定」の場合、十字キーでプリントするコマを指定して枚数を選び、中央の実行ボタンで実行します。

● コマ指定プリントの場合、各コマごとに希望のプリント枚数を選ぶことができます（0〜9枚）。

プリント指定したコマには🖶が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

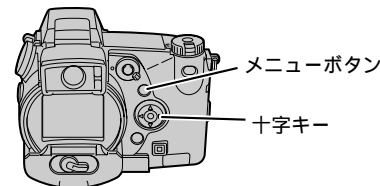
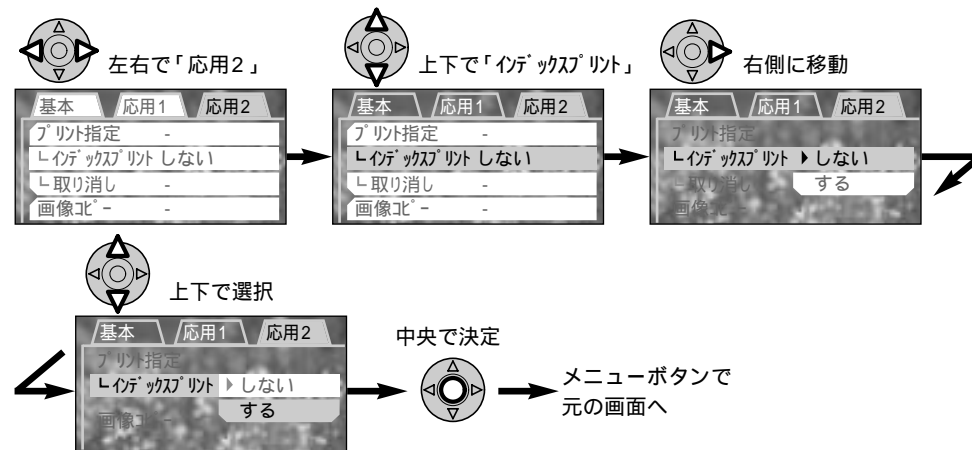
● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プリント指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。

● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

● 再生時、プリント指定のかかった画像には、液晶モニター／ファインダー内に🖶と枚数が表示されます。

インデックスプリント

フォルダに記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます（インデックスプリント）。このカメラでは、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントの有無を指定することができます。初期設定ではインデックスプリントはされません。

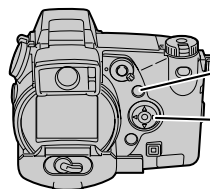
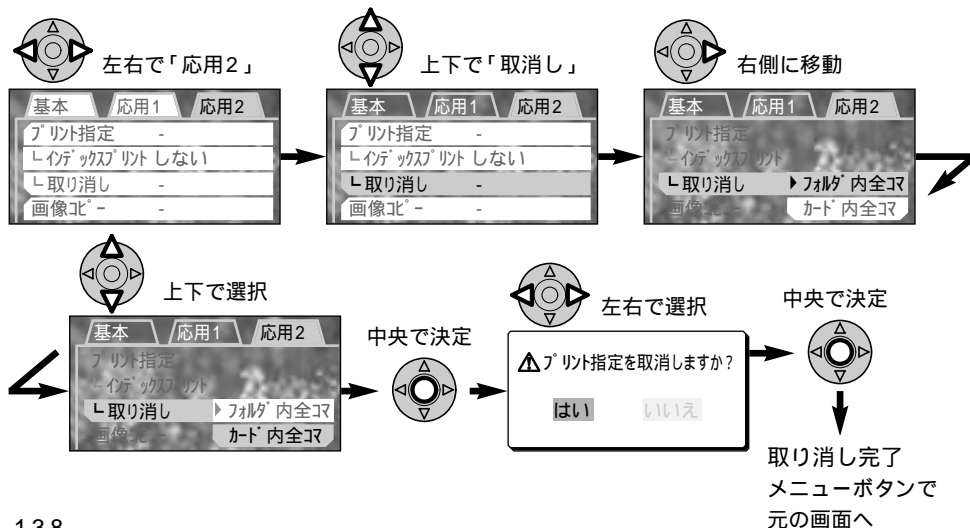
● 1枚のプリントに印刷される画像の数は、プリンタによって異なります。

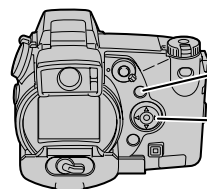
1. 再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

プリント指定の取り消し

134～137ページで指定したプリント指定をすべて取り消すことができます。インデックスプリントも取り消されます。
カード内全コマ： コンパクトフラッシュカード内のすべての画像のプリント指定を取り消します。
フォルダ内全コマ： フォルダ内のすべての画像のプリント指定を取り消します。
※カードとフォルダの関係については →P.151

1.再生モード位置で、メニューボタンを押します。

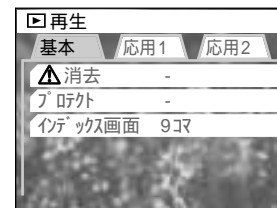
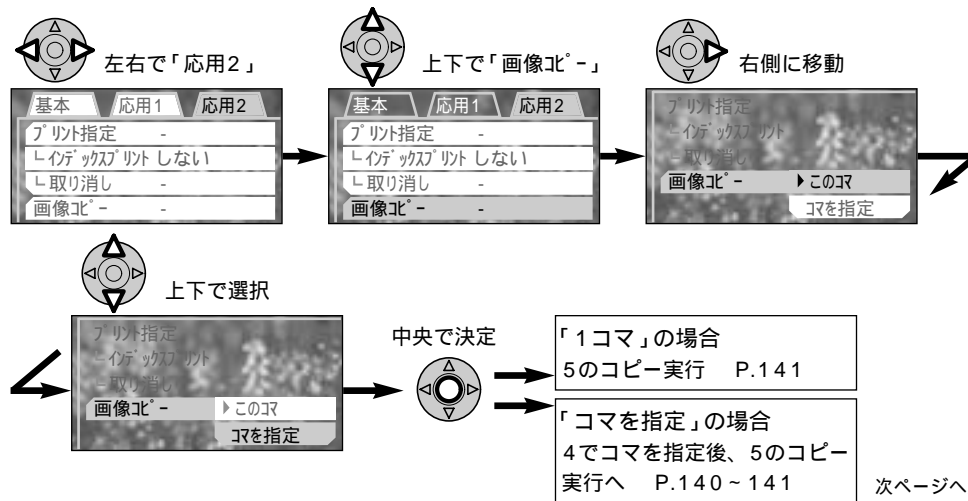
2.十字キーで希望の設定を選びます。

取り消し完了
メニューボタンで
元の画面へ

画像のコピー

あるCFカードに記録された画像を、別のCFカードにコピーすることができます。
1コマコピー（このコマ）： 再生中の画像を1コマだけコピーします。
コマを指定： 指定した画像だけをコピーします。

1.コピーする画像が入ったコンパクトフラッシュカードをカメラに入れます。

2.再生モード位置で、メニューボタンを押します。

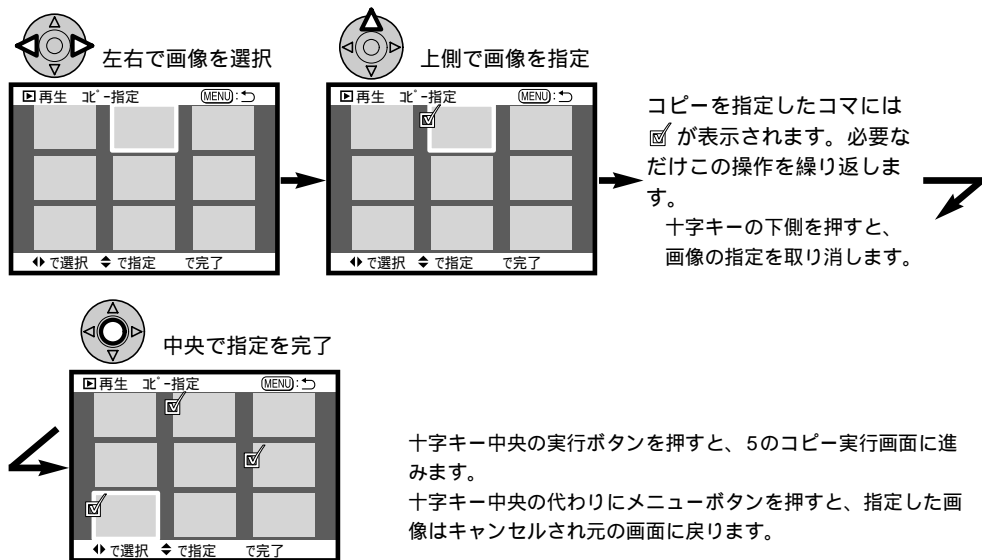
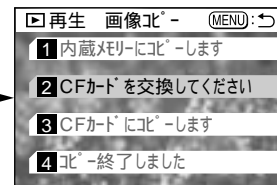
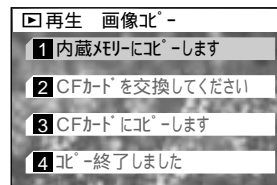
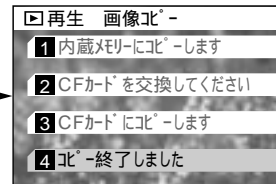
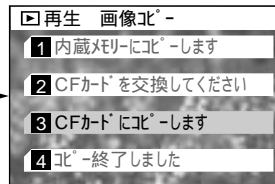
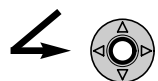
3.十字キーで希望の設定を選びます。

「1コマ」の場合
5のコピー実行 →P.141

「コマを指定」の場合
4でコマを指定後、5のコピー実行へ →P.140～141

次ページへ続く

4.「コマを指定」の場合、十字キーでコピーするコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

コピーを指定したコマには☑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。
- 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

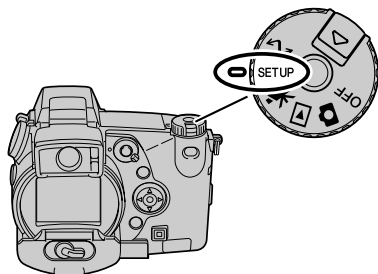
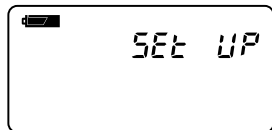
中央で指定を完了

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、5のコピー実行画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

5.画面の指示に従ってコピーを続けます。

CFカードを交換した後（→P.26）、十字キー中央の実行ボタンを押します。
- CFカードを交換せずに同一カード内でコピーすることも可能です。
- メニューボタンで元に戻ります。

コピー先のフォルダ名が表示されます。
- コピーするたびに新しいフォルダが作成されます。

「画像が多すぎます。」というメッセージが現れた場合

指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリーにコピーできません。画像の数を減らして指定し直してください。（内蔵メモリーには約10MBコピーできます。）

「ｻｲｽﾞが大きすぎます。」というメッセージが現れた場合

指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリーからCFカードにすべての画像をコピーすることはできませんでした。（一部コピーされた場合もあります）

セットアップモード

この章では、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルがSET UP位置（セットアップモード）にあるときの各種設定について説明しています。カメラの細かな設定を変更することができます。

- ダイヤルをOFFまたは の位置から動かす場合は、ロック解除ボタンを △ の方向に押しながらダイヤルを回します。

SETUP
基本　応用1　応用2
ﾓﾆﾀｰ明るさ　3
EVF明るさ　3
⚠ﾌｫｰﾏｯﾄ　ー
ﾊﾟﾜｰｾｰﾌﾞ　1 分
操作音　高い
言語/Lang.　日本語

ダイヤルをSET UP位置（セットアップモード）にしていると、ファインダー／液晶モニター内の左上にSET UPが現れます。

SEt UP

上面データパネルには、SEt UPの文字が現れます。

セットアップモード時の設定

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルがSET UP位置（セットアップモード）にあるときは、以下の設定が可能です。十字キーを使って設定します。

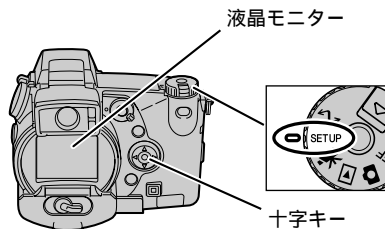
タブ	項目	設定
基本	モニター明るさ →P.144	1、2、○3、4、5
	EVF（ファインダー）明るさ →P.145	1、2、○3、4、5
	フォーマット（初期化） →P.146	実行する
	パワーセーブ →P.148	○1分、3分、5分、10分
	操作音 →P.149	○高い、低い、なし
	言語 →P.150	日本語、英語
応用1	ファイルNo.メモリ →P.155	○しない、する
	フォルダ選択 →P.154	○100MLT03（DiMAGE 7）／100MLT04（DiMAGE 5）
	（フォルダ選択）新規作成 →P.153	実行する
応用2	設定値リセット →P.156	実行する
	EVFオート設定 →P.158	○自動切り替え、自動ON
	日時設定 →P.160	実行する
	日付並び →P.161	○年月日、月日年、日月年
	ビデオ出力 →P.123	○NTSC、PAL

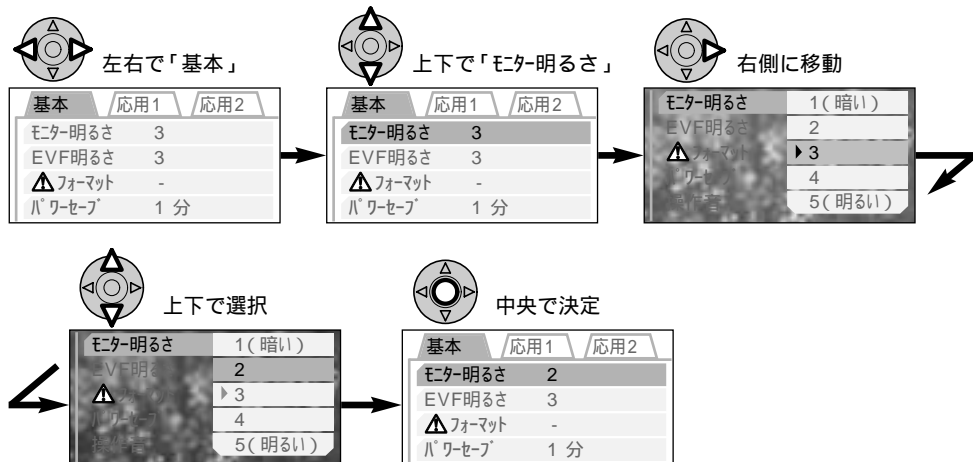
○印は初期設定値です。

液晶モニターの明るさ調整

液晶モニターの明るさを調整することができます。

液晶モニター

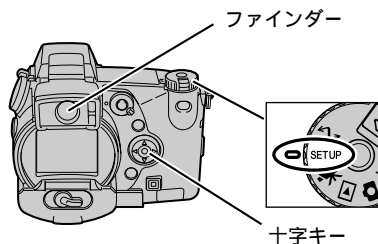
SETUP

十字キー

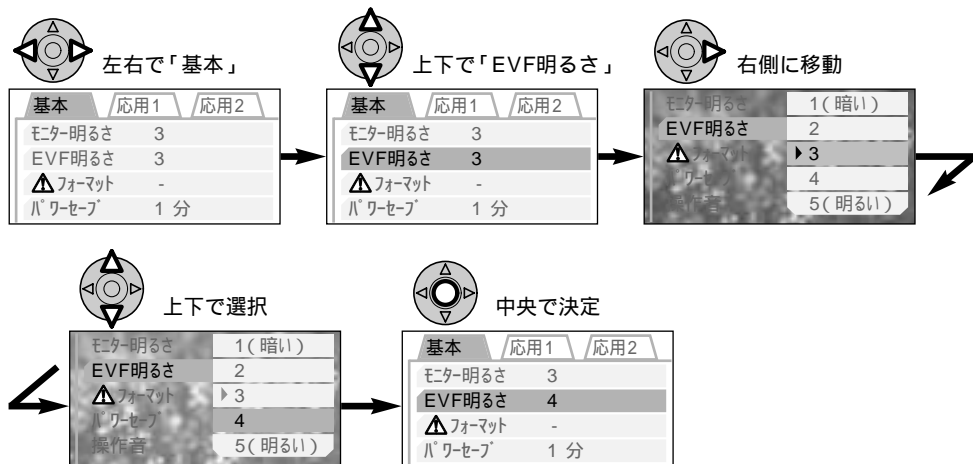
1.セットアップモード位置にします。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

●明るさは、1〜5の5段階から選択することができます。初期設定は3です。

ファインダー（EVF）の明るさ調整

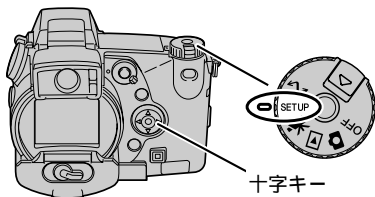
ファインダー（EVF）の明るさを調整することができます。

●EVF（ファインダー）の明るさを調整するときは、EVFをのぞいて行なってください。

1.セットアップモード位置にします。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

●明るさは、1〜5の5段階から選択することができます。初期設定は3です。

コンパクトフラッシュカードのフォーマット（初期化）

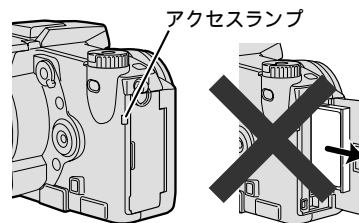
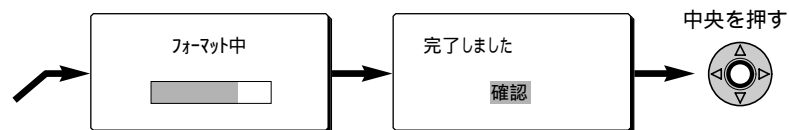
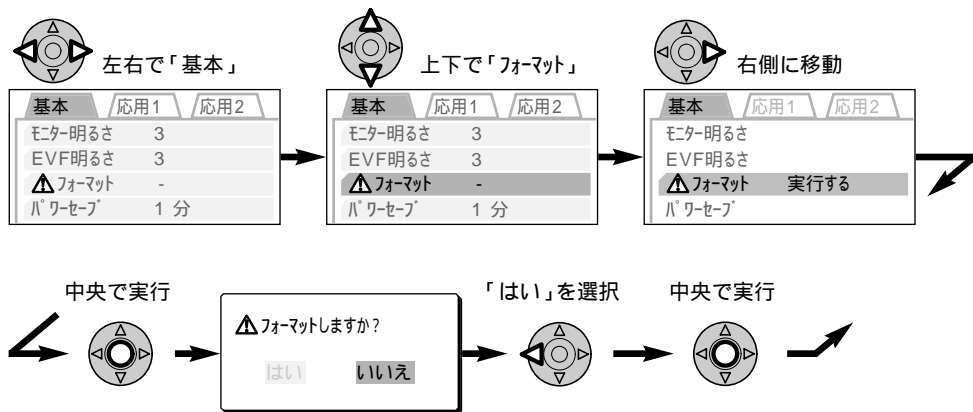
カード内の画像やフォルダをすべて消去するときには、コンパクトフラッシュカード（CFカード、以下カード）のフォーマットが便利です。フォーマットにより、カードはご購入時の状態に戻ります。

フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

1. フォーマットするカードをカメラに入れます。

2. セットアップモード位置にします。

SETUP

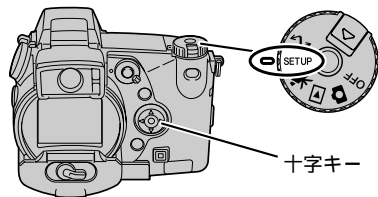
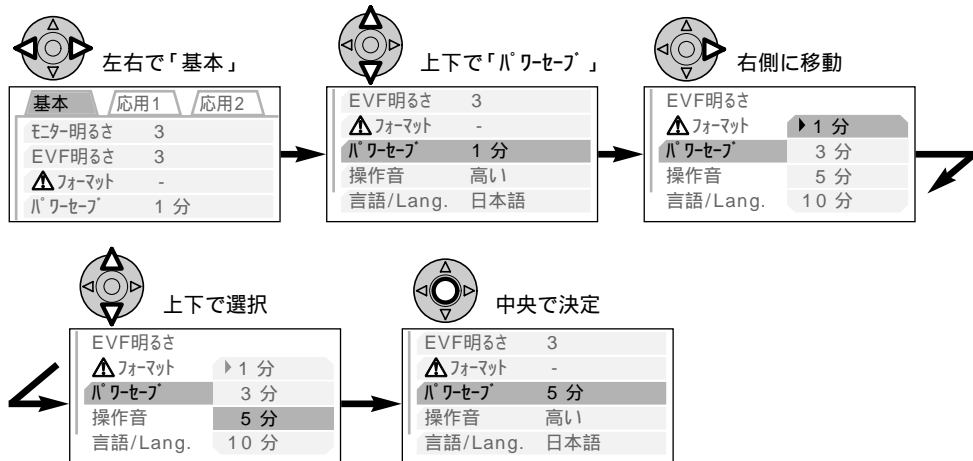
基本	応用1	応用2
ﾓﾆﾀｰ明るさ	3	
EVF明るさ	3	
⚠ﾌｫｰﾏｯﾄ	ー	
ﾊﾟﾜｰｾｰﾌﾞ	1 分	
操作音	高い	
言語/Lang.	日本語	

3. 十字キーでカードのフォーマットを行ないます。

● フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はカードを抜かないでください。

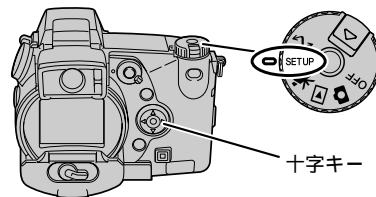
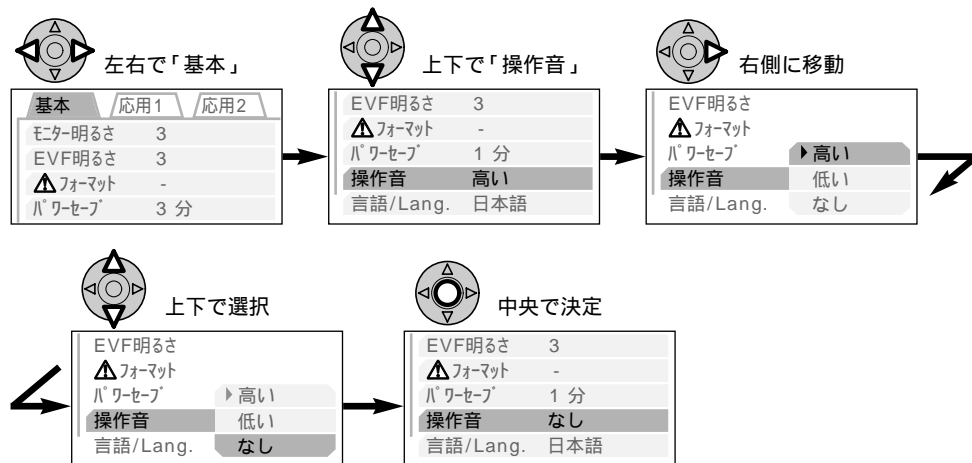
フォーマット

パワーセーブまでの時間変更

このカメラは、初期設定では約1分以上何も操作をしないでいると、自動的に省電力設定になり、上面データパネルとファインダーが消灯します（パワーセーブ →P.25）。このパワーセーブまでの時間を、1分、3分、5分、10分のいずれかに変更することができます。

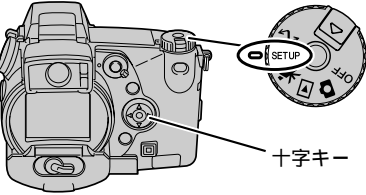
● 液晶モニターは約30秒間何も操作をしなければ消灯します。この時間の変更はできません。

1. セットアップモード位置にします。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

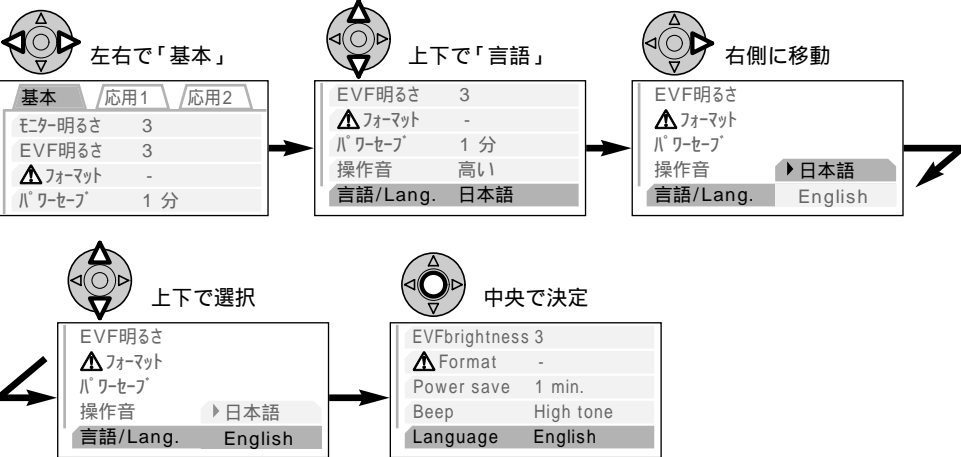
操作音の設定

ボタンを押す等カメラを操作すると、操作音が出ます。その音の高低を変えたり、音が鳴らないようにしたりすることができます。初期設定は高音になっています。

1. セットアップモード位置にします。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

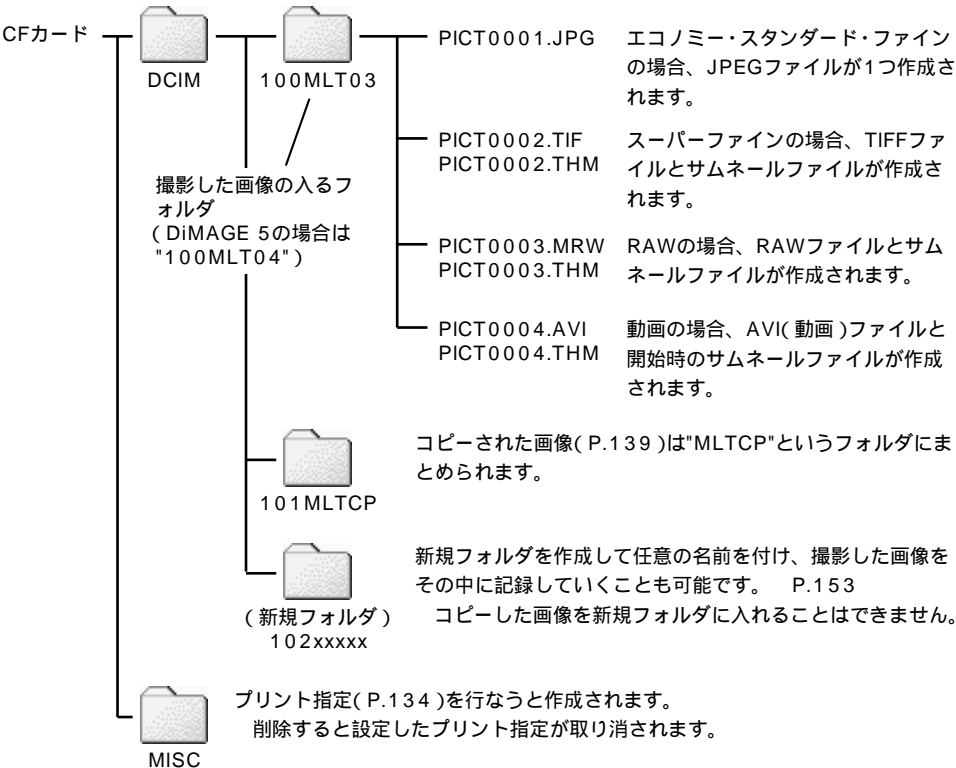
● 音の大きさ（音量）を変更することはできません。

言語設定

液晶モニターやファインダーに表示される言語を、日本語または英語のどちらかに設定することができます。初期設定は日本語です。

1. セットアップモード位置にします。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つまたは2つのファイルが作成され、CFカード内のフォルダに入れられます。カード内のファイルとフォルダの構成は以下の通りです。

フォルダ名とファイル名

フォルダ名について

例：　100 MLT03

フォルダの通し番号（100～）　識別文字

フォルダ名は、フォルダの通し番号3桁＋識別文字5文字、から成り立っています。
通し番号（フォルダ番号）は100から始まり、フォルダが作成されるたびに1つずつ増えて行きます。
識別文字は、初期設定は"MLT03"（DiMAGE 7）または"MLT04"（DiMAGE 5）、コピーされた画像の入るフォルダは"MLTCP"です。新規フォルダを作成すると、任意の識別文字を付けることができます。

- フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか（P.163～）、カードをフォーマットしてください（P.146）。

ファイル名について

例：　PICT 0001 .JPG

ファイルの通し番号（0001～）　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

PICTの後の4桁の通し番号（ファイル番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。

- カメラ側で消去された画像の通し番号は欠番となります。フォルダ内の画像をすべて消去すると、通し番号は再び0001から始まります（ファイルNo.メモリなしの場合）。
- "PICT9999"まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（前ページの場合だと"103MLT03"）、その中で再び"PICT0001"から画像の記録が開始されます。
- フォルダを変更すると、初期設定では常にファイル名は"PICT0001"から始まります。※変更するには → P.155
- お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

新規フォルダの作成

ご自分で新規にフォルダを作成して任意の名前を付けることができます。場面別にファイルを管理するときに便利です。

十字キー

1.セットアップモード位置にします。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

左右で「応用1」

上下で「新規作成」

右側に移動

中央で決定

十字キーでフォルダ名を入力します。
最初の通し番号3桁はすでに入力されており（変更不可）、続く5文字を入力することができます。
十字キーの上下左右で文字を選択し、中央の実行ボタンで文字を1つずつ確定していきます。

※入力した文字の削除・上書き方法については →P.110

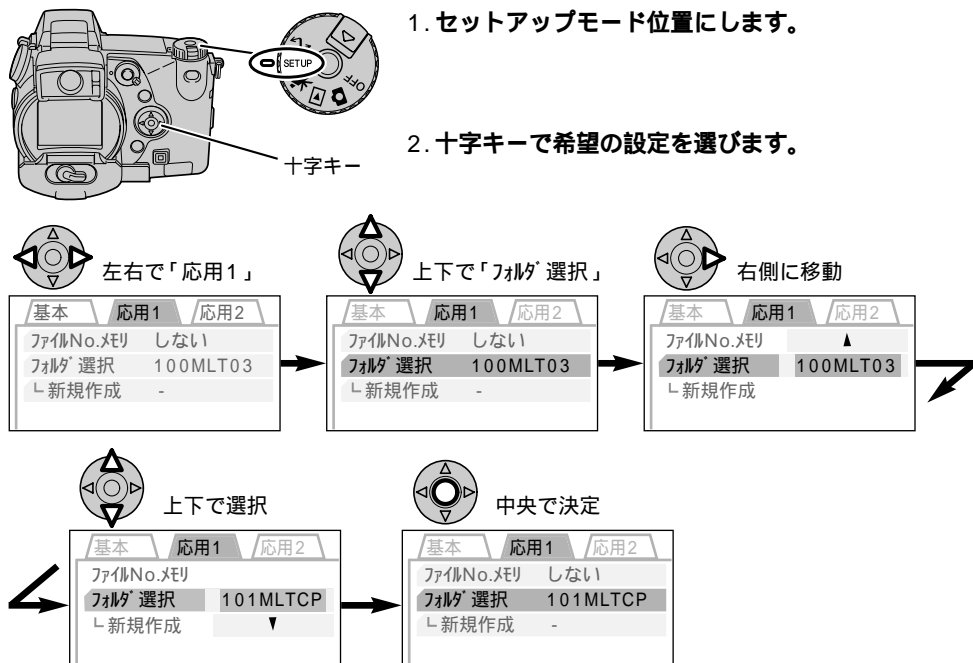
入力後はEnterを選び、中央の実行ボタンを押します。

- 入力文字は必ず5文字にしてください。それ以外の文字数は設定できません。
- "_"（アンダーバー）以外の記号および小文字は使用できません。

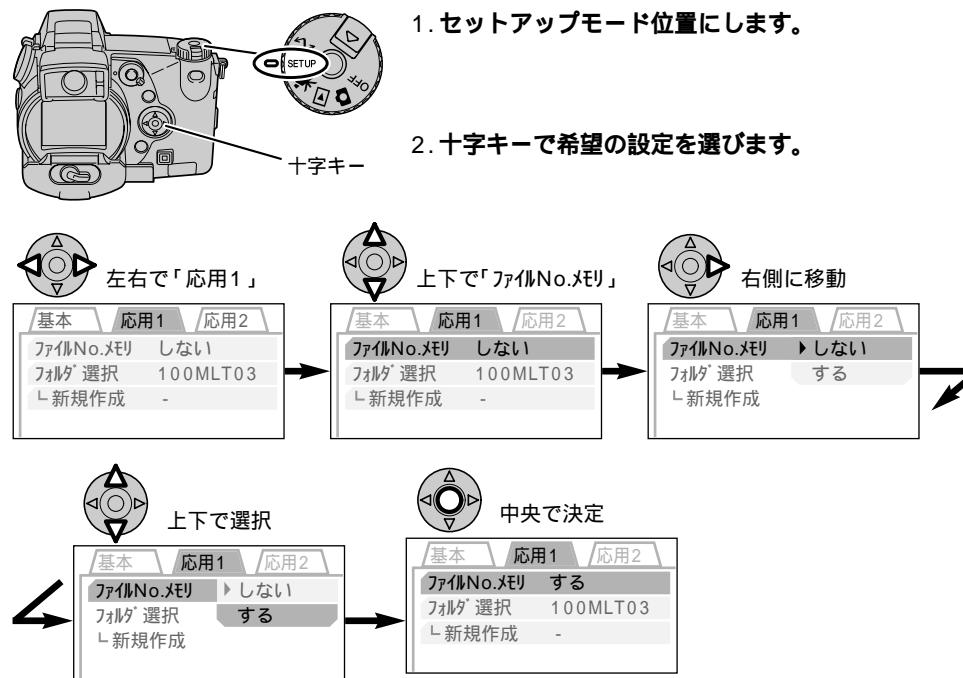
フォルダ選択

フォルダが2つ以上存在する場合、撮影した画像が記録されるフォルダを選ぶことができます。
また通常の再生やスライドショーは、カード単位でなくフォルダ単位で行われます。消去やプロテクト等で全コマを選択した場合も、通常はカード内全コマでなくフォルダ内全コマのことを意味します（プリント指定取り消しのカード内全コマを除く）。以下の方法で撮影・再生等行なうフォルダを選択することができます。

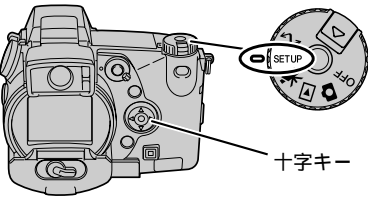
1. セットアップモード位置にします。

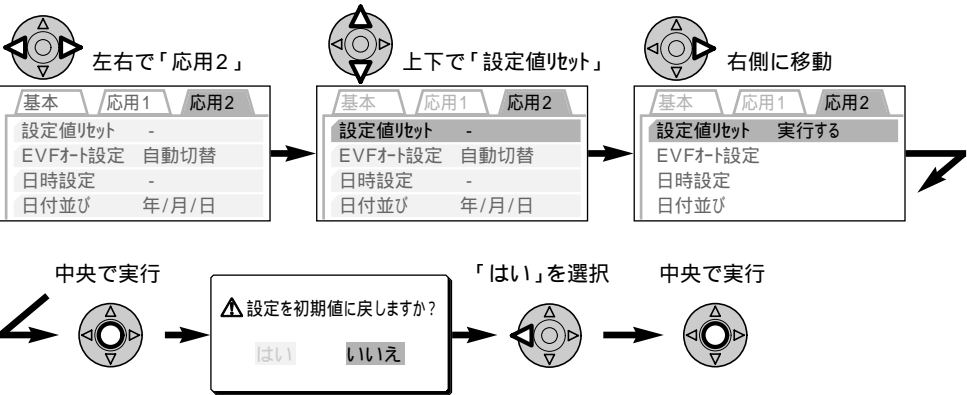
2. 十字キーで希望の設定を選びます。

ファイルNo.メモリ

前ページでフォルダを変更すると、ファイル名は再び"PICT0001"から始まります。続き番号から始めるようにすることも可能です。
しない： ファイルNo.メモリはされず、フォルダが変わるとファイル番号は0001から始まります。
する： ファイルNo.メモリが機能し、フォルダが変わってもファイル番号はそのまま続きます。

1. セットアップモード位置にします。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

設定値リセット

カメラのほとんどの設定を、お買い上げ時の初期設定に戻すことができます。

1.セットアップモード位置にします。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

●リセットされる内容は次ページの通りです。

ダイヤル等で設定するもの

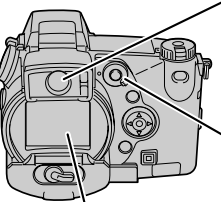
項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
画像サイズ	FULL	48
画質	スタンダード	49
露出モード	Pモード	52
ドライブモード	1コマ撮影	60
ホワイトバランス	自動設定	70
撮像感度	自動設定	72
コントラスト	±0	74
露出補正	±0	76
彩度	±0	77
フォーカスエリア	ワイド	－
フォーカスモード	オートフォーカス	－
デジタルズーム	解除	81

撮影モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
オートフォーカスモード	ワンショットAF	88
測光モード	多分割測光	90
フラッシュモード	通常発光	92
調光補正	±0	94
調光モード	ADI調光	96
ブラケット段数	0.3EV	64
インターバル撮影	1分	66
インターバル撮影枚数	2枚	67
AF/AEロックボタン	押す間AF/AEロック	102
拡大ボタン	デジタルズーム	104
シャープネス	標準	106
カラーモード	カラー	107
写し込み	なし	108
アフタービュー	なし	112

再生モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
消去	このコマ	126
プロテクト	このコマ	128
インデックス画面	9コマ	130
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ再生画像	全コマ	132
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ間隔	5秒	132
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ繰り返し	しない	132
プリント指定	このコマ	134
インデックスプリント	しない	137
プリント指定取り消し	フォルダ内全コマ	138
画像コピー	このコマ	139

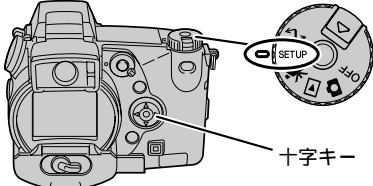
セットアップモードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
モニター明るさ	3	144
EVF明るさ	3	145
パワーセーブ	1分	148
操作音	高い	149
ファイルNo.メモリ	しない	155
EVFオート設定	自動切り替え	158

通信モードメニュー

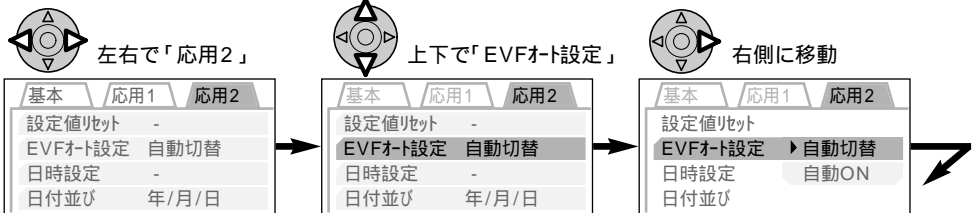
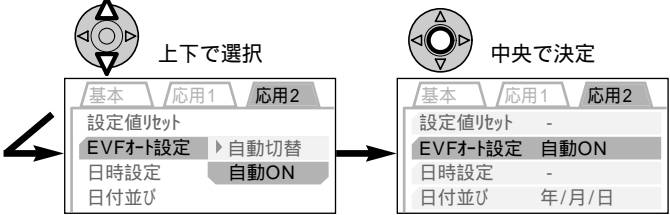
項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
通信情報（メールアドレス、ユーザー名等）	削除	180｜184

EVFオート設定の機能変更

ファインダー（EVF）

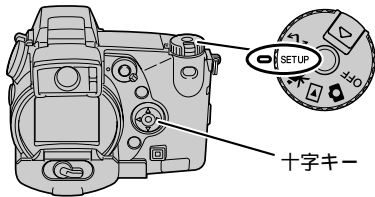
液晶モニター

画像は、カメラ背面の液晶モニターまたはファインダー（EVF）に表示されます。

ディスプレイ切り替えレバーには、画像の表示場所が自動的に切り替わるA（AUTO）があります。その機能を変更し、液晶モニターをOFFにして、電池の消耗を最小限に抑えることができます。

EVFｵｰﾄ設定 / ﾚﾊﾞｰの位置	自動切り替え（初期設定）	自動ON
EVF	ファインダーにのみ常時表示	ファインダーにのみ常時表示
A	ファインダーをのぞいているときにはファインダーに表示、のぞいていないときは液晶モニターに表示	ファインダーをのぞいているときにはファインダーに表示、のぞいていないときは画像表示なし
｜O｜	液晶モニターにのみ常時表示	液晶モニターにのみ常時表示

- 上の表の■部分（EVFオート設定が「自動ON」、ディスプレイ切り替えレバーがA位置）のときが、電池の消耗が最小になります。
- 上の表の右側の「自動ON」が機能するのは、撮影モードおよび動画撮影モードのみです。再生モード時には「自動切り替え」と同様、Aにしていてもファインダーをのぞいていなければ液晶モニターに画像が表示されます。

EVFオート設定

日時設定

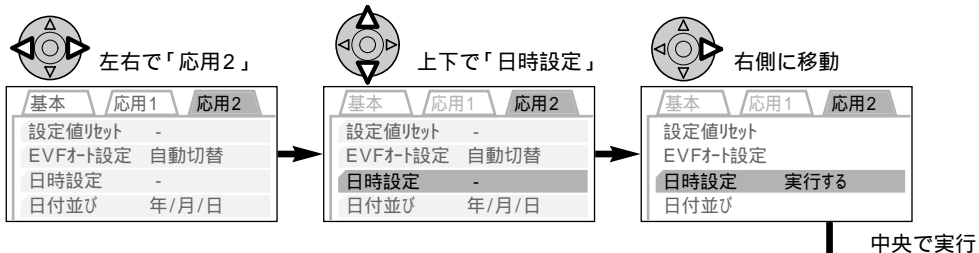
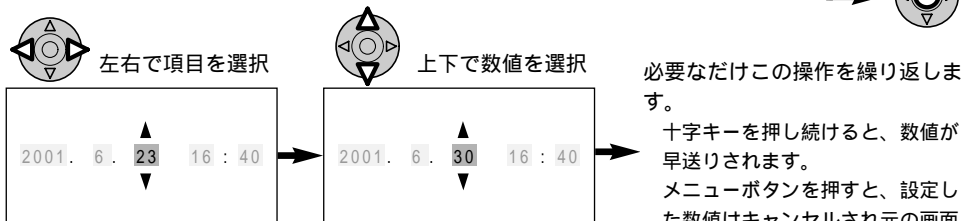
日時の修正が必要な場合は、以下の手順で行なってください。

● 2100年までの日付が記憶されており、撮影のたびに数値を設定する必要はありません。

1. セットアップモード位置にします。

2. 十字キーで日時設定画面を選びます。

3. 十字キーで日時と時刻を設定します。

必要なだけこの操作を繰り返します。

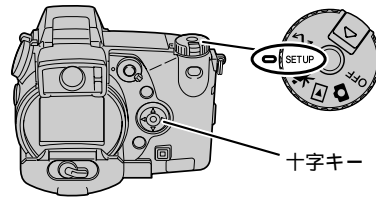
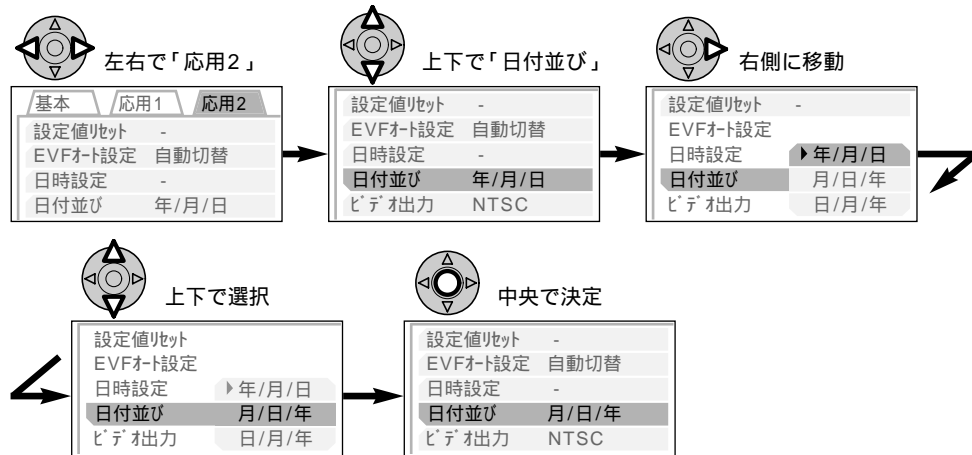
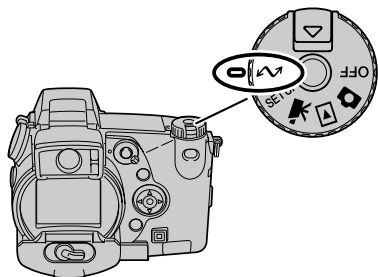
● 十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。

● メニューボタンを押すと、設定した数値はキャンセルされ元の画面に戻ります。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押すと、時計がスタートします。

日付並び

「年月日」の並び順を、「月日年」または「日月年」に変えることができます。

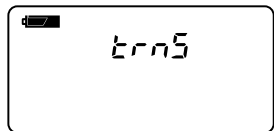
1. セットアップモード位置にします。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

日時設定・日付並び

通信モード

この章では、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが〜位置（通信モード）にあるときの各種設定について説明しています。画像をパソコンに取り込んだり、市販のモデムカード等を用いて画像を送信したりすることができます。

● ダイヤルをOFFまたは📷の位置から動かす場合は、ロック解除ボタンを△の方向に押しながらダイヤルを回します。

ダイヤルを〜位置（通信モード）にしていると、ファインダー／液晶モニター内の左上に「〜通信」が現れます。

trnS

上面データパネルには、trnS（transferの略）の文字が現れます。

パソコンに接続する（USB接続）

以下のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、カメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です。接続にはUSBケーブルが必要です。別売りのディマージュインターフェースキット IF-DG7に付属のケーブルをお使いください。

USB端子を標準装備し、Windows MeまたはWindows 2000がプリインストールされたIBM PC/AT互換機

そのままカメラに接続してお使いになれます。→P.166

USB端子を標準装備し、Windows 98または98 Second EditionがプリインストールされたIBM PC/AT互換機

別売りのディマージュインターフェースキットのCD-ROMから、パソコンにドライバをインストールする必要があります。その後カメラに接続してお使いください。→P.164

USB端子を標準装備し、Mac OS 9または9.1がプリインストールされたApple Macintosh

そのままカメラに接続してお使いになれます。→P.166

USB端子を標準装備し、Mac OS 8.6がプリインストールされたApple Macintosh

アップルコンピュータ社のサイトから、ドライバをダウンロードする必要があります。その後カメラに接続してお使いください。→P.165

● プリインストールとは、お買い上げ時にすでにインストールされている状態のことを指します。例えばWindows 95から98にアップグレードしたものは動作保証対象外です。
● Mac OS X（10.0.3）については、Apple Macintosh G4にて動作確認済みです。
● ハブ接続した場合は、正常に動作しない場合があります。そのような場合は、パソコン本体のUSB端子に直接接続してください。
● 自作機、ショップブランドなどの各種ボード類を含めて組み立てられた機種は除きます。
● Windows 95やNT4.0は、USB接続は動作保証対象外ですが、市販のPCカードアダプタやCFカードリーダーを用いて、CFカードの画像を直接パソコンで読み取ることは可能です。

Windows 98／98SEをお使いの場合

Windows 98／98 Second Editionをお使いの場合、別売りのディマージュインターフェースキット IF-DG7のディマージュソフトウェアCD-ROMから、パソコンにドライバをインストールする必要があります。

1. ディマージュソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

● 左の画面が現れます。

2. ［USBデバイスドライバ インストーラの起動］をクリックします。

3. 以下のインストール確認画面が出たら、［OK］をクリックします。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュソフトウェアCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→P.166

Mac OS 8.6をお使いの場合

パソコンに接続する前に、アップルコンピュータ社のサイトからドライバ（USB Mass Storage Support 1.3.5）をダウンロードし、インストールする必要があります。

1. ご使用のパソコンのインターネットブラウザを起動させ、以下に接続してください。
http://til.info.apple.com/techinfo.nsf/artnum/n60394

ここをクリックしてドライバをダウンロードします。

● 左記はアップルコンピュータ社のサイトであり、2001年6月現在日本語のサイトはありません。またサイトのURLや構成等は予告なく変更されることがあります。

USB Storage Support 1.3.5.smi

2. ダウンロードファイルのアイコンをダブルクリックします。

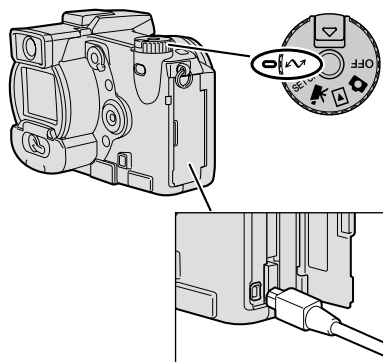
● 使用許諾契約画面に続いて、インストーラアイコンが現れます。

USB Mass Storage Install

3. インストーラアイコンをダブルクリックします。

● 後は画面の指示にしたがってインストールを進めてください。インストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→P.166

● 上記の方法でインストールできない場合、該当するサイトが見つからない場合、またさらに詳しい情報については、アップルコンピュータ社にお問い合わせください。

カメラとパソコンの接続

1.パソコンの電源を入れます。

2.カメラのメインスイッチ／モード切り替えダイヤルを位置（通信モード）に合わせます。

● カメラにカードが入っているのを確認してください。

3.カードスロットふたを開け、インターフェースキットに付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタを、USB端子に差し込みます。

● 奥まで確実に差し込んでください。

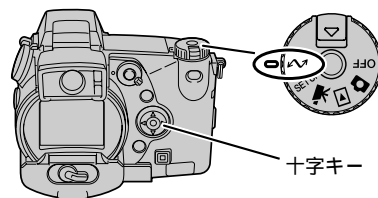
4.USBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。

● 奥まで確実に差し込んでください。

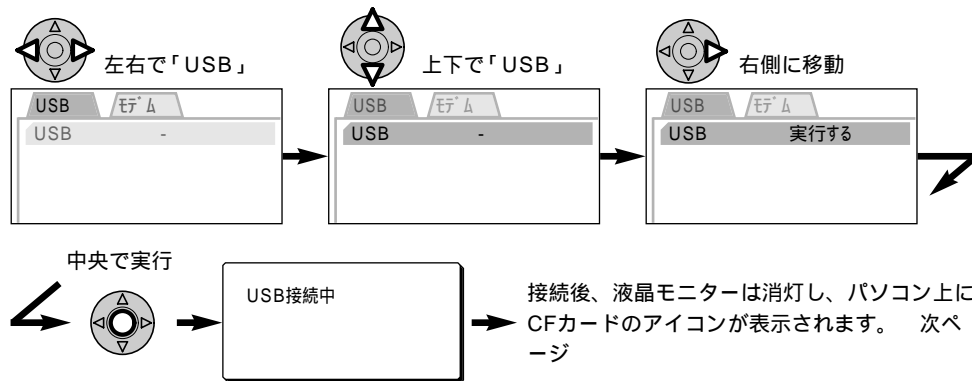
● USB接続は、接続する際にはカメラやパソコンの電源を入れたまま行なうことができますが、取り外す際にはP.172の指示にしたがってください。

続いてカメラをUSB接続にします。→次ページ

カメラをUSB接続にする

カメラとパソコンの接続が完了すると、続いてカメラをUSB接続に設定します。

1.カメラを通信モード位置にします。

2.十字キーでUSBを選びます。

接続後、液晶モニターは消灯し、パソコン上にCFカードのアイコンが表示されます。→次ページ

● USB接続中は、カメラを10分間操作しないでいると自動的にカメラがOFFになります（「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが出ることもあります）。必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、USB接続を解除することをおすすめします。

● Windows 98／98SE使用時に、接続後［新しいハードウェアの追加ウィザード］の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→P.170

画像ファイルを開く

USB接続が完了すると、カメラ内のCFカードの画像をパソコンで見ることができます。

Windowsでは、カードがマイ コンピュータ上に「リムーバブル ディスク」として現れます。ダブルクリックすると開けることができます。

Macintoshでは、カードがデスクトップ上に「名称未設定」として現れます。ダブルクリックすると開けることができます。

カード内の画像は、通常のファイルとしてパソコンの任意の場所にコピーすることができます。またパソコンのハードディスク内の画像をカードにコピーすることも可能です。
カード内のファイルとフォルダの構成についてはP.151をご覧ください。

- カードに該当するアイコンが表示されない場合は、パソコンを再起動してください。
- カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプターAC-1Lの使用をおすすめします。
- カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中には、以下の操作はしないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。
  - ・カメラのメインスイッチ／モード切り替えダイヤルを動かす。
  - ・USBケーブルを取り外す。
  - ・カードの出し入れを行なう。
- パソコンでカードのフォーマットをしないでください。フォーマットはカメラ側で行なってください。→P.146

撮影した画像をパソコンで表示させるのに必要なソフトウェア

このカメラで撮影した画像をパソコンで表示させるには、以下のソフトが必要です。

JPEG画像（エコノミー・スタンダード・ファインで撮影された画像）
最後に「.jpg」が付いているファイルで、一般的な画像表示ソフト等で開くことができます。お持ちでない場合は、別売りのディマージュソフトウェアCD-ROM内の「DiMAGE Image Viewer Utility」をインストールしてお使いください。→DiMAGE Image Viewer Utility使用説明書参照

TIFF画像（スーパーファインで撮影された画像）
最後に「.tif」が付いているファイルで、一般的な画像表示ソフト等で開くことができます。お持ちでない場合は、別売りのディマージュソフトウェアCD-ROM内の「DiMAGE Image Viewer Utility」をインストールしてお使いください。→DiMAGE Image Viewer Utility使用説明書参照

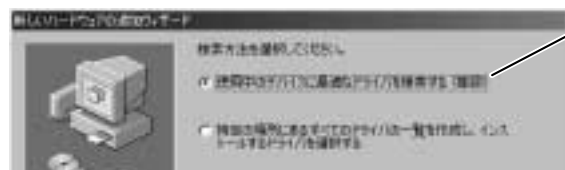
RAW画像（RAWで撮影された画像）
最後に「.mrw」が付いているファイルで、一般的な画像表示ソフトでは開くことができません。別売りのディマージュソフトウェアCD-ROM内の「DiMAGE Image Viewer Utility」をインストールしてお使いください。→DiMAGE Image Viewer Utility使用説明書参照

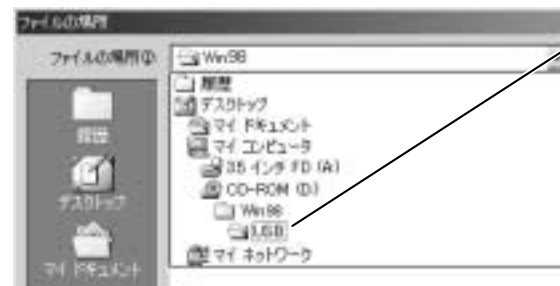
AVIファイル（動画）
最後に「.avi」が付いているファイルで、再生するにはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。Windowsで、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、別売りのディマージュソフトウェアCD-ROM内のQuickTimeをインストールしてお使いください。→P.194
- Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

サムネール画像
最後に「.thm」が付いているファイルです。DiMAGE Image Viewer Utilityのサムネール表示用です。

Windows 98／98SE接続時に以下の画面が現れた場合は

お使いのパソコンの環境によっては、P.164の要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。左の画面が表示された場合は、以下の要領でドライバを再インストールしてください。

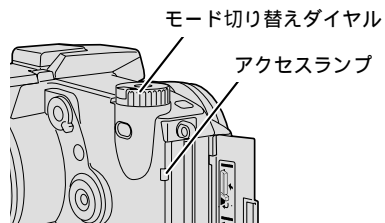
1. [次へ>] をクリックします。

2. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）] を選択し、[次へ>] をクリックします。

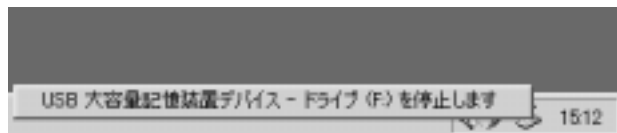
3. ディマージュソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
4. [検索場所の指定] を選択し、[参照（R）] をクリックします。

5. 検索場所を、[CD-ROM] – [Win98] – [USB] の順に指定します。

6. [次へ>] をクリックします。
7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、[次へ>] をクリックします。
8. インストールが完了すると、[完了] をクリックします。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュソフトウェアCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

USBケーブルの取り外し・接続中のカードの交換

USBケーブルを取り外す場合や、パソコンに接続した状態でカメラ内のCFカードを交換する場合は、先に以下の操作を行なってください。

Windows Meまたは2000の場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］のアイコンを左クリックします。

3. ［USBディスクの停止］（Windows Me）または［USB大容量記憶装置デバイスを停止します］（Windows 2000）を左クリックします。

4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］をクリックします。
5. モード切り替えダイヤルを 以外の位置に回します。
   - ●USB接続が解除されます。
6. USBケーブルを取り外します。（またはCFカードを交換します。）
   - ●カード交換後は、もう一度カメラのメニューボタンでUSB接続の実行を選んでください。

●前ページの2で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックも可能です。以下の手順に沿ってください。
1. ハードウェアの取り外し画面が現れたら、USBを選択して［停止］をクリックする。
2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］をクリックする。
4. USBケーブルを取り外す、またはCFカードを交換する。

Windows 98または98 Second Editionの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. モード切り替えダイヤルを 以外の位置に回します。
   - ●USB接続が解除されます。
3. ケーブルを取り外します。（またはカードを交換します。）
   - ●カード交換後は、もう一度カメラのメニューボタンでUSB接続の実行を選んでください。

Macintoshの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。
3. ケーブルを取り外します。（またはカードを交換します。）
   - ●カード交換後は、もう一度カメラのメニューボタンでUSB接続の実行を選んでください。

画像送信

市販のCFカードタイプのモデムカード等を使用すれば、パソコンがなくても、カメラで撮影した画像を外出先等から直接送信することができます（日本国内のみ）。2001年6月現在、このカメラで使用可能な機種は以下の通りです。

TDK　CFタイプ　データ／FAXモデム　DF56CF
NTT DoCoMo　データカード型PHS　P-in Comp@ct

画像を送信するためには、別売りのディマージュインターフェースキット IF-DG7に付属のCD-ROMを用いて、あらかじめ送信先やプロバイダなどの通信情報をカメラに設定しておく必要があります。具体的には以下の手順となります。

1. DiMAGE Image Viewer Utilityをインストールする。→P.176（Windows）、P.178（Macintosh）

● 通信設定ウィザードが同時にインストールされます。すでにインストールされている場合は次へお進みください。

2. CFカードを入れたカメラをパソコンに接続する。→P.163

● USB接続にする必要があります。

3. 通信設定ウィザードを立ち上げ、送信先やプロバイダなどの通信情報を、パソコンで入力する。→P.180

● 通信情報はカメラ内のCFカードに記録されます。

4. カメラとパソコンの接続を解除する。→P.172

5. カメラ内のCFカードの通信情報を、カメラ本体に転送します。→P.185

● 転送後、通信情報の入ったCFカードはカメラから取り出すことができます。

6. 画像の入ったCFカードをカメラに入れ、画像を送信します。→P.186

● 送信時に、画面の指示にしたがい、CFカードを抜いて上記のCFモデムカードまたはカード型PHSを入れてください。

DiMAGE Image Viewer Utilityのインストール

必要なシステム環境

このソフトをインストールすることにより、同時に通信設定ウィザードがインストールされます。この通信設定ウィザードで通信の設定を行なうためには、以下のシステム環境が必要です。

機種	項目	条件
IBM PC/AT互換機または NEC PC-98NXシリーズ	CPU	Intel Pentium 133MHz以上
	OS	Me、2000、Windows 98、98 Second Edition
	モニター	VGA（640×480）以上
	他	CD-ROMドライブとUSB端子が必要
Apple Macintosh	CPU	PowerPC 100MHz以上
	OS	8.6～9.1
	モニター	640×480以上
	他	CD-ROMドライブとUSB端子が必要

● DiMAGE Image Viewer Utilityをお使いになる場合のシステム構成については、そちらの使用説明書をご覧ください。

DiMAGE Image Viewer Utilityのインストール ― Windowsの場合

DiMAGE Image Viewer Utilityをインストールすると、DiMAGE Image Viewer Utility（画像レタッチソフト）と通信設定ウィザード（通信設定ソフト）の両方がインストールされます。すでにインストールされている方は、この手順は不要です。

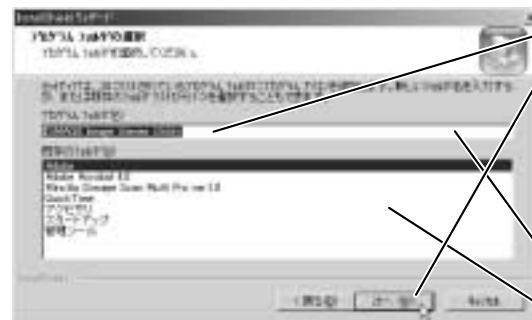
- ここに記載されている内容は、DiMAGE Image Viewer Utilityの使用説明書のインストール方法と同じです。
- コンピュータウィルス感染防止のメモリ常駐プログラムやインストール監視プログラムなどは、誤動作の原因となることがあります。一時的に使用を中止してください。
- Windows 2000をお使いの場合、インストールは管理者（Administrator）権限を持つ環境で行なってください。

1.ディマージュソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
- 左の画面が現れます。

2.［DiMAGE Image Viewer Utility インストーラの起動］をクリックします。

3.「DiMAGE Image Viewer Utility用のInstallShieldｳｨｻﾞｰﾄﾞへようこそ」の画面が現れたら、［次へ（N）>］をクリックします。

4.使用許諾契約画面が現れたら、全文を読み、同意する場合は［はい（Y）］をクリックします。
- 同意しない場合、［いいえ（N）］をクリックしてください。インストールは中止されます。

5.左の画面が現れたら、インストール先を確認し、［次へ（N）>］をクリックします。
- 初期設定では、起動ディスクドライブの"Program Files"の中にインストールされます。変更する場合は、［参照（R）…］をクリックし、インストール先のフォルダを指定した後、［OK］をクリックしてください。

6.アイコンを追加するフォルダ名が表示されます。場所を確認し、［次へ（N）>］をクリックします。
- インストールが開始されます。
- 初期設定では、画面左下の［スタート］―［プログラム（P）］の中に［DiMAGE Image Viewer Utility］フォルダが作成されます。

フォルダ名等変更する場合は

フォルダ名を変更するときはここに入力

既存のフォルダに追加するときはここで選択

7.インストールが完了したら、［完了］をクリックします。

8.前ページの画面に戻ったら、［終了］をクリックします。

次はカメラをパソコンに接続し（P.163～）、続いて通信設定ウィザードを立ち上げて通信情報を設定します（P.180～）。

画像送信

DiMAGE Image Viewer Utilityのインストール ― Macintoshの場合

DiMAGE Image Viewer Utilityをインストールすると、DiMAGE Image Viewer Utility（画像レタッチソフト）と通信設定ウィザード（通信設定ソフト）の両方がインストールされます。すでにインストールされている方は、この手順は不要です。

- ここに記載されている内容は、DiMAGE Image Viewer Utilityの使用説明書のインストール方法と同じです。
- コンピュータウィルス感染防止のメモリ常駐プログラムやインストール監視プログラムなどは、誤動作の原因となることがあります。一時的に使用を中止してください。

1. ディマージュソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- 自動的にCD-ROMの内容が表示されます。

2. [Utility] をダブルクリックして開きます。

3. [Japanese] をダブルクリックして開きます。

4. [Installer] をダブルクリックします。

5. 右の画面が現れたら、[次へ>>] をクリックします。

6. 使用許諾契約画面が現れたら、全文を読み、同意する場合は [はい] をクリックします。

- 同意しない場合、[いいえ] をクリックしてください。インストールは中止されます。

7. 左の画面が現れたら、[参照] をクリックしてインストール先を指定します。

- 下の画面が出たら、インストール先のボリュームまたはフォルダを選び、右下の [選択] をクリックしてください。

8. 指定後、画面下の [次へ>>] をクリックします。

- インストールが開始されます。

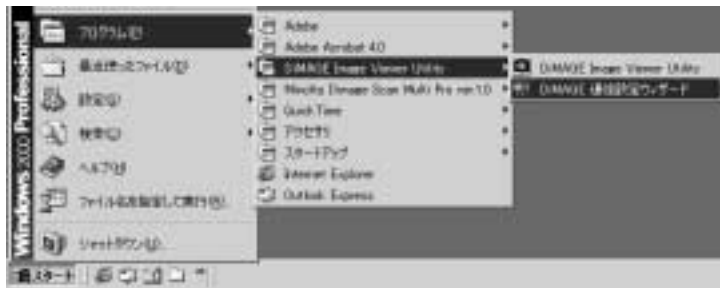
9. インストールが完了したら [完了] をクリックします。

次はカメラをパソコンに接続し（P.163～）、続いて通信設定ウィザードを立ち上げて通信情報を設定します（P.180～）。

通信情報の設定

パソコンにインストールしたDiMAGE通信設定ウィザードを用いて、送信先等の通信情報をCFカードに記録します。

1.カメラとパソコンを接続し、USB接続を実行します。→P.163～

2.Windowsの場合、［スタート］→［プログラム(P)］→［DiMAGE Image Viewer Utility］から［DiMAGE 通信設定ウィザード］を起動させます。

Macintoshの場合、「DiMAGE Image Viewer Utility」フォルダをダブルクリックして開き、「通信設定Wizard」をダブルクリックして立ち上げます。

3.以下の付加情報およびドライブ情報の設定を行ない、［次へ>>］をクリックします。

保存ドライブの指定
CFカードのドライブを選択します。
※内蔵ハードディスク等にいったん通信情報を保存する場合は→P.192

FTP/MAIL
Eメールで送信する場合は「MAIL」、FTPサーバーにアップロードする場合は「FTP」を選択します。

送信画像サイズ
VGAを選ぶと640×480、QVGAを選ぶと320×240の画像サイズに自動的に変換されて送信されます。

4. 以下のプロバイダ情報の設定を行ないます。

トーン／パルス
CFモデムの場合、お使いの電話回線を設定してください。CF型PHSの場合はどちらでも送信できます。（この項目は送信時にもう一度選択できます）

IPプロトコルヘッダの圧縮有無
通常は「無」を選択します。「有」を選択する場合はプロバイダでサポートされているかご確認ください。

通常はチェックを入れます。内線電話等でダイヤル待ちでは送信できない場合は、チェックを外してください。（この項目は送信時にもう一度選択できます）

プロバイダ情報
入力はすべて半角英数字または半角記号で行なってください。

プロバイダ名：	プロバイダ名など任意の文字**最大8文字まで**を入力します。
ホスト名：	ホスト名など任意の文字最大64文字までを入力します（例：DiMAGE）。
電話番号：	プロバイダのアクセスポイントを入力します。3ヵ所までの登録が可能です（1は必須）*。-（ハイフン）は使用できますが（）（カッコ）は使用できません。
PIAFS設定速度：	P-in Comp@ctの場合、チェックを入れて通信速度を選びます。
ユーザ名：	プロバイダに登録したユーザー名を入力します。
パスワード：	プロバイダに登録したパスワードを入力します。
ﾌﾟﾗｲﾏﾘDNSｱﾄﾞﾚｽ：	プロバイダより支給されるDNSアドレスを入力します。
ｾｶﾝﾀﾞﾘDNSｱﾄﾞﾚｽ：	プロバイダより支給されるDNSアドレスを入力します（省略可能）。

*アクセスポイントは、送信時にカメラ側であと1つ追加することもできます。

5. 設定が完了すると［次へ>>］をクリックします。前ページの3でEメール送信を選んだ場合は次ページへ、FTPを選んだ場合はP.184へお進みください。

6. P.181の3でメール送信を選んだ場合は、以下のメール情報の設定を行ないます。

メール送信先情報
送信先アドレスと送信先名を入力します。4ヵ所までの登録が可能です（1は必須）。
半角英数字と半角記号のみ使用可能、送信先名は最大8文字まで入力可能です。

メール送信元情報（入力はすべて半角英数字または半角記号で行なってください。）

SMTPサーバ：	プロバイダから支給されるサーバ情報を入れます。IPアドレス（数字）またはURL（文字）を選択します。
POPサーバ：	プロバイダから支給されるサーバ情報を入れます。IPアドレス（数字）またはURL（文字）を選択します。
POPユーザ名：	プロバイダに登録したPOP（受信サーバ）のユーザー名を入力します。
POPパスワード：	プロバイダに登録したPOP（受信サーバ）のパスワードを入力します。
送信元アドレス：	送信者のメールアドレスを入力します。
表題：	メールの表題（タイトル）を入力します。最大64文字までの入力が可能。

7.［設定完了］をクリックすると、書き込み完了のメッセージが現れます。

次は、ここでCFカードに入力した通信情報を、カメラ本体に転送します。→P.185
（先にUSB接続を解除しておいても構いません。）

画像送信

6. P.181の3でFTP送信を選んだ場合は、以下のFTPサーバ情報の設定を行ないます。

● FTPサーバ情報は、4ヵ所までの登録が可能です（1は必須）。

FTPサーバ
FTP＝File Transfer Protocolの略。インターネット上でファイルの送受信をするときに使われる通信上の決まり（通信プロトコル）のひとつ。このカメラの場合、多数の人に画像を見てもらう必要があるときに、FTPサーバに画像を保存し、そのIPアドレスまたはURLを知らせてアクセスしてもらうことが可能です。

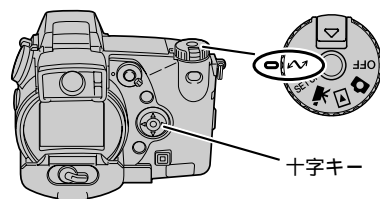
FTPサーバ情報（入力はすべて半角英数字または半角記号で行なってください。）

FTPサーバ愛称：	FTPサーバ名など任意の文字最大8文字までを入力します。
FTPサーバ：	FTPサーバ情報を入れます。IPアドレス（数字）またはURL（文字）を選択、必要ならばディレクトリも入力します。
ユーザ名：	ユーザー名を入力します。最大64文字まで入力可能。
パスワード：	パスワードを入力します。

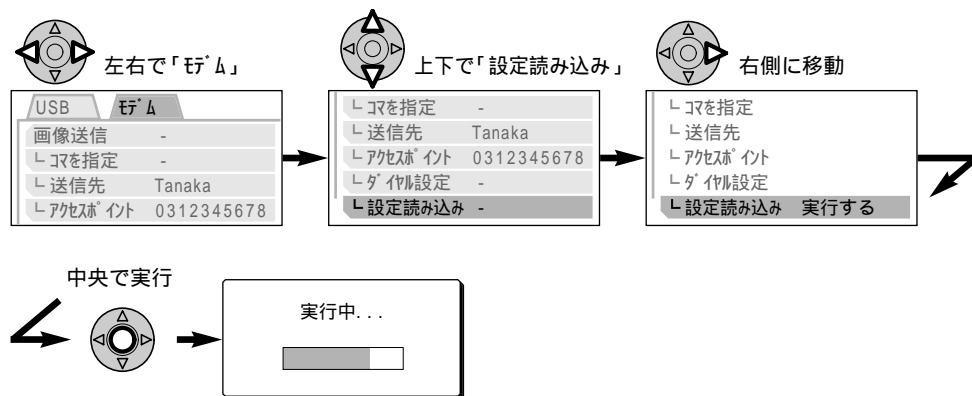
7. [設定完了] をクリックすると、書き込み完了のメッセージが現れます。

次は、ここでCFカードに入力した通信情報を、カメラ本体に転送します。→次ページ
（先にUSB接続を解除しておいても構いません。）

通信情報のカメラへの転送（設定読み込み）

コンパクトフラッシュカード（CFカード）に記録した通信情報を、カメラ本体に転送します。

1. カメラを通信モード位置にします。

2. 十字キーで「設定読み込み」を選びます。

中央で実行

● 転送後、通信情報の入ったCFカードはカメラから取り出すことができます。

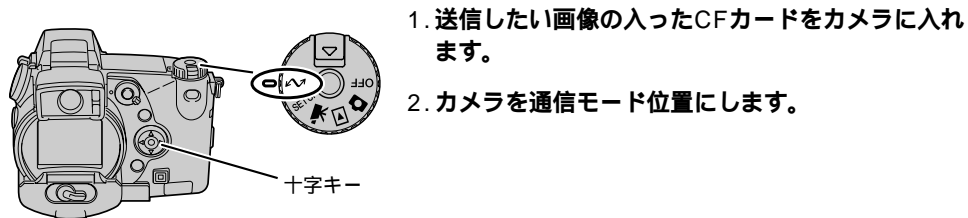
次は、画像の送信を行ないます。→次ページ

画像送信

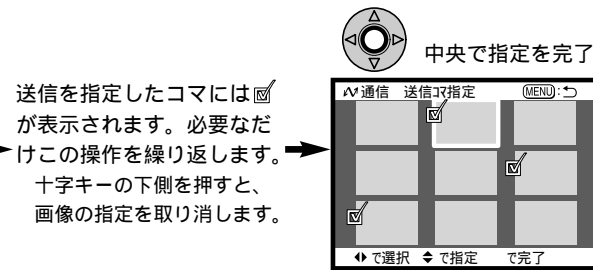
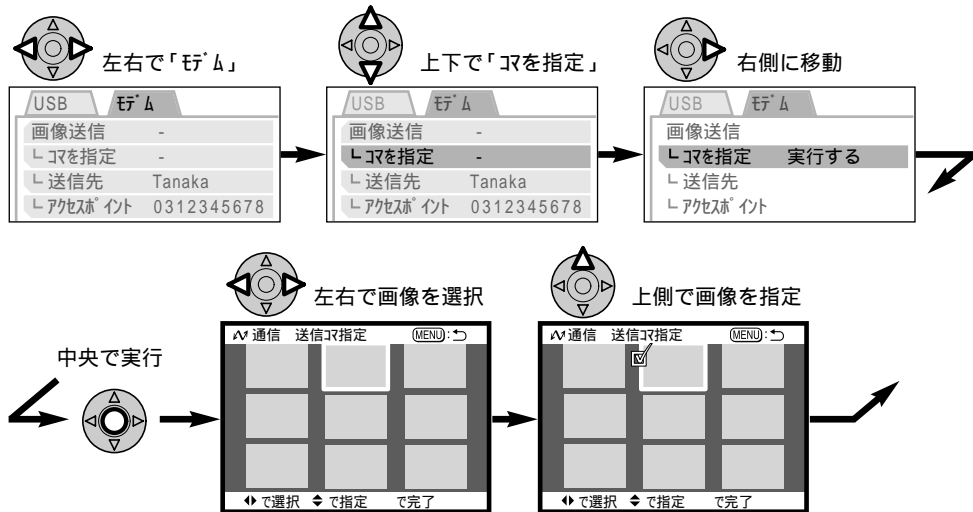
画像の送信

CFカード内の画像を、登録したメールアドレスまたはFTPサーバに送信します。

1.送信したい画像の入ったCFカードをカメラに入れます。

2.カメラを通信モード位置にします。

送信する画像の選択

3.十字キーで送信する画像を選びます。

送信を指定したコマには☑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。
- 動画の送信はできません（選択できません。）

送信先の指定

4.十字キーで送信先を選びます。

右側（メール送信）または中央（FTP送信）で決定

画像送信
└ ｺﾏを指定 Suzuki
└ 送信先 ☑Tanaka
└ ｱｸｾｽﾎﾟｲﾝﾄ Sato
└ ﾀﾞｲﾔﾙ設定 －－－

メール送信の場合

- 十字キー右側で送信先を指定します。複数の指定も可能です。
- もう一度十字キー右側を押すと、送信先の指定を解除します。

FTP送信の場合

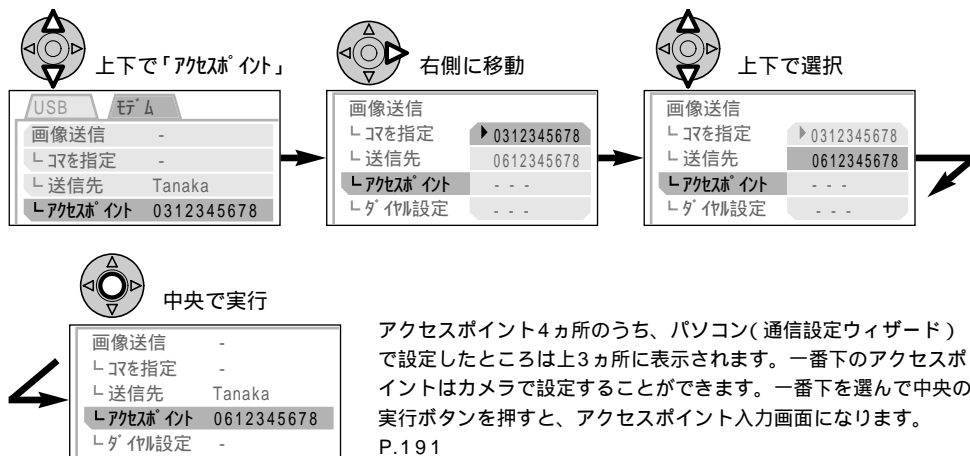
- 十字キー中央で送信先を指定します。一度に1ヵ所しか送信できません。

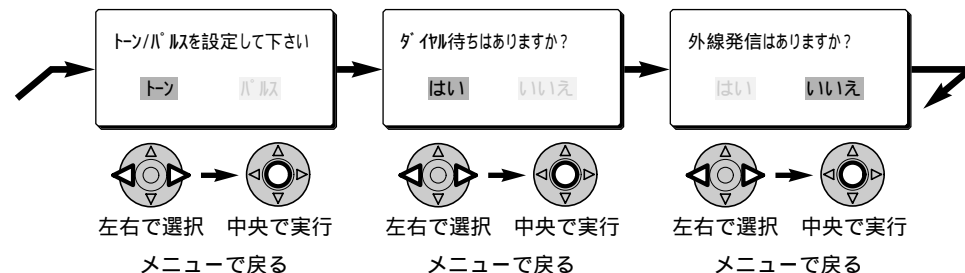
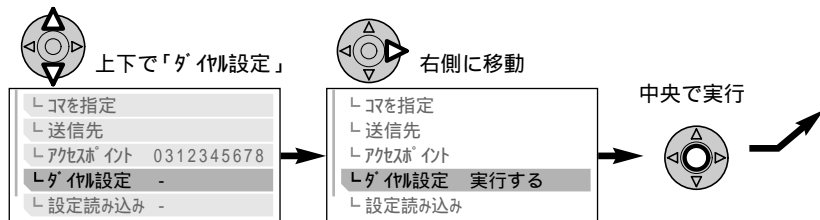
画像送信

次ページへ続く

アクセスポイントの指定

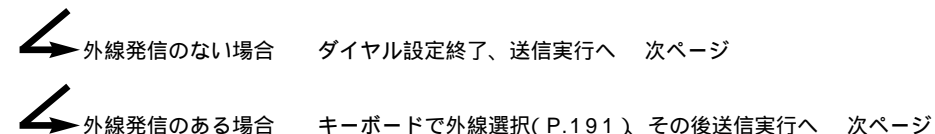
5.十字キーでアクセスポイントを選びます。

● アクセスポイント4ヵ所のうち、パソコン（通信設定ウィザード）で設定したところは上3ヵ所に表示されます。一番下のアクセスポイントはカメラで設定することができます。一番下を選んで中央の実行ボタンを押すと、アクセスポイント入力画面になります。 → P.191

ダイヤル設定

6.十字キーで各種のダイヤル設定を選びます。

● トーン／パルスとダイヤル待ちについては、P.182で設定された内容が最初に表示されます。個別に変更する場合はここで変更することができます。

● トーン／パルスについては、CFモデムの場合はお使いの電話回線を設定してください。CF型PHSの場合はどちらでも送信できます。

外線発信のない場合　→ダイヤル設定終了、送信実行へ →次ページ

外線発信のある場合　→キーボードで外線選択（P.191）、その後送信実行へ →次ページ

次ページへ続く

送信の実行

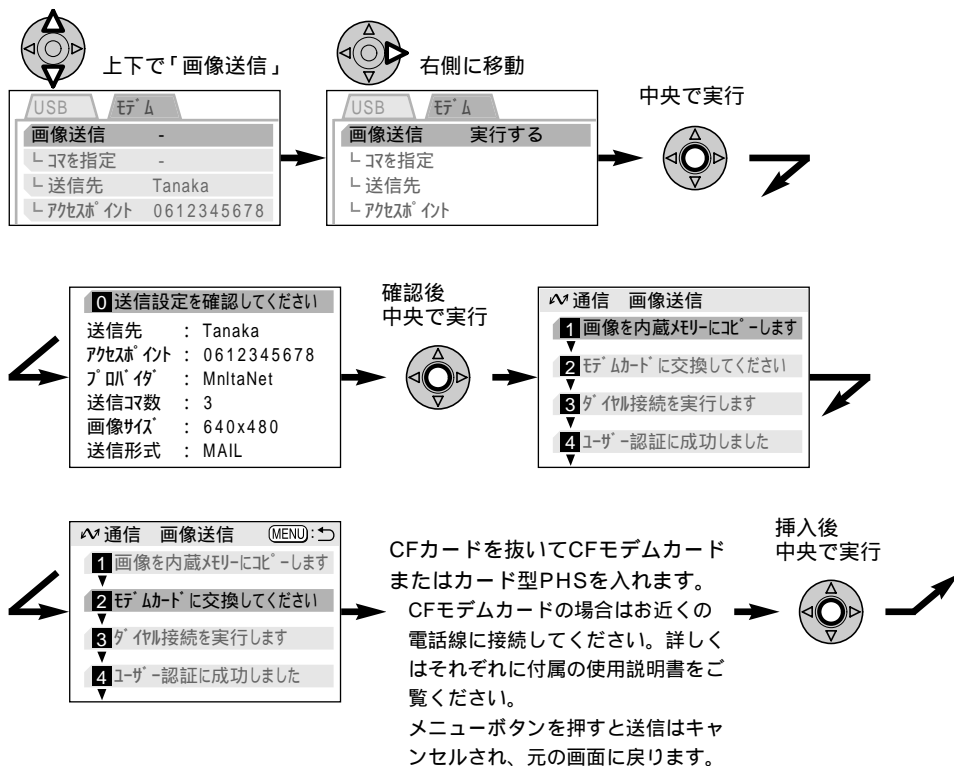
7.十字キーで指定した画像を送信します。

CFカードを抜いてCFモデムカードまたはカード型PHSを入れます。

- CFモデムカードの場合はお近くの電話線に接続してください。詳しくはそれぞれに付属の使用説明書をご覧ください。
- メニューボタンを押すと送信はキャンセルされ、元の画面に戻ります。

挿入後
中央で実行

以下3〜8は自動的に進みます。

※送信画面が途中で止まった場合は →次ページ

アクセスポイント／外線発信番号の入力方法

4番目（一番下）のアクセスポイントおよび外線発信を選択すると、以下のキーボードが表示されます。

- アクセスポイントは、2番目または3番目を設定していなくても4番目を設定することができます。

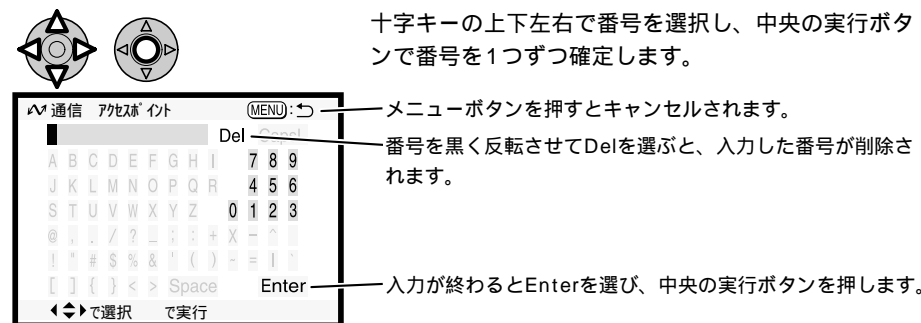
十字キーの上下左右で番号を選択し、中央の実行ボタンで番号を1つずつ確定します。

メニューボタンを押すとキャンセルされます。

番号を黒く反転させてDelを選ぶと、入力した番号が削除されます。

入力が終わるとEnterを選び、中央の実行ボタンを押します。

- 文字や記号を入力することはできません。

画像送信

通信情報をいったんハードディスクに保存し、その後CFカードに転送する方法

P.174では、カメラとパソコンを接続して、通信情報をカメラ内のCFカードに直接保存する方法を説明しました。カメラとパソコンが接続できない状況では、いったんパソコンの内蔵ハードディスク等に通信情報を保存し、後でCFカードにそれをコピーすることができます。

1. カメラとパソコンを接続していない状態で、DiMAGE通信設定ウィザードを立ち上げて、必要な通信情報を設定します。→P.180
- P.181の3で保存ドライブを指定する際、希望するハードディスク等を選んでください。
- 通信情報は"inetSet.txt"という名前のテキストファイルとして保存されます。
2. カメラとパソコンを接続します。→P.166
3. 保存した"inetSet.txt"をCFカードにコピーします。
- 画像入りのCFカードの一番上の階層にコピーしてください（"DCIM"フォルダや"MISC"フォルダの中には入れないでください）。
4. CFカードの情報をカメラ本体に転送します。→P.185
5. 画像の入ったCFカードをカメラに入れ、画像を送信します。→P.186

送信画面が途中で止まった場合は

送信時、電波状態の良くない場所では送信ができず、「画像を送信します」のメッセージのまま止まってしまうことがあります。このような場合は、カメラのメインスイッチをいったんOFFにして、もう一度送信し直してください。OFFにしても画面が消灯しない場合は、電池を一度取り出し、入れ直してください。

その他

QuickTimeのインストール

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。Windowsで、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、別売りのインターフェースキット IF-DG7に付属のCD-ROMからインストールしてください。

● Macintoshの場合、通常はQuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

1. ディマージュソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

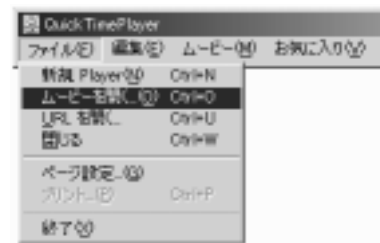
● 左の画面が現れます。

2. [QuickTimeインストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

QuickTimeの使い方

1. QuickTimeを立ち上げます。

● QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の [スタート] から [プログラム (P)] ー [QuickTime] ー [QuickTime Player] を選択します。

2. [ファイル (F)] から [ムービーを開く... (O)] を選択します。

3. 再生したい動画を選択します。

4. 動画ファイルを再生します。

一時停止ボタン

このボタンを押すと再生画面の詳細が現れます。

● 動画の画像サイズはQVGA (320×240ピクセル) ですが、実際に記録される範囲は308×240ピクセルです。よって再生時には、画面両端に黒い帯が表示されます。

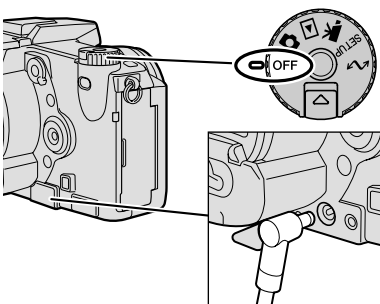
このカメラと組み合わせて使えるアクセサリー

ディマージュインターフェースキット IF-DG7

ディマージュ7／ディマージュ5専用のインターフェースキットです。以下の3点が同梱されています。

- ●ディマージュソフトウエアCD-ROM
  画像表示用（特にRAW画像を開くのに必要）のDiMAGE Image Viewer Utility、通信設定用のDiMAGE通信設定ウィザード、Windows 98/98SE用USBドライバ、QuickTimeの4点のインストールが可能です。
- ●USBケーブル USB-100
- ●16MBコンパクトフラッシュカード

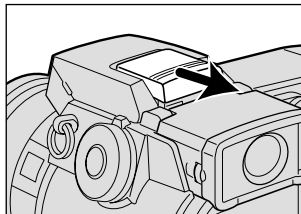
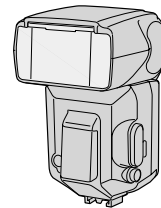
ACアダプターAC-1L、外部電源パックEBP-100

屋内などAC電源が使える場合は、ACアダプターの使用が便利です。
またAC電源が使えない場所で長時間の撮影を行なう場合は、外部電源パックがご使用になれます。
リチウムイオン電池NP-100を2個使用します。

接続するときは、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFに合わせた後、端子カバーを外して、DC電源入力端子にプラグを差し込みます。

- ●詳しくはそれぞれの使用説明書をご覧ください。
- ●外すときも、ダイヤルをOFFにしてから外してください。
- ●電池が消耗した後にACアダプターや外部電源パックを接続する際は、古い電池を抜いて約10秒ほど待ってから接続してください。電池を入れたままACアダプターや外部電源パックを接続してもお使いになれません。

プログラムフラッシュ5600HS (D)
プログラムフラッシュ3600HS (D)

内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大光量のプログラムフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。カメラのオートロックアクセサリーシューに直接取り付けてお使いになれます。

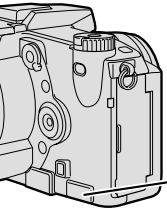
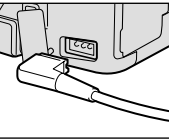
プログラムフラッシュ5600HS(D)

別売りのフラッシュを使う際には、アクセサリーシューのキャップを外してお使いください。

- ●これらのフラッシュを取り付けた場合、フラッシュのオートズーム位置（照射角）はカメラの35mmフィルム換算相当の焦点距離よりもやや広角側に設定されます。フラッシュ背面の24mmの表示またはランプが点滅したら、ワイドパネルの使用をおすすめします。マニュアルズームの場合は、やや広角側の照射角を設定してください。これらを考慮せずに撮影すると、画面周辺が暗くなることがあります。
  なお3600HS(D)でワイドパネルを取り付けた場合は、調光モードをP-TTL調光に設定してください。→P.97

マクロツインフラッシュ2400
マクロリングフラッシュ1200

マクロ撮影用のフラッシュです。ツインフラッシュは草花や昆虫の撮影に、リングフラッシュは資料等の撮影に適しています。マクロフラッシュコントローラーが必要です。

クローズアップディフューザーCD-1000

内蔵フラッシュで手軽にマクロ撮影するときに便利です。内蔵フラッシュの前に拡散板を取り付けることにより、フラッシュの光をやわらげ、影を目立たせなくします。

リモートコードRC-1000S／RC-1000L

カメラから離れてシャッターを切ることができます。カメラぶれを防ぐと同時に、バルブ撮影時（→P.84）等、シャッターボタンを押したまま固定することができます。

取り付けるときは、リモートレリーズターミナルのカバーを開けて、コードをターミナルに接続します。

その他のアクセサリー

フィルター等を使用する場合は、49mm径をお使いください。
DiMAGE 7をお使いの場合、以下の注意事項も合わせてお読みください。

PL（円偏光）フィルター・クローズアップレンズNo.0／No.1
焦点距離50mm（35mmフィルム換算）未満では、フィルターやレンズの一部が画面に写り込むことがあります。

クローズアップレンズNo.2
焦点距離100mm（35mmフィルム換算）未満では、フィルターやレンズの一部が画面に写り込むことがあります。

フィルターアダプター49mm→55mm
リングやフィルターの一部が画面に写り込むので、ご使用になれません。

焦点距離換算表

このカメラの実焦点距離を、35mmフィルム換算の焦点距離に当てはめると以下の通りになります。

実焦点距離	7.2	9	13	21	27	34	38	50.8
35mmフィルム換算焦点距離（DiMAGE 7）	28	35	51	83	106	134	149	200
35mmフィルム換算焦点距離（DiMAGE 5）	35	44	64	103	133	167	187	250

不具合が生じたときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
液晶モニター／ファインダーが真っ暗になる	スーパーファイン（TIFF）またはRAWで記録中	CFカードへの記録に数十秒かかることがあります。記録中はアクセスランプが点灯します。	−
	カメラをパソコンまたはテレビに接続している	接続中は液晶モニターやファインダーの表示は消灯します。	−
	電池が消耗している	電池を交換してください。	24
	パワーセーブが作動した	液晶モニターは30秒以上、上面データパネルとファインダーは1分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に消灯します。	25
液晶モニターやファインダーが白黒になる	暗いところで撮影している	暗いところではファインダー像を確認しやすくするため、自動的に白黒になります（モニター自動感度アップ機能）。撮影される画像はカラーです。（DiMAGE 7のみ）	−
オートフォーカスでピントが合わない	オートフォーカスの苦手な被写体（P.32）を撮ろうとしている	フォーカスロック撮影、AF/AEロックボタンによる撮影、フレックスフォーカスポイントによる撮影のいずれかを行なってください。	33 78 79
	被写体に近づき過ぎている	カメラより約50cm以上離れたものにしかピントが合いません。それ以上近くを撮影する時には、マクロ撮影を行なってください。	45
000が表示されシャッターが切れない	CFカードがいっぱいである	画像を消去するか、カードを交換してください。	126 26

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
シャッターが切れない	カメラが撮影モード または動画モード 以外になっている	メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを または にしてください。	—
「このｶｰﾄﾞは使えません」のメッセージが出る	コンパクトフラッシュカード（CFカード）以外のカードを入れた	画像の記録にはコンパクトフラッシュカードをお使いください。	—
「ｶｰﾄﾞを認識できません」のメッセージが出る	CFカードのフォーマットが適切でない	カードのフォーマット（初期化）を行なってください。	144
シャッター速度と絞り値が赤くなる／点滅する	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、カメラの測光範囲またはシャッター速度や絞り値の範囲を超えている	明る過ぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体を暗くします。暗過ぎるときは、フラッシュを発光させるか、被写体を明るくします。	—
Aモードでシャッター速度が赤くなる／点滅する	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、シャッター速度の範囲を超えている	シャッター速度が点滅しない範囲で絞り値を設定してください。	55
Sモードで絞り値が赤くなる／点滅する	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、絞り値の範囲を超えている	絞り値が点滅しない範囲でシャッター速度を設定してください。	57
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。	35 73
フラッシュ撮影したものの下部が暗い	レンズフードを付けたまま撮影した	内蔵フラッシュで撮影する時は、レンズフードを外してください。	86

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
写真がブレている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こした	シャッター速度が遅くなるので、三脚を使用してください。フラッシュを使う方法もあります。	—
画像に余分な光が入っている	逆光で広角側で撮影したため、レンズに余分な光が入った	レンズフードを取り付けてください。	86
画像が記録されていない	画像の記録中にCFカードを取り出した	アクセスランプ点灯中は、カードを取り出さないでください。	—
プリント指定ができない	RAW画像または動画を指定しようとしている	RAW画像や動画はプリント指定できません。	132
撮影した画像の色がおかしい（カメラでの再生時）	画質をRAWに設定して撮影した	RAW画像は液晶モニター等での表示に画像処理を加えていないので、再生時には色が正常になりません。パソコンでは正常な色が再現されます。	50
撮影した画像の色がおかしい（パソコンに取り込んだ時）	モニターの設定が最適でない このカメラで撮影した画像は、sRGBの環境で見たときに最適に再現されるよう設計されています。sRGBで規定されている色温度は約6500K、ガンマ値は2.2です。	色温度の設定 6500Kに設定してください。設定方法はモニターの使用説明書をご覧ください。 ガンマ値の設定 Macintoshの場合は「モニタ調整アシスタント」で2.2にしてください。設定方法はMac OSの使用説明書をご覧ください。Windowsでは標準が2.2なので、変更の必要はありません。	
Errが表示される、またはカメラが正常に作動しない	カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度コードを抜いてください。温度が上がっているときには、カメラの温度が下がってからこれらの処置を行なってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにご相談ください。		

取り扱い上の注意

電池について

● 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新品電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。
ニッケル水素電池は低温での性能低下が少ないので、寒冷地ではニッケル水素電池の使用をおすすめします。また、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。
● 長期間使用しないときは電池を抜き取ってください。入れたままにしておくと、液漏れにより電池室を損傷する原因となります。
● アルカリ乾電池の特性上、温度や保管のしかたによっては、実際の電池容量よりカメラの電池容量表示が低く表示されることがあります。このような場合でも、カメラをしばらく使用すると電池容量が回復し、正常な電池容量表示が行われます。
● いったん容量切れになった電池はかならず交換してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

使用温度について

● このカメラの使用温度範囲は0～40℃です。
● 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
● カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

プリント指定（DPOF）について

● 他のデジタルカメラでDPOF設定したCFカードをこのカメラに入れると、他のカメラでの設定はキャンセルされます。
● 他のDCF対応のデジタルカメラで撮影した画像の入ったCFカードをこのカメラに入れた場合、他のカメラで撮影した画像（他のDCF対応デジタルカメラによって作成されたフォルダ内の画像）に対してはDPOFの設定はできません。

コンパクトフラッシュカード等記録メディアについて

● 下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。
1. お客様または第三者がメディアの使い方を誤ったとき
2. メディアが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
3. メディアへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
4. 長期間メディアの書き換えがないとき
5. メディアの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき
● メディアをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
● メディアには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいメディアをお買い求めください。
● 強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください
● 曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
● 強い静電気や強い衝撃によって記録メディアが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいメディアをお買い求めください。
● 端子部に手や金属で触れないでください。
● 熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

マイクロドライブについて

● マイクロドライブはその特性上、コンパクトフラッシュカードと比べて衝撃や振動にそれほど強くありません。マイクロドライブをお使いの場合、特に記録中や再生中は、カメラに衝撃や振動を与えないようご注意ください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは精密度の高い技術でつくられていますが、極めてわずかながら画素欠けや常時点灯するものがあります。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やコンパクトフラッシュカードの出し入れ、カメラの操作をしないでください。
  海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置しないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
- あなたがデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

- カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
- 長期間使用しないときは、カメラから電池やコンパクトフラッシュカードを取り出してください。
- 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、シャッターを切るようにしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
- 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。
- 製品の修理に関しては、お買い上げいただいた販売店にお問い合わせいただくか、修理依頼品を「アフターサービスのご案内」に記載のサービスセンター・サービスステーションにお持ち込みください。

主な性能

形式	フラッシュ内蔵AE/AFレンズ一体型一眼レフタイプデジタルカメラ
撮像素子	DiMAGE 7：2/3型総画素524万画素インターラインCCD、原色フィルター付き DiMAGE 5：1/1.8型総画素334万画素インターラインCCD、原色フィルター付き
有効画素数	DiMAGE 7：495万画素（2568×1928） DiMAGE 5：317万画素（2056×1544）
レンズ構成	13群16枚
開放絞り値	F2.8～F3.5
絞り設定範囲	広角：F2.8～F8、望遠：F3.5～F9.5、1/2EVステップ
焦点距離	7.2～50.8mm（35mmフィルム換算：28～200mm相当（DiMAGE 7）、35～250mm相当（DiMAGE 5））
撮影距離	0.5m～∞（CCD面から） マクロ時（テレ端）：25～60cm（CCD面から） 最大撮影倍率：0.18（35mmフィルム換算で0.7倍相当（DiMAGE 7）、0.87倍相当（DiMAGE 5）） 最大撮影倍率時の被写体サイズ：約39×52mm（DiMAGE 7）、約31×41.5mm（DiMAGE 5）
ズーム方式	手動ズーム
フィルター径	49mm
フォーカス方式	映像AF方式
フォーカスモード	AF：ワンショットAF、コンティニュアスAF　MF可能
露出モード	P（プログラムシフト可能）、A、S、M デジタル撮影シーンセレクター ポートレート：測光モード（多分割）およびシャープネス固定 スポーツ：測光モード（多分割）固定、AFモード（コンティニュアスAF）変更可 夕景：測光モード（中央重点的平均）およびホワイトバランス固定 夜景ポートレート・夜景：測光モード（中央重点的平均）およびシャープネス固定 テキスト：測光モード（ハイライト基準）固定
デジタルエフェクトコントロール	露出、彩度、コントラスト補正が可能
測光方式	多分割測光（300分割（DiMAGE 7）、256分割（DiMAGE 5））、中央重点的平均測光、スポット測光
露出制御範囲	広角：EV1～17、望遠：EV1.6～17.7
シャッター	CCD電子シャッターと電子制御メカニカルシャッター併用　シャッター速度：BULB（最長30秒）、4～1/2000秒
ホワイトバランス	オート、昼光、白熱灯、蛍光灯、曇天、カスタム
露出補正	±2EV（1/3EVステップ）
調光補正	±2EV（1/3EVステップ）
フラッシュ制御方式	ADI調光、P-TTL調光　フラッシュ同調速度：全速
フラッシュモード	通常発光、赤目軽減発光、後幕シンクロ
内蔵フラッシュ連動距離	広角：約0.5～3.8m、望遠：約0.5～3m（CCD位置より、撮影感度オート時）
内蔵フラッシュ充電時間	約7秒
ファインダー形式	TTL電子ビューファインダー（EVF）、チルト可能（0～90°） モニター自動感度アップ機能、電子マグニファイヤー機能（DiMAGE 7のみ）
ファインダー視野率	約100%
アイポイント	20mm（最終光学面より）、17.5mm（接眼枠より）
ファインダー倍率	DiMAGE 7：0.31～2.1倍、DiMAGE 5：0.38～2.58倍
視度調整	あり　－5～＋0.5ディオプター
表示切り替え機能	AUTO、EVF、液晶モニター切り替え可能
A/D変換bit数	12 bit
記録媒体	CFカード（TYPE Ⅰ、TYPE Ⅱ）　マイクロドライブ（170MB、340MB、512MB、1GB動作確認済み　2001年6月現在）
記録形式	Exif 2.1（JPEG、TIFF）、Motion JPEG（AVI）、RAW DCF 1.0準拠　DPOF（ver.1.1）のプリント機能に対応
PIM（PRINT Image Matching）	対応
記録画素数	DiMAGE 7：2560×1920、1600×1200、1280×960、640×480 DiMAGE 5：2048×1536、1600×1200、1280×960、640×480
カラーモード	カラー、モノクロ
画質モード	エコノミー（ECON.）、スタンダード（STD.）、ファイン（FINE）、スーパーファイン（S.FIN）、RAW
シャープネス	ソフト、標準、ハード
Exif Tag情報	撮影年月日時刻、撮影条件（露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離等）、色空間情報

消去機能	あり（1コマ／全コマ／指定コマ）　クイックビュー時の消去可能 誤消去防止機能：あり（1コマ／全コマ／指定コマ）
フォーマット機能	あり
データ写し込み機能	なし、年月日、月日時刻、文字（最大16文字）、文字＋通し番号（合計最大16文字）
液晶モニター	46mm（1.8型）TFTカラー モニター画素数：12.2万画素 視野率：約100%
連続撮影	DiMAGE 7：約1.1コマ／秒（最速）、DiMAGE 5：約1.3コマ／秒（最速） 連続撮影速度は撮影条件による　スーパーファインとRAWは連続撮影不可能
セルフタイマー	約10秒
デジタルエフェクトブラケット	露出ずらし量：1.0EV、0.5EV、0.3EV　枚数：3枚
インターバル撮影	間隔：1〜10、15、20、30、45、60分　枚数：2〜99枚
動画	QVGA：320×240（1フレームあたり）、最大60秒
デジタルズーム	2倍
操作音	あり／なし切り替え可
使用電池	単3形　4本（アルカリ、ニッケル水素）　ニッケル水素電池の使用を推奨
外部電源	DC 6V（ACアダプター使用時）
連続動作時間	連続再生：約110分　当社試験条件による（液晶モニターのみ、ニッケル水素電池使用）
撮影可能コマ数	約200枚　当社試験条件による（EVFのみ、ニッケル水素電池使用、アフタービューなし、フラッシュ使用50%）
モデム通信	電送インターフェース：CFモデムカード（一般回線用：TDK DF56CF）、CF型PHS（NTT DoCoMo P-in Comp@ct）
PC用インターフェース	USB（ver.1.1）
ビデオ出力	NTSC／PAL切り替え可
大きさ	116.5 × 90.5 × 112.5 mm
質量（重さ）	約505g（電池、CFカード別）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

9229-2773-21 P-B108

ミノルタ DiMAGE 7／DiMAGE 5

推奨電池について

撮影にはニッケル水素電池をおすすめします。

本製品にはアルカリ電池を同梱しておりますが、アルカリ電池はその特性上、急激に電池容量が低下します。アルカリ電池は、動作確認・テスト用や緊急時のみに使われることをおすすめします。

通常のご使用に際しては、ニッケル水素電池を十分に充電してお使いください。またマイクロドライブをご使用の場合は、コンパクトフラッシュカードと比べて、起動・記録に多くの電流を必要とします。必ずニッケル水素電池をお使いください。

ニッケル水素電池の使用に関しては、以下の点にご注意ください。

- 電池の両電極を乾いた布で拭き、汚れを取り除いてからご使用ください。※
- 充電池には「メモリー効果」と呼ばれる現象があり、十分に使い切らないうちに充電を繰り返すと、完全に充電されたように見えても容量は少なくなります。十分に放電した（電池容量がなくなるまで使い切った）後、充電を行なうことをおすすめします。

ニッケル水素電池（1600mAh）をフル充電した場合の撮影可能コマ数：約200コマ
（当社試験条件による：EVFのみ、アフタービューなし、フラッシュ使用50％）

※電池の清掃について

アルカリ電池・ニッケル水素電池に関わらず、電池の＋／－両電極が汚れていると接触が悪くなり、すぐに電池が使えなくなる場合があります。新品電池でも汚れにより接触が悪くなっていることがありますので、すぐに電池が消耗する場合（[電池マーク] が点滅）は、電池の両電極を乾いた布でよく拭いてからお使いください。

ミノルタ株式会社

Minolta DiMAGE 7 / DiMAGE 5

NOTE ABOUT BATTERIES

Ni-MH batteries are recommended for digital cameras. Recording performance with 1,600mAh Ni-MH batteries is approximately 200 frames: based on Minolta's standard test method: EVF on, LCD monitor off, no instant playback, flash used with 50% of the frames. The number of recordable frames can vary with battery and charger brands, and under differing operating conditions.

Although alkaline batteries are supplied with this product, its performance will be limited; only use alkaline batteries for test photographs or when Ni-MH batteries, the Minolta external battery pack or AC adapter are not available. Fully recharge the Ni-MH batteries just before using the camera.

IBM Microdrives require more power than CompactFlash cards. Always use Ni-MH batteries with IBM Microdrives.

When using Ni-MH batteries:

- Clean both battery terminals with dry cloth to wipe off any dirt or residue. Because of the sophisticated computer system, the camera critically monitors power levels. If the battery terminals are dirty, the camera may give a false low-battery warning. If battery performance is unusually low, wipe the battery terminals with a clean, dry cloth.
- Ni-MH battery performance will decrease if the batteries are often recharged before they have been fully discharged. Completely exhaust the Ni-MH batteries using the camera before charging.

Minolta Co., Ltd.

美能達 DiMAGE 7/DiMAGE 5

有關電池事項

建議數碼相機配合Ni-MH電池使用。

有關使用1,600mAh Ni-MH電池的拍攝表現，可拍攝約200張照片：根據美能達標準測試方法：電子觀景器(EFV)開啟、LCD顯示屏關閉、沒有即時重播、50％照片同時使用閃燈。可拍攝的影像數目會根據操作情況而有所不同。

雖然本產品附送鹼性電池，但本產品的表現卻會因使用鹼性電池而受到限制。鹼性電池只適用於測試照片，或當沒有Ni-MH電池、外置美能達電池組件或AC交流電變壓器提供時使用。當使用相機拍攝前，請先將Ni-MH電池完全充

由於IBM Microdrives比Compact Flash記憶卡需要更大的電量，故此，當使用IBM Microdrives時，建議使用Ni-MH電池。

當使Ni-MH電池：

- 請使用乾布抹去電池端子上的污垢或塵埃。因為精密的電腦系統，相機主要負責監察電量情況。若電池端子不潔時，相機會出現錯誤的低電量警告。若電池表現不尋常地降低，請以潔淨的乾布輕輕抹拭電池端子。
- 若Ni-MH電池經常在沒有完全放電的情況下進行充電，電池的表現會因此而下降。在充電前，必須將Ni-MH電池完全放電。

Minolta DiMAGE 7 / DiMAGE 5

UTILISATION DES PILES

L'utilisation d'accus NiMH est recommandée pour les appareils photo numériques. Il est possible de réaliser jusqu'à 200 photos avec une capacité de 1600 mAh NiMH : selon la norme de test Minolta : viseur activé, écran ACL éteint, flash utilisé pour 50 % des cas, pas de lecture instantanée. Le nombres d'images peut varier en fonction de la marque des batteries ou des conditions de prise de vue.

Les piles alcalines qui sont fournies avec l'appareil ont une autonomie limitée. Nous conseillons de les utiliser lorsque les accus sont déchargés et de manière momentanée. Nous vous recommandons l'utilisation du pack d'alimentation externe ou d'adaptateur secteur. Il est nécessaire de recharger les accus avant toute utilisation de l'appareil.

Les cartes Microdrive consomment plus d'énergie que les carte CompactFlash. Nous recommandons de toujours utiliser des accus de type NiMH avec les cartes Microdrive.

Lorsque vous utilisez des accus NiMH :
- Nettoyer les contacts des accus avec un chiffon propre et sec pour enlever toutes particules de résidus. Suite aux évolutions des systèmes électroniques, l'appareil surveille en continu le niveau de puissance d'alimentation. Si les contacts des piles sont sales, l'appareil peut donner une indication de piles faibles. Si l'autonomie de l'appareil est anormalement faible, nettoyer les contacts piles avec un chiffon sec.
- La capacité des accus NiMH peut diminuer s'ils sont trop souvent rechargés avant d'avoir été complètement déchargés. Il est nécessaire de retirer les accus de l'appareil avant de les recharger.

Minolta DiMAGE 7 / DiMAGE 5

AVISO SOBRE LAS PILAS

Se recomienda el uso de pilas Ni-MH para cámaras digitales. El rendimiento de grabación con pilas 1,600mAh Ni-MH es de aproximadamente 200 fotogramas, basado en los métodos de prueba estándar de Minolta: EVF conectado, monitor LCD apagado, sin repetición instantánea, con utilización de flash en el 50% de los fotogramas. Debido a las diferentes condiciones operativas y las marcas de pilas, el número de fotogramas grabados puede variar.

Aunque se suministran pilas alcalinas con este producto, su rendimiento será limitado; utilice las pilas alcalinas solamente para fotogramas de prueba o cuando no estén disponibles las pilas Ni-MH, o el cargador de pilas externo de Minolta o el adaptador a red AC. Cargue completamente las pilas Ni-MH antes de utilizar la cámara.

Los Microdrives de IBM requieren más energía que las tarjetas CompactFlash. Utilice siempre pilas Ni-MH con los Microdrives de IBM.

Cuando utilice pilas Ni-MH:
- Limpie ambos terminales de la pila con un paño seco para eliminar cualquier suciedad o residuo. Debido a su sofisticado sistema informático, la cámara controla de forma crítica los niveles de energía. Si los terminales de la pila están sucios, puede que la cámara indique un aviso falso de batería baja. Si el rendimiento de la pila resulta inusualmente bajo, limpie los terminales de la pila con un paño limpio y seco.
- El rendimiento de la pila Ni-MH bajará si las pilas son recargadas a menudo antes de que se agote su carga. Utilice su cámara hasta que se descarguen completamente las pilas Ni-MH antes de proceder a su recarga.

Minolta Co., Ltd.